



fh92745e

「愛燦燦」「川の」と並んで、クラシック出身の歌手たちが、好んで唄う曲。確かに、歌謡曲でありながら、セミ・クラシックのような、美しくたおやかなメロディー。数多の技巧を、さりげなく凝らして、嫋嫋と朗々と唄いあげる、ひばり。他を圧倒する、歌唱力である。歌謡史研究家・長田暁二氏によると、この曲は、ひばり没後に、急上昇して、表舞台によく出るようになったとの事である。

(詞・曲：米山正夫)

りんごのふるさとは 北国の果て うらうらと---晴れた日は 晴れた日は 船がゆく 日本海
いつの日も---

(収集プロフィール)

言うまでもなく、戦後最大の歴史的スーパースター、美空ひばり。彼女の存在は昭和歌謡史にとつともなく大きな足跡を残したと同時に、激動の時代を生き抜いた日本国民の数少ない心のよりどころであった。その功績は、大きい。

49年、敗戦の喧騒のさなか弱冠12歳の天才少女、美空ひばりは「河童ブギウギ」にて登場。笠置シズ子の「東京ブギウギ」を下敷きとした、このデビュー曲は残念ながらヒットに繋がらなかった。がしかし、同年公開された初主演映画『悲しき口笛』の同名テーマ曲が爆発的ヒットを記録し、一躍スターダムへのし上がる。

以降、ドメスティックな色合いの演歌歌謡楽曲を着実にヒットさせていく一方で、ジャズ/マンボ/ブルース/ロックンロール/ロカビリーなど、いわゆる洋楽テイストを大胆に導入し消化した、秀逸極まりない歌謡ナンバーを数多く世に残していった。また、50年代半ばより、江利チエミ、雪村いづみと共に“三人娘”として活躍。以後、脈々と受け継がれるイメージ戦略先行型三人編成アイドル・チームの礎となっていたのは言うまでもなからう。

89年永眠。多くの日本国民が悲しみに暮れた。

*「ファン・リクエスト集」ひばり節のコブシは、演歌とは異質の伝統的な邦楽のコブシだったと確認できる「かもめ白波」「涙の白桔梗」などが聴ける。意外なほど凝ったサウンド創りも見するはず。

*美空ひばりが歌ったリズム歌謡を集めている。笠置シズ子の真似でデビューしているだけに、彼女のビート感は逸品だ。演歌などではなく、リズム歌謡の中でひばりは再評価されるべきだし、同時にもっと評価されていい米山正夫の作品との相性の良さを確認。

「祈り」軍歌・戦時歌謡13曲+オリジナル3曲で、幼少期を戦時下に過ごした彼女の「平和」への想いをまとめた企画作。空襲など自らの悲惨な体験をベースに、死んでいった者への温かな眼差しを込めつつ、あの時代への嫌悪とある種の郷愁を見事に唄い上げている。

美空ひばりの全オリジナル曲のなかで、その人気度は、25位前後であろう。これは、ひばりがまだ存命中、あるテレビ局（日本テレビ？）が実施したアンケート結果からの推定である。そのときは、27位前後だったが。もうひとつの、初期の頃の名曲「青い海原」が、20位前後だったと思う。

ヨコハマを舞台にした、お得意のマドロスもの。子供の頃、この唄がラジオや商店街から流れてくると、私はすぐに、青い海と、明るい洒落た港町を脳裡に描いた。

紅いランプが マストに灯りゃ 南京街に 夜がくる---散るよ散る散る 木蓮の花 いとしい人の---船は出てゆく メリケン波止場 けむりが白く---

大人の恋愛感情は、まったく分からなかったが、別れてゆくことの切なさや、甘い痛みは、ほのかに感じられて、心に残った。この唄は、明るい港町を舞台に、素敵な恋を描いた、現在までの全大衆歌謡のなかで、常に上位をキープする価値をもった唄であると思う。

（ウィキペディアより：1）

美空ひばり（1937（昭和12年）5月29日 - 1989（平成元年）6月24日）は、数々のヒット曲を歌い、銀幕スターとして多数の映画に出演した、昭和の歌謡史を代表する日本の歌手であり、女優。死後、女性として初の国民栄誉賞を受賞した。横浜市磯子区滝頭出身。愛称は御嬢（おじょう）。精華学園高等部卒業。本名は加藤和枝（かとうかずえ）。

略歴

幼少期から三人娘の時代

神奈川県横浜市磯子区滝頭の魚屋で父・加藤増吉、母・喜美枝の長女として生まれた。幼い頃より歌の好きな両親の影響を受けひばりは歌謡曲・流行歌を唄うことの楽しさを知る。

1943年6月、第二次世界大戦の戦時中に父・増吉が出征となり壮行会が開かれ、ひばりは大好きな父を思い『九段の母』を唄った。壮行会に集まった者達がひばりの歌に感銘し、涙する姿を目の当たりとした母・喜美枝は、ひばりの歌唱力に人を引き付ける可能性を見出して、地元の横浜近郊からひばりの唄による慰問活動を始める。

終戦間もない1945年、喜美枝がひばりを引き続き唄わせるために八方手を尽くし、私財を投じて自前の「青空楽団」を設立。近所の公民館・銭湯に舞台を作り、ひばり8歳のときに美空和枝の名で初舞台を踏む。

1946年、NHK「素人喉自慢」に出場し、『リンゴの唄』を歌うが、鐘一つで不合格。同年9月、横浜市磯子のアテネ劇場で初舞台。

1947年、横浜の杉田劇場に漫談の井口静波、俗曲の音丸の前座歌手として出演。以来、この一行と地方巡業するようになる。

1948年2月、ひばりは神戸松竹劇場に出演し、山口組三代目田岡一雄に挨拶に出向き、気に入られる。同年5月、浪曲歌謡漫談で有名な川田義雄（のちの川田晴久）にその才能を見込まれ、川田一座に参加。（ひばりは師匠といえるのは父親と川田先生だけと後に語っており、こぶしは川田節から学んだと言う）そこで当時のスター歌手笠置シズ子の物真似（歌真似）が非常にうまく

ベビー笠置といわれ拍手を浴びる。純粋に「かわいい」と見る層と同時に、「子供が大人の恋愛の歌を歌うなんて」という違和感を持つ層も存在した。詩人で作詞家のサトウハチローが「近頃、大人の真似をするゲテモノの少女歌手がいるようだ」と、批判的な論調の記事を書いたことは有名。ひばりはこの記事長く保存しサトウに敵愾心を持っていたと言われるが、後にサトウと和解している。同年9月、喜劇役者・伴淳三郎の劇団・新風ショウに参加し、同一座が舞台興行を行っていた横浜国際劇場と準専属契約を結ぶ。この時、演出していた宝塚の岡田恵吉に母親が芸名をつけてくれるように頼み、美空ひばりと命名してもらう。横浜国際劇場の支配人だった福島通人がその才能を認め、マネージャーとなり、舞台の仕事を取り、次々とひばり映画を企画することに成功する。

1949年1月、日劇のレビュー『ラブ・パレード』（主役・灰田勝彦）で笠置の『セコハン娘』、『東京ブギウギ』を歌い踊る子供が面白がられ、3月には東横映画『喉自慢狂時代』（大映配給）でブギウギを歌う少女として映画初出演。8月には松竹『踊る竜宮城』に出演し、主題歌『河童ブギウギ』でコロムビアから歌手として正式にレコードデビュー(7月30日)を果たす。続いて『悲しき口笛』が大ヒット。同名の映画も松竹で製作され、わずか12歳で映画主演を果たした。1950年、川田晴久と共に二世部隊記念碑建立基金募集公演のため渡米。帰国してすぐに二人の主演で『東京キッド』に出演。同名の主題歌もヒット。

1951年、松竹『あの丘を超えて』で人気絶頂の鶴田浩二が扮する大学生を慕う役を演じる。実生活でも鶴田を慕い、ひばりは鶴田をお兄ちゃんと呼ぶようになった。同年5月新芸術プロダクション(新芸プロ)を設立。代表取締役社長が福島通人、役員にひばり、川田晴久、斎藤寅次郎となる。同年、嵐寛寿郎主演の松竹『鞍馬天狗・角兵衛獅子』に杉作少年役で出演。以後これを持ち役とする。

1953年、『お嬢さん社長』に主演。喜美枝は、ひばりを「お嬢」と呼ぶようになり、その後、周りもそう呼ぶように。中村錦之助を歌舞伎界からスカウトして映画「ひよどり草紙」で共演。錦之助は翌年、東映時代劇の大スターになる。この後、新人男優はひばりの相手役となることで世間に認知され、大スターとなるジंकスが生まれる。市川雷蔵、東千代之介、大川橋蔵、高倉健らもそうである。

1954年にはNHK紅白歌合戦に初出場。1955年には江利チエミ、雪村いづみとともに東宝映画『ジャンケン娘』に出演したことを契機に、「三人娘」として人気を博した。また、松竹・東映製作映画を中心に映画にも多数出演し、歌手であると同時に映画界の銀幕のスターとしての人気を得た。

1956年、ジャズバンド小野満とスイング・ビーバーズの小野満と婚約。その後、この婚約は破棄。

1957年1月、浅草国際劇場にてファンに塩酸を顔にかけられる。紅白歌合戦に3年ぶりに出場し、渡辺はま子、二葉あき子らベテラン歌手を抑えて初めて紅組トリを務めあげ、当時のひばり・20歳の青春時代には既に芸能界に置ける黄金期を迎えていた。

1958年7月、東映と映画出演の専属契約を結ぶ。同年8月、ひばりプロダクションを設立し、役員に山口組三代目組長田岡一雄が就任。『ひばり捕物帳』シリーズや『べらんめえ芸者』シリーズ

、『ひばりの佐渡情話』（1962年）など。続々ヒット映画にも恵まれる。

1960年には『哀愁波止場』で日本レコード大賞歌唱賞を受賞、歌謡界の女王の異名をとるようになった。

小林旭との短い結婚・離婚後

1962年、日活の人気スターであった俳優・小林旭と結婚し、一時的に仕事をセーブするようになる。しかし、実母にしてマネージャーである加藤喜美枝や周辺関係者が二人の間に絶え間なく介入し、結婚生活はままならず、またひばり自身も歌に対する未練を残したままだった為、仕事を少しずつ再開し、小林が求めた家庭の妻として傍に居て欲しい願いは叶わず、話し合いの末別居後1964年、わずか2年あまりで小林と離婚した。尚、小林旭の著書によれば、実際には2人は入籍しておらず、戸籍上、ひばりは生涯独身であった。

離婚直後に発表した『柔』は翌1965年にかけて大ヒット、180万枚というひばりとしては最大のヒット曲となる。この曲で1965年、日本レコード大賞を受賞。1966年には『悲しい酒』（元々はひばりのために書かれた曲ではなく、1960年に男性演歌歌手の北見沢淳が歌った曲）、1967年には『芸道一代』、グループサウンズジャッキー吉川とブルーコメッツとの共演で話題となった『真赤な太陽』と、彼女の代表作となる作品が次々と発表され、健在ぶりを示した。

街のサンドイッチマン | 鶴田 浩二

「赤と黒のブルース」「傷だらけの人生」と、この曲。まさに、ヤクザ・軍事物以外の、鶴田を代表する3曲といえよう。どれも違う味わいがあり、すぐれた名曲である。「赤と---」は、大人の世界の恋唄、「傷---」は、アウトロー的視線で信条を述べ、当時の世間（社会）へプロテクト（もの申す）している。そしてこの曲は、市井の（現在の）フリーターのような男の、心の物語である。切なく哀しい身の上であるのに、この男はあくまで前向きなのだ。

（作詞：宮川哲夫 作曲：吉田正 1953年：歌唱・鶴田浩二）

ロイド眼鏡に 燕尾服 泣いたら燕が 笑うだろ ----俺らは 街のお道化者 とぼけ笑顔で 今日も行く

（収集プロフィール）

鶴田 浩二（1924~1987）は、日本の俳優、歌手。本名・小野榮一。静岡県浜松市出身。戦後派のアプレゲールとして登場し、抜群の風貌と時々垣間見せる甘い表情と陰りで、一躍トップスターになった。日本を代表する映画スターとして長らく君臨し、歌手としての人気も高かった。女優の鶴田さやかは実娘。俳優の北斗学は、若い頃の恋人との間に生まれた実子だが弟と称していた。

これぞ男の中の男。不器用だが一徹な男を演じさせたら右に出るものがいなかった。特に任侠映画でのハマりっぷりは、役がそのまま素の姿にダブって見えてしまうほど。鶴田浩二がいなければ高倉健や渡辺謙、竹内力は存在しなかったといっても過言ではない。

歌手としてもそのイメージを保ち、義理や人情で筋を通すことをテーマにした作品が多い。昭和45年に発表された「傷だらけの人生」。「古い奴だと思いでしょがー」で始まるこの作品は、不条理な世の中で喘ぐ中年男性から爆発的な支持を獲得、また、左手を耳にあてながら歌う独特のポーズも一世を風靡した。惜しくも昭和62年に亡くなってしまったが、彼が「傷だらけの人生」から送ったメッセージは、平成の世にも有効だ。「今の世の中、右も左も真っ暗闇じゃござんせんかー」。

少年時代

14歳の時に、俳優に憧れ当時スターであった高田浩吉の劇団に入団。19歳で関西大学専門部商科に入学するが（この学歴についても不明な点が多い）、その年に学徒出陣令により徴兵。終戦まで海軍航空隊に所属し、その体験が人生に多く影響を及ぼした。また22歳の時に薬の副作用で、左耳が難聴になってしまう。それが鶴田の独特の歌唱スタイルを生む。

トップスターへ

1948年、高田浩吉と大曾根辰夫監督の尽力で松竹入りしたが、最初は大部屋に入れられた。いくつかの映画に端役で出演したが、すぐに頭角を現し、長谷川一夫主演の松竹『遊侠の群れ』で本格デビュー。1949年、「フランチェスカの鐘」で初主演。佐田啓二、高橋貞二と共に松竹青春三羽鳥と謳われヒットを連発。

1950年代に入っても甘い美貌と虚無の匂いを漂わせスター街道を上り続け、芸能雑誌「平凡」の人気投票で、2位の池部良、3位の長谷川一夫を大きく引き離しての第1位になる。プロマイドの売上も1位となる。甘い二枚目からサラリーマン、侍、軍人、殺し屋、ギャングに至るまで幅広くこなす。

1952年には戦後の俳優の独立プロ第1号となる新生プロを興した。SKD（松竹歌劇団）のトップスター、ターキーこと水の江滝子（後に石原裕次郎を発掘しプロデュースした）らが所属タレントとなった。恋人と噂された岸恵子と共演した戦後初の海外ロケ映画「ハワイの夜」（新生プロ制作）も大ヒット。戦後最大のロマンスといわれた二人だが、岸が所属する松竹はそれを許さなかった。鶴田は自殺未遂事件を起こす。同年、「男の夜曲」で歌手デビュー。歌手としてもヒットを飛ばし戦後の日本を代表する大スターとなっていく。

襲撃事件

*2月24日に警察は徳島県の競輪場で山本を逮捕。3月17日。山口組若頭安原政雄に付き添われて、梶原、益田、清水、尾崎の4人が自首。4月2日、姫路の旅館に身を潜めていた西本を逮捕。西本ははじめ容疑を否定したが、「田岡組長から鶴田襲撃の命令を受けた」と自供。4月18日警察は、田岡の逮捕状を取り、神戸の山口組本家を急襲したが、田岡は既に神戸から消えていた。

その夜、田岡を鶴田浩二襲撃事件の首謀者として全国指名手配した。4月24日、興行界のドン永田貞雄に伴われ田岡は大阪玉造署に出頭。

*後に田岡は、鶴田と会う機会があったが、田岡は脅しや暴力に屈しない鶴田の筋を通す生き方を認め、鶴田と親交を結ぶこと

となっていく。「三代目の前で堂々としているのは鶴田ぐらいのもの」と周囲が驚くほどであった。

新境地

凄惨な事件の後も人気は衰えず、**1953**年夏、「野戦看護婦」（児井プロ制作・新東宝配給）ではたった**1**日の拘束で出演料が**300**万円という日本映画史上最高額のギャラを得る。これまで松竹との契約ギャラが**1**本につき**180**万円で**45**日間拘束であった。ちなみにこの年の映画館の入場料は**80**円であった。

***1955**年、大映で山本富士子と共演した「婦系図 湯島の白梅」（衣笠貞之助監督。泉鏡花の『婦系図』を映画化）での美しく哀しい恋愛シーンは今も語り継がれている。

***1963**年、「人生劇場 飛車角」に主演し大ヒットさせる。ここから世に言う任侠映画ブームが始まる。この大ヒットを機にヤクザ物の映画会社に変貌を遂げ、成功。鶴田も任侠路線のトップスターとして高倉健とともに多くのやくざ映画に出演。本職も唸らすその男の情念は熱狂的な支持を得た。

***1970**年代に入って『傷だらけの人生』がヒット。映画化もされた。左手を耳に添えて歌う独特のスタイルは、よく知られている。第二次世界大戦中に海軍軍人として多くの戦友を失ったことから、戦争の悲劇に対するモットーは人一倍であり、それが役者人生の原動力にもなっていたといっている。

*好き嫌いが激しく屈折したプライドから、周囲との衝突や暴言も多かったとされる。

街のサンドイッチマン II 鶴田 浩二

戦没者への思い

若き特攻隊員の苦悩を描いた「雲ながるる果てに」（家城巳代治監督、1953）に主演して以来、特攻隊の出身、特攻崩れだとしていたが、実際には元整備兵であり、出撃する特攻機を見送る立場だった。黙々と働いては、巨額の私財を使って戦没者の遺骨収集に尽力し、日本遺族会にも莫大な寄付金をした。この活動が政府を動かし、ついには大規模な遺骨収集団派遣に繋がることとなった。また、各地で戦争体験・映画スターとしてのなどの講演活動も行った。生涯を通じて、亡き戦没者への熱い思いを貫き通した。これらの行動に、当初鶴田を冷ややかな目で見ていた戦友会も心を動かされ、鶴田を「特攻隊の一員」として温かく受け入れた。

特攻隊の経歴については、周囲の人間が宣伝の一環で立ち上げ、それについて本人が積極的に否定せず、それに乗っかっただけというのが実情であろう。

晩年と没後

晩年に癌細胞が発見され、1987年6月16日、肺ガンのため62歳で死去。

人物像

*生前の右派的言動、また多くの軍歌を歌ったことから彼を右翼と揶揄するものもいるが、強いて言うならば反戦右翼ということになる。戦争責任者を憎むこと甚だしく、東條英機は切腹するべきであった。とまで、明言している。右翼の宣伝車による街頭行動の際、彼の曲が定番となっている。

出演作品

- 1948.12.21 遊侠の群れ 松竹京都
- 1949.05.09 フランチェスカの鐘 松竹京都
- 1950.10.14 エデンの海 松竹京都＝綜芸プロ
- 1951.11.01 あの丘越えて 松竹大船
- 1953.01.09 ハワイの夜 新東宝＝新生プロ
- 1954.04.21 愛染かつら 大映東京
- 1955.09.28 婦系図 湯島の白梅 大映東京
- 1959.10.06 独立愚連隊 東宝 ... 馬賊の兄妹ヤン亜東
- 1960.04.10 電送人間 東宝 ... 桐岡勝
- 1960.10.16 半七捕物帖 三つの謎 東映京都
- 1961.05.03 地獄に真紅な花が咲く ニュー東映東京
- 1962.09.09 三百六十五夜 東映東京
- 1963.03.16 人生劇場 飛車角 東映東京 ... 飛車角
- 1963.10.20 次郎長三国志 東映京都
- 1965.04.18 関東流れ者 東映京都 ... 大谷清次郎
- 1966.04.23 兄弟仁義 東映京都 ... 藤上栄次郎
- 1967.06.03 あゝ同期の桜 東映京都
- 1968.01.03 人間魚雷 あゝ回天特別攻撃隊 東映京都 ... 大里史郎
- 1968.10.25 人生劇場 飛車角と吉良常 東映東京
- 1971.07.03 傷だらけの人生 東映京都 ... 大島清治
- 1972.04.14 ギャング対ギャング 赤と黒のブルース 東映東京
- 1972.12.30 昭和残侠伝 破れ傘 東映東京

1974.09.14 あゝ決戦航空隊 東映京都 ... 大西瀧治郎

1984.11.17 修羅の群れ 東映京都 ... 横山新二郎

歌

同期の桜

街のサンドイッチマン (作詞：宮川哲夫 作曲：吉田正)

傷だらけの人生 (作詞：藤田まさと 作曲：吉田正)

ラバウル海軍航空隊

赤と黒のブルース (作詞：宮川哲夫 作曲：吉田正)

加藤隼戦闘隊

1964年、発表。私が、子供のころ、ニコヨンという言葉があった。当時の、日雇い労働者の、基本的な1日の賃金、254円を、表したものだという。（この金額は、2010の物価水準に直すと、控えめに見ても、20倍程度になると思う。）この曲の中の、母親のような立場の人が、私の周囲や町内にも、何人かいた。たしか、国による、戦後の失業対策の、ひとつであったらしい。

働く土方の あの唄が 貧しい土方の---泥にまみれて 日に灼けながら 汗を流して---

舞台やテレビで、美輪は、いまでも元気に、活躍している。近年、泉谷しげる、桑田佳祐、米良美一、榎原敬之など、若手のアーティストたちが、自分のアルバムに、この曲を収めている。これは、嬉しいことだ。ポップにアレンジして、どんどん若者の耳に、届けてほしい。いちど耳にはいったら、歳を取ればとるほど、この唄のもつ、意味と意義は、重くなってくるのだから。

（収集プロフィール）

美輪 明宏（みわ あきひろ、1935年5月～ ）は、日本の歌手、俳優、演出家、タレント。長崎県長崎市出身。本名：丸山 明宏、幼名 臣吾（しんご）。海星中学を経て国立音楽大学付属高校中退。愛称はマルさん。1971年までは本名の丸山 明宏名義で活動していた。また、曲の作者名は本名名義である。

経歴

長崎時代

美輪の実家は長崎市内でカフェを経営していた（その規模や華美さは当時を知る人達の語り草であったという）。美輪が幼い日を過ごした当時の長崎は、昭和モダンの最盛期で非常に賑わいがあり、また、竹久夢二の長崎十二景そのままに、様々な国籍を持った人々が幻の様に暮らす美しい街だった。

しかし、当時の体制の右傾化・軍国主義化、さらには長崎市への原子爆弾投下が、美輪をはじめ、一家を長年苦しめることとなる。父は“敵性文化（を商売にすること）は時局にそぐわぬ”と言われ、カフェを閉店せざるを得なくなり、金融業に転業した。幻の様に美しかった長崎も、原爆投下により本当に幻と化してしまう。当時10才の美輪は、爆心地に近い父方の実家に居たが、奇跡的に無傷で助かっている。しかし、原爆で父の貸付先が相次いで破産・他界したため、美輪一家は貧乏生活を余儀なくされ、加えて、美輪の父の後妻（美輪は2歳の時、病気で母親を亡くしたが、父の後妻は美輪にとっては優しい養母であった）が他界し、後々妻も失踪する（後々妻は父の連れ子である美輪たちとも不和だったという）などの不幸に見舞われ、美輪は幼い異母弟達と辛い日々を送った。

終戦後、11歳の時に観た映画に出演していた加賀美一郎のボーイソプラノに衝撃を受け、程なくして声楽とピアノのレッスンを受け始める。海星中学では同期に西岡武夫がいた。エンリコ・カルーソーやベニャミーノ・ジーリの様なオペラ歌手、コンサート歌手を夢見て、高校進学のため15歳で上京する。

歌手 丸山明宏

1952年、17歳の時に銀座のシャンソン喫茶『銀巴里』と専属契約し歌手デビュー。

1957年、フランスのシャンソン『メケ・メケ』を日本語でカバーし、大ヒットとなる。元禄時代の小姓の衣装を洋装に取り入れ、レース地のYシャツなどを身に纏うユニセックスファッションと、「天上界の美」と三島由紀夫が絶賛した美貌で、マスコミから「神武以来の美少年」、「シスターボーイ」と評され一世を風靡する。

*三島とのエピソード「丸山君。君には一つ欠点がある。それは俺に惚れないことだ」

「衣装革命」と称し、始めたこの活動も当初は世間から冷遇され、全国紙に「丸山明宏を芸能界から追放せよ」と言った内容の批判記事が掲載されたり、見も知らぬ人から石やビール瓶のふたを投げ付けられもしたと言う。(しかし近年ではヴィジュアル系の元祖「美輪様」として大いにリスペクトされ、ゴスロリ系雑誌にインタビューが掲載されるほどである)

『メケメケ』以来のブームは1年程で沈静化し、その間に雑誌を通じて同性愛者である事を公表（カミングアウト）した事や、旧来のシャンソンのイメージ（美輪曰く 蝶よ花よ、星よ月よに終始する「おシャンソン」）に無い、自ら訳した原詞に近い生々しい内容のシャンソンを歌った事に対する反発もあり人気は急落する。

そんな逆風の中、作詞作曲活動を開始。今もって美輪の主要なレパートリーとなっている『うす紫』、『金色の星』、『ふるさとの空の下』等はこの頃、既に作詞作曲していた。しかし、歌い手が自ら作詞作曲した歌を唄う事には当時の聴衆からも歌謡界からも理解を得られず、レコード化すらできなかった。美輪曰く「人様の情けに生かされた」不遇の時代が続いた。しかし1963年には中村八大らの助力により日本初の全作品自らの作品によるリサイタルを開く等、徐々に理解者が現れ始め、翌1964年には『ヨイトマケの唄』を初めてステージで披露する。1966年、前年の内にレコード化されたヨイトマケの唄(『ふるさとの空の下』とのカップリング)が注目され人気再燃。こうしたことから「日本のシンガーソングライターの元祖」と言われている。

俳優 丸山明宏

1967年、寺山修司の演劇実験室・劇団天井桟敷旗揚げ公演で、寺山が美輪のために書き下ろした『青森県のせむし男』や『毛皮のマリー』に主演。

さらに1968年、三島由紀夫に熱望され舞台『黒蜥蜴』（くろとかげ、原作・江戸川乱歩、戯曲化・三島由紀夫）に主演し、歌舞伎、新派の女形に続く現代女形の創始者として高い評価を得る。この『黒蜥蜴』は深作欣二により同年、映画化され、舞台同様にヒットした。また1990年代初頭にはニューヨーク、パリなどでこの映画が上映され、『ニューヨーク・タイムズ』誌にも大々的に取り上げられる程のヒットとなり、ニューヨークでは美輪を英語でトカゲを意味するリザードにちなんで「リズ」と呼んでいた（「リズ」は元来エリザベス・テイラーの愛称）。

『黒蜥蜴』以降も『椿姫』、『マタ・ハリ』、ジャン・コクトー原作『双頭の鷲』（王妃の演技に対し、日本初の女王役者誕生と賞賛された）といった舞台や『黒薔薇の館』、『雪之丞変化』等の映画・テレビドラマでの主演を続ける。また1970年からはTBSラジオ「ラジオ身の上相談」を担当するようになったが、その回答の的確さから芸能人が担当する人生相談としては異例の25年という長期に渡り続いた。

美輪明宏に改名

1971年、読経中に『美輪』の字が浮かび、神様が下さった名前だと思い、姓名判断を調べると完全無欠な画数だったため丸山明宏から美輪明宏に改名。

歌手としては1984年にパリで、1987年にはパリ、マドリッドでリサイタルを行い『ル・モンド』、『リベラシオン』を始め多数の新聞・雑誌に紹介・絶賛された。

1991年の映画『黒蜥蜴』のニューヨークでのヒットなどにより、この頃から美輪が言う「メケメケ、よいとまけ、黒蜥蜴に続く四回目のブーム」の時期が訪れ、テレビやCM等への出演が増え、リサイタルのチケットも入手しづらい状況に。

2005年、『オーラの泉』（2010・終了）が始まり、「愛の伝道師」として人々に生きる知恵を伝えている。そして現在、芸能生活で通算五回目のブームの時期になっている。

人柄

かつて実家が料亭やカフェ・銭湯など手広く経営しており、美輪はそこを遊び場として育った。そして、そこでボーイや女給・客達により練り広げられる様々な人生模様を見る内、人を見る目が自然に養われたという。

貧乏を経験していることから、駆け出しの役者などの面倒見がいい。秋野太作は新人のころ美輪に「あなたおなかすいてるでしょう」いわれうな重をおごってもらったことがある。渡辺えり子は「化粧をしないブスは漬物石にもならないわよ」と美輪に言われた上に楽屋で美輪に化粧を施されたことがある。

本人曰く「天草四郎ならびに神功皇后の生まれ変わり」であるという。またフランス公演の際、インタビュー中「私の前世はサラ・ベルナール」と発言し現地の記者から喝采を浴びたと言う。地元の新聞・雑誌にBrava Miwaと賛辞とともに紹介された。

近年は『オーラの泉』の番組の影響もあって、非常に真面目な人物として認識されがちだが、実際にはウィットとユーモアにあふれた人物でもある。

戦争経験者ゆえ、戦争に関するものは悉く嫌悪する。

交友関係

銀巴里時代から現在まで、数多くの作家（三島由紀夫、江戸川乱歩、澁澤龍彦、吉行淳之介、瀬戸内寂聴、なかにし礼など）や画家（東郷青児、中原淳一、横尾忠則など）、演劇人（17代目中村勘三郎、18代目中村勘三郎、杉村春子、初代水谷八重子、寺山修司、蜷川幸雄、坂東玉三郎など）、作曲家（池辺晋一郎など）、歌手（フレディ・マーキュリー、吉井和哉など）と稀有な才能を持った芸術家との交流の経験や数々の芸術に触れたことが現在の幅広い活動につながっていると見える。

大変義理堅い人物としても知られ、マネージャー、舞台スタッフ、バックバンドのメンバー、レコード会社の担当者など、30年、中には40年以上の関わりを持つ関係者が大半である。

主な出演作

舞台

青森県のせむし男

近代能楽集

黒蜥蜴

毛皮のマリー

双頭の鷲

椿姫

映画

黒蜥蜴 1968年 深作欣二監督 松竹 黒蜥蜴（緑川夫人）

黒薔薇の館 1969年 深作欣二監督 松竹 藤尾竜子

ハウルの動く城 2004年 宮崎駿監督 スタジオジブリ 荒地の魔女

著書

紫の履歴書 水書坊 1992

その他

* 講談社の月刊誌「現代」で、2007年9月号から2008年1月号までノンフィクション作家の豊田正義が美輪明宏の評伝を連載した。タイトルは『オーラの素顔』。美輪の少年時代から始まり、赤木圭一郎との哀恋、三島由紀夫や寺山修司との芸術的交流、江原啓之との出会い、『オーラの泉』の裏話まで、美輪の人生が精緻な取材で描かれており、単行本化されている。

主な曲

1. メケ・メケ/ジェルソ・ミーナ（1957年）
2. ヨイトマケの唄/ふるさとの空の下（1965年）
3. 昼メロ人生/砂漠の青春（1983）
4. ヨイトマケの唄（1998）
5. ヨイトマケの唄/いとしの銀巴里/人の気も知らないで（2003）

アルバム

白呪（1975年）

企画アルバム

1. ヨーロッパ・ヒットをうたう（1992）
2. 昭和の名歌を唄う（1995）
3. 日本の心を歌う（1999）
4. 《愛》を歌う（2001）
5. 古賀メロディーを唄う（2002）
6. 日本の詩を唄う（2006）

私はこの曲が、とても好きなのだが、取り上げるのをためらっていたのは、クラシックからの引用が多いからである。引用した場合は、それを明示するのが儀礼と思う。それさえ気にしなければ、この曲は稀有な名曲である。

この曲が街に流れていた頃、私は悩み多い日々を送っていた。というよりも、常に悩みに覆われ、果てしなく憂鬱な日々を、やっとこさ生き抜いていた。そんな辛く苦しい日々、この曲は、大きな慰めとわづかな希望の光を与えてくれていた。

(詞・山上路夫 曲・森田公一)

若葉が街に急に萌えだした ある日私が知らないうちに あなたのことで 今はこの胸が---愛はよろこびそれとも涙 誰も知らないことなのね 若葉が風とささやく街を 愛を心に私はゆくの---

(プロフィール)

天地 真理 (あまちまり、1951~) は、埼玉県さいたま市 (旧大宮市) 出身の歌手である。うさぎ年生まれ。国立音楽大学附属中学校・高等学校音楽科卒業。

1970年代前半に一世を風靡し国民的アイドルとなる。後に続くアイドル歌手の基本スタイルを作った。キャッチフレーズは「あなたの心の隣にいるソニーの白雪姫」。

来歴

1971年に放送されたTBS系の人気番組『時間ですよ』(第2期,第3期)の従業員役(川口昌の次のレギュラー)のオーディションを受け、西真澄と一緒に最終審査まで残ったが、合格したのは西真澄であった。それを見た主演の森光子が彼女を出演させることを提案、『時間ですよ』に堺正章の憧れる「隣のまりちゃん」役として出演し、一躍脚光を浴びた。

同年10月にアイドル歌手として「水色の恋」でデビューし大ヒットした。以後、「ちいさな恋」、「ひとりじゃないの」、「虹をわたって」、「ふたりの日曜日」、「恋する夏の日」、などの一連の大ヒット曲を飛ばし、南沙織、小柳ルミ子とあわせて三人娘と呼ばれるようになった。ヒット曲は主に『森田公一とトップギャラン』で知られる森田公一が手掛けていた。オリコンシングルチャートでは、5曲が1位を取っており、この記録は後に松田聖子に破られるまで、女性ソロシンガーの最多記録であった。70年代初期の天地の人気は絶大なるものがあり正にスーパー・アイドルであった。

1972年、松竹映画『虹をわたって』に主演。

1972年から1975年にかけて、TVで冠番組の『真理ちゃんシリーズ』(TBS系列、毎週木曜日19:00-19:30)をもつ。「真理ちゃんとデート」(1972年10月5日-1973年3月29日)、「となりの真理ちゃん」(1973年4月5日-9月27日)、「とび出せ!真理ちゃん」(1973年10月4日-1974年3月28日)、「アタック!真理ちゃん」(1974年4月4日-9月26日)、「はばたけ!真理ちゃん」(1974年10月3日-1975年3月27日)の5シリーズをリリース。

1972年、第14回日本レコード大賞大衆賞受賞

1973年、松竹映画「愛ってなんだろ」に主演。

1973年のプロマイド年間売上枚数が女性部門でトップになる。ブームの頃は、人気アイドルとし

てキャラクターグッズ（文房具や玩具）が多数登場、さらにはブリヂストンからは自転車「ドレミ真理ちゃん」なども発売された。今では当たり前のアイドルグッズのはしり。

1978年、甲状腺の病気で一時芸能界から離れ（多忙すぎて精神に異常をきたしていたとも言われる）、1979年に復帰するがヒット曲が出ず自然消滅。1982年9月に再々デビューした。フジテレビ系の『オレたちひょうきん族』にレギュラー出演。

1984年にヌード写真集を発表、1985年ににつかつのポルノ映画『魔性の香り』に主演するなど、お色気路線にイメージを変える。

1986年に、都内（原宿、国立、吉祥寺等）で「しもん」というカフェバー（現在は閉店）を営む青木保と結婚。翌年女兒を出産するが、1996年に離婚した。

1990年代前半にはすっかり太ってしまい明石家さんま司会の番組にしばしばゲスト出演し、天然ボケ風のキャラで人気を博すが、姿を消す。その後、ダイエットに成功しダイエット本を出版したり、ダイエット商品の広告で雑誌によく登場するようになる。だが数年後、リバウンドによってか以前より太った姿でテレビ出演。デビュー当時にライバル関係だった小柳ルミ子は、ある番組で天地のあまりの変貌ぶりに驚愕していた。

2003年1月からは、同じくラジオ日本の「今夜もノリノリ歌謡曲（深夜1：00-）」の金曜奇数週をパーソナリティとして担当し、再スタートを切った。

近年は上沼恵美子等が司会を務める関西ローカルのバラエティ番組にゲスト出演することがある。その中でも全盛期からの変貌ぶりをよくネタにされている。

紅白には1972年、1973年、1974年と三度出場。一度目は「ひとりじゃないの」、二度目は「恋する夏の日」、最後の出演が「思い出のセレナーデ」である。

主な曲

水色の恋（1971.10） 作詞：田上えり／作曲：田上みどり

ちいさな恋（1972） 作詞：安井かずみ／作曲：浜口庫之助 - オリコン1位獲得

ひとりじゃないの（1972） 作詞：小谷夏／作曲：森田公一 - オリコン1位獲得

虹をわたって（1972） 作詞：山上路夫／作曲：森田公一 - オリコン1位獲得

ふたりの日曜日（1972） 作詞：山上路夫／作曲：平尾昌晃

若葉のささやき（1973） 作詞：山上路夫／作曲：森田公一 - オリコン1位獲得

恋する夏の日（1973） 作詞：山上路夫／作曲：森田公一 - オリコン1位獲得

恋と海とTシャツと（1974） 作詞：安井かずみ／作曲：森田公一

思い出のセレナーデ（1974） 作詞：山上路夫／作曲：森田公一

私が雪だった日（1983） 作詞：山川啓介／作曲：網倉一也

天地真理 プレミアム・ボックス（2006年、歌手デビュー35周年記念CD BOX）

テレビ番組

時間ですよ 第2シリーズ（1971年 - 1972年、TBS）

刑事くん 第35話「ちいさな恋」（1972年、TBS）

おはよう（1972年、TBS）

時間ですよ 第3シリーズ（1973年、TBS）

月曜ドラマランド「意地悪お手伝いさん」シリーズ（1984年 - 1985年、CX）

*以来、歌手としても「小さな恋」「ひとりじゃないの」などミリオン・セラーを連発し一時代を築く。メイン番組をいくつも掛け持ちし、キャラクター商品は飛ぶように売れまくった。そう、彼女は国民的アイドルだった。が、盛者必衰の法則は、彼女でさえ特別扱いをしてはくれなかった。休業～入院騒ぎを境に人気は凋落。2年半のブランクを経て復活するものの、ポルノ映画に出演したこと以外は話題にもならなかった。そして結婚/出産を経て2回目の復活を果たすが、前述した通り回ってくる仕事は、バラエティ番組でのピエロ役。しかし、その生き様を含め、人生の真理を体現している彼女は、やはり稀有の存在。最近ではヘア・ヌード写真集やダイエット本などを発表し、開き直りにも似た気炎を上げる。偶像は美しいままでいて欲しかった。

*あの限りない一本調子唱法とかわいい笑顔と、この2点とはしっかりアンバランスなハスキー・ボイスとが「喜々せまる」魅力。

演歌のスター歌手というと、どういうわけか、容姿がいまいちの人が多。その中で、この人は、藤あや子と並んで、優れた容姿をもった稀なひとりであろう。

(詞：市場馨 曲：三島大輔)

ここでいっしょに 死ねたらいいと すがる涙の いじらしさ その場かぎりの なぐさめ云って みちのく-----

さて、この曲。何かの理由があって、別れざるを得なかった男女。男は、癒しを求めてか、奥の細道をたどるように北へ旅してゆく。月の松島、しぐれの白河、と叙情も美しい。メロディーも、熱情を抑えながらドラマチックだ。また、いままで歌謡曲ではあまり使われて来なかったフレーズも、清新で心を衝き動かす。時の流れに逆らいながら、その場しのぎの慰め言って、昨日と明日は違うけど、など。一度聞くと分かるように、この唄は芭蕉の「奥の細道」を底流にしている。この旅を終えたとき、この男女は、どのような生き方を択ぶのだろう。芭蕉の自己演出の凄さとからめながら、あれこれと考えさせてくれる。

この曲には、長いという理由でカットされた部分がある。(奥の細道 訪ねたひとの 跡を尋ねてゆくけれど 終の棲み家は まだまだ遠い はるかに見えるだけ たとえどんなに---) 唯々。私は是非、この部分を復活させて、全歌詞で唄ってほしいと願う。

(ウィキペディアより)

山本 譲二 (やまもと じょうじ、1950~) は、山口県下関市出身の演歌歌手である。筆名「琴五郎」名義で、楽曲の作詞・作曲も行っている。

来歴

早鞆高校時代の昭和42年夏に甲子園出場。松商学園 (長野) に敗れるも代打出場ながらヒット (内野安打) を打つ。

不遇の下積み時代

演歌歌手になりたくて上京。多くの職を転々とする。クラブのボーイ時代、お客の飲み残しのビールを飲み干す。中にはタバコの吸い殻がたくさん入っていた。肝臓を壊しやむなく帰郷、ひっそりと療養生活を送る。母親の叱咤で強い決意を持ち22歳で再び上京。再び職を変えながら、スナックでギターを手に2年間弾き語り続ける。たまたま店に来た浜圭介に誘われ、芸能界入りした。当初は映画「ダーティハリー」にかけて、「伊達春樹」という芸名でデビューしたが、パッとせず、崖っぷちに立たされた。

出会い

最後の決意で、北島三郎の仕事場に何度も足を運び頭を下げ、十数回繰り返したときに北島から突然、鞆(かばん)を渡された。即ち「鞆持ちになれ」という意味であり、以降2年間北島の付き人を務める。25歳だった。これを契機に1976年、YTVの歌謡オーディション番組「全日本歌謡選手権」(司会・浜村淳)に出場、「おもいで岬」や「中の島ブルース」などを歌って見事10週勝ち抜いた。本名でもある「山本譲二」名義でキャニオンレコードから再デビュー。またも鳴かず飛ばずが続く。

みちのくひとり旅で大ヒット

30歳の時に『みちのくひとり旅』をリリース。北島等からは「この曲でダメ（売れない）なら、（歌手を）諦めろ」と言われていたと言う。しかしこの曲も売れず大ヒットには更に10ヶ月を要した。年を越し1年近くが経過。「夜のヒットスタジオ」に注目曲として出演すると大きな反響を呼び大ヒット、31歳の時だった。こうした経緯から北島を親父と慕い、現在は北島ファミリーの旗頭的存在である。代表的な歌曲に『奥入瀬』、『花も嵐も』、『名もない花に乾杯を』など。

事務所から独立

2007年1月から北島音楽事務所を独立して個人事務所ジョージ・プロモーションを立ち上げた。暖簾分けという形であり、今も、業務提携という形でつながりを持つ。

代表曲

旅の終りはお前（詞：市場馨 曲：三島大輔）

奥州路（詞：石原信一 曲：三島大輔）

時は流れても（詞：吉岡治 曲：岡千秋）

奥入瀬（作詞：北山文化、作曲：桜庭伸幸）

関門海峡（詞・曲 琴五郎）

棒の哀しみ（詞：藤波研介 曲：大野弘也 映画「棒の哀しみ」の主題歌）

花も嵐も（詞：たかたかし 曲：弦哲也）

おまえにありがとう（詞：たかたかし 曲：弦哲也）

しあわせの青い鳥（詞：たかたかし、作曲：弦哲也）

おまえと生きる（詞：悠木圭子 曲：鈴木淳）

倅せあげたい（詞：仁井谷俊也 曲：弦哲也）

名もない花に乾杯を（詞：城岡れい 曲：弦哲也）

高杉晋作（詞・曲 津島一郎）

浪漫-ROMAN-【とんねるずの木梨憲武とデュエット（「憲三郎&ジョージ山本」として）】

（詞・曲 原譲二）

私の、いま住んでいる街は、昔からの城下町である。といっても、旧市街は4キロも離れているし、お城は、玄関と次の間しか、残っていないが。越して来た、40年前は、その地域は、寂れた感じだったのだが、現在は一大観光地になっている。年に400万人前後の、人が来るという。市の観光課や、商店街の、街おこしが上手く行ったのだろうか。そんな訳で、この曲の雰囲気は、とても親しい。昭和の半ばごろまで、日本の各地にまだ残っていた、あるふれた懐かしい光景。そこに、青春の不安とときめき、あきらめ、などを散りばめて、永遠性を感じさせる、曲になっている。

(詞・安井かずみ 曲・平尾昌晃)

格子戸をくぐりぬけ 見上げる夕焼けの空に だれが歌うのか 子守唄---家並みがとぎれたら お寺の鐘がきこえる 四季の草花が 咲き乱れ---

(ウィキペディアより)

小柳 ルミ子 (こやなぎ るみこ、1952-) は、歌手、女優。別名：rumico。福岡市早良区 (当時は西区) 生まれ。

もはや天晴れ、としか言いようのない、女の執着心と法外な慰謝料の請求で、全国の既婚男性を震え上がらせたのが、記憶に新しいルミ子。が、その芸事に対するプロ魂と日々の努力は宇宙級である。幼少の頃からバレエ/タップダンス/日本舞踊などに邁進し、宝塚音楽学校に入学。71年に「私の城下町」でレコード大賞新人賞を獲得、という華々しい歌手デビューを切った。以降も「瀬戸の花嫁」「星の砂」「今さらジロー」といったヒットを放っている。また、デビュー当時こそ清楚なアイドルというイメージが強かった彼女だが、徐々に「大人の女」路線にシフト・チェンジし、映画『白蛇抄』(83年)では、そのグラマラスな肢体と鬼気迫る演技力で、日本アカデミー賞最優秀主演女優賞も獲得している。

89年にダンサーの大澄賢也と結婚。自らの舞台でも夫婦ならではの息の合ったダンスを前面に打ち出し、徹底したエンターテインメント・ショーを展開していくが、00年にはついに離婚。以後、ヌード写真集上梓や骨折、ウン千万に相当する宝石盗難.....といった話題が先行しているが、新世紀には気分も改めて「歌」でゴージャスな存在感を再アピールして欲しい。02年6月、シングル「TEN ZILLION~100億の幸福に包まれて」のリリースを機に、rumicoと改名。

人物・概要

1970年(昭和45年)に宝塚音楽学校を首席で卒業、そのまま「夏川るみ」の名で宝塚歌劇団に入団するも初舞台のみで退団。(最も小柳は歌手デビューを当初から念頭においており、宝塚は歌や演技の鍛錬を積む為の腰掛けであった。)

退団した同年、渡辺プロに所属し、NHK連続テレビ小説「虹」で女優としてデビュー。翌年1971年(昭和46年)4月には、平尾昌晃のプロデュースにより「わたしの城下町」で歌手デビューし、160万枚の大ヒットとなる。同曲は1971年のオリコン年間シングル売上チャートで第一位を記録し、当時としてはアイドルのデビューシングルとしては最大のヒットとなる(1997年にKinKi Kidsの「硝子の少年」に破られる)。また日本レコード大賞最優秀新人賞も受賞した。その後リリ

ースした「お祭りの夜」や「京のにわか雨」、また「瀬戸の花嫁」（日本歌謡大賞受賞）なども大ヒットし、天地真理・南沙織らとともに新三人娘と呼ばれ、1970年代前半を代表するアイドルとなった。

その後はアイドルというジャンルを卒業し、持ち前の歌唱力を活かした正統派歌手として「逢いたくて北国へ」「お久しぶりね」などのヒット曲を飛ばした。その軌跡として、デビューの1971年（昭和46年）から1988年（昭和63年）まで、NHK紅白歌合戦に18年連続出場という実績を残した。さらに女優としても、1983年に公開の「白蛇抄」で見せた迫真の演技により、日本アカデミー賞主演女優賞を受賞。順風満帆かに見えたが、渡辺プロからの独立を巡り、仕事を干される等辛酸を舐めていたが、1989年（平成元年）に、13歳年下の無名のダンサーであった大澄賢也と電撃結婚し、結婚後は大澄と共に夫婦でのテレビ出演やステージを精力的に行い、夫婦揃ってのステージは各地で大盛況となり、結婚後も仕事で成功を収めていた。かつては芸能界のおしどり夫婦とも呼ばれていたものの、2000年に離婚となる。

1994年（平成6年）、日本テレビで放送されていたドラマ「家なき子」に安達祐実演じる主人公・相沢すずを、執拗に苛める伯母・園田京子役で出演。出演は3週だけだったが、小柳本人にとっては初の苛め役であり、話題を呼んだ。インタビューでは「絶対に弱みを見せないで頑張りましたね」と安達を評価したこともある。

2007年7月、27歳年下の俳優・石橋正高との婚約を発表して世間を驚かせる。前年の2006年12月に亡くなった、ルミ子の母親の喪が明けてから籍を入れる予定であった。しかし、入籍直前の2007年11月、テレビ朝日系列の「スーパーモーニング」にて、石橋に対して結婚への疑問を抱き始めたとのことで、結果石橋との同居及び婚約も解消したことを告白。「甘えられる事に疲れた」と話しているが、実際には交際が世に知れ渡る1ヶ月前には破局していたという。

ステージでは華麗なダンスも売り物である。日常生活の中にバレエレッスンに基づくエクササイズを取り入れているなど努力を惜しまないタイプ。

主な曲

わたしの城下町（1971.4）

お祭りの夜（1971.9）

雪あかりの町（1972.1）

瀬戸の花嫁（1972.4）

京のにわか雨（1972.8）

漁火恋唄（1972.11.1）

十五夜の君（1973）

恋の雪別れ（1973）

ひとり囃子（1974）

冬の駅（1974）

黄昏の街（1975）

ひと雨くれば（1975）

花車（1975）

桜前線（1976）

恋岬（1976）

逢いたくて北国へ（1976）

思い出にだかれて（1977）

星の砂（1977.4.25）

湖の祈り（1977）

来夢来人(ライムライト)（1980）

お久しぶりね（1983.7.21）

今さらジロー（1984）

だらしがないね（1989）

はずかしがらずに男たちよ（1991）

千年の恋（1997）

だから京都（1998）

いい気になるなよ（2000）

TEN ZILLION~100億の幸福に包まれて~（2002）※マキシシングル。「rumico」名義
テレビ番組

セイシュンの食卓（1992年 - 1994年、テレビ朝日）
ドラマ

虹（1970年 NHK）

おさな妻（1970年 東京12チャンネル）

いちばん星（1977年 NHK）

仔犬のワルツ（2004年 日本テレビ）

白と黒（2008年、東海テレビ）

ほか

映画

誘拐報道（1982年・東映）

白蛇抄（1983年・東映）

家なき子 劇場版（1994年・東宝）

1973年の発売。南沙織というと、まず「17才」が浮かぶが、私は、こちらを選択。この曲は、青春のほんの一時期にのみ現れる、傷みのようなものが、適格に描かれている。

その当時、南国から来た不思議な美少女という、プロモーションであったと思う。黒目がちのつぶらな瞳、ミニスカートから伸びた細い足、小麦色の美少女は、たちまち生き活きとした、新しいタイプのアイドルとして、日本中の人気を博した。

いまもあなたが好き まぶしいおもいでなの----/人に押されて歩く夕暮れ あーあなただけが---

1971年のデビュー曲「17才」。そのあとの、「純潔」「人恋しくて」「ひとかけらの純情」「バラのかげり」など。いずれも、清新な名曲である。爽やかな高めの主声と、味わい深い低めのアルト。それを、歌唱にうまく織り交ぜて、ドラマを創り出す。

資料によると、この曲は三田寛子、水野美紀がカバーしている。愛称はシンシア（Cynthia 月の女神、蟹座の守護神の意）。沖縄・本土復帰前の1971年に、黒髪と小麦色の肌で颯爽と現れ、同世代の若者に人気を博した。同時期にデビューした小柳ルミ子、天地真理と合わせて1970年代に「新三人娘」と呼ばれた。筒美京平（作曲）・有馬三恵子（作詞）をメインに据えた楽曲群は、洋楽を志向し、いま耳にしてもモダンで快い。そして、歯切れのよい歌唱とリズム感を堪能できる。

（ウィキペディアより）

南沙織（みなみ さおり、1954～）は鹿児島県奄美大島生まれ（デビュー時は母親の郷里、奄美大島生まれとされたが、実際は沖縄生まれという説もあり）、沖縄育ちの元アイドル歌手。クリスチャンで、その時授かった名前「シンシア（Cynthia 月の女神、蟹座の守護神の意）」を愛称としている。

来歴・人物

沖縄本土復帰前の1971年来日、6月に「17才」でデビューし54万枚のヒットとなる。同年の日本レコード大賞新人賞受賞、NHK『紅白歌合戦』出場（現役中の71年～77年まで7年連続出場）。長い黒髪と日焼けした健康的な肌で同世代の若者に絶大な人気を博し、同時期にデビューした小柳ルミ子、天地真理と合わせて1970年代前半に「新三人娘」と呼ばれた。プロマイドも爆発的に売れ、1971年、1972年の年間売上実績で第1位を獲得した。1975年発売の田山雅充作曲「人恋しくて」以後、尾崎亜美作曲「春の予感」などニューミュージック系ライターもよく起用するようになる。「人恋しくて」では日本レコード大賞歌唱賞を受賞。「春の予感」は1978年の資生堂CMソングになった。同年上智大学に入学し、学業に専念するためにこの年10月に歌手引退。1979年、写真家の篠山紀信と結婚し、その後3児の母となる。

1991年、紅白歌合戦に出場して復帰。翌年以降、限定的ながら作品をリリースし活動を再開した。

エピソード

*星座は「蟹座」。デビュー曲「17才」のジャケットの写真にも、「蟹座」のデザインのシャツ

を着用。

デビューする前、最初のレッスンの際に、立ち会った筒美京平から「何が歌えるの？」と聞かれて、唯一歌えると答えた曲がリン・アンダーソン(Lynn Anderson)の「ローズガーデン」であった。

主な曲

- 17才 (有馬三恵子/筒美京平) (1971年)日本レコード大賞新人賞
- 潮風のメロディ (有馬三恵子/筒美京平) (1971年)
- ともだち (有馬三恵子/筒美京平) (1972年)
- 純潔 (有馬三恵子/筒美京平) (1972年)
- 色づく街 (有馬三恵子/筒美京平) (1973年)
- ひとかけらの純情 (有馬三恵子/筒美京平) (1973年)
- バラのかげり (有馬三恵子/筒美京平) (1974年)
- 人恋しくて (中里綴/田山雅充) (1975年)日本レコード大賞歌唱賞
- ゆれる午後 (有馬三恵子/筒美京平) (1977年)
- 街角のラブソング (つのだひろ/つのだひろ) (1977年)
- 春の予感 (尾崎亜美/尾崎亜美) (1978年)

水前寺の曲のなかでは、ヒットの規模は中くらいの唄であろう。ランク付けすれば、15位前後。25年くらい前だったか、いまのテレビ東京で、在日外国人の素人芸大会を見ていたとき、留学生らしき30代の白人男性が、このド演歌的・きわめて日本的、な唄を堂々と歌って、驚いた事がある。もちろん彼には、日本人としての文化的背景が無い（乏しい？）ので、言葉や音程にそう問題が無くても、奥行きや広がりには乏しかった。残念ながら、いちばん重要な、人生の深みも。

女の名前は 花という 日陰の花だと 泣いていう 外は---女は眠いと 目をとじる---つづる
心の 放浪記

この曲は、花という日陰の女が、ゆきずりの流れ者と一夜を明かすという内容で、2人の置かれている状況や、女の生い立ちが語られる。幸せ1年あと不幸、外は9月の雨しぶき、といったフレーズがドラマを叙情的に盛り上げてゆく。欧米の文化圏で育った人なら、きっとイラついてしまうような、日本的な苦しく悲しいものを背負った男女の物語である。

(ウィキペディアより)

水前寺 清子（すいぜんじ きよこ、1945～ ）は日本の歌手、女優。社団法人「日本歌手協会」副会長、社団法人日本ウオーキング協会理事。熊本県出身。熊本市立碩台小学校卒業。愛称「チータ」の由来は小さな民ちゃんの略からである（動物のチーターからと間違われる事が多い）。芸名の水前寺は故郷・熊本市の水前寺公園から取ったもの。

*歯に衣着せぬ言動、すばしっこいアクション、粘りつくような歌唱法で、64年のデビュー以来、絶大な人気を誇る国民的歌手。“三歩進んで、二歩さがる”という名フレーズに多くの大衆がシンクロした、69年のヒット曲「三百六十五歩のマーチ」、56.3%という驚異的な視聴率をたたき出した主演TVドラマ『ありがとう』。現在も依然活躍中の彼女だが、これらふたつの偉業は言うまでもなく歴史的である。

*見得を切りながらの歌唱は「ん～にゃっ！」という語尾ひねりによって安易に物まねされる事が多いが、本人の癖はそれほど強くない。しかし、自らの物まねを意識してあえてひねることもある。

*かつて「NHK紅白歌合戦」には22回連続出場していた。又、紅組の司会を4回務めたことがあり、1960年代後半～1980年代にかけて、紅組内ではムードメーカー的存在であることが多かったが、トリを飾ったのは意外にも1983年（第34回）のわずか1回だけである。

略歴

1964年 『涙を抱いた渡り鳥』でデビュー。

1965年 NHK紅白歌合戦に初出場。以降、1986年まで22回連続出場。

1968年 『三百六十五歩のマーチ』が80万枚の大ヒット。（日本レコード大賞大衆賞受賞。翌年3月開催の選抜高等学校野球大会の入場行進曲にも採用）

1970年 ドラマ『ありがとう』（TBS）主演

1981年 『有明けの海』で古賀政男記念音楽大賞。

1989年 バックバンドのサクソ奏者だった小松明（本名が林田姓）と結婚。

2000年 熊本市に老人ケアハウス「水清庵」を設立。また「水前寺清子一座」を旗揚げ、全国公演。

NHK紅白歌合戦でのエピソード

1983年、出場19回で初のトリを務める。しかし、この年、紅白の直前に、最大の理解者であった父親が死去。彼女のたった1回のトリは、彼女らしい覇気のあるステージではなく、終始涙を浮かべての、悲しみを押し殺してのステージとなってしまった。しかし、このシーンは多くの視聴者に感動を与えた（水前寺は後年、この点につき、本番1ヶ月前にトリが決定していたが、関係者や親族にもそのことを明かしてはならないとの注文がNHKサイドから付けられていたために、病床の父親にもその事実を告げることができなかったことが現在でも心残りとなっているらしく、この事実を父親に告げていれば、紅白本番のときまで父親は生きていてくれたのかも、という旨を述べている）。

主な曲

涙を抱いた渡り鳥 1964年

いっぽんどっこの唄 1966年

どうどうどっこの唄 1967年

三百六十五歩のマーチ 1968年

大勝負 1970年

昭和放浪記 1972年

浪花節だよ人生は 1984年(細川たかし、木村友衛、こまどり姉妹らと競作。1984年の紅白では細川と『同曲対決』を行った)

ウォーキングマーチ 2003年(21世紀版「三百六十五歩のマーチ」)

アイドル性の強かった時代は、唄がうまい、などとは、けして思えなかった。けれど、彼女がだんだん歳をとって、改めて、聴いてみると、意外にも、松田は、かなりな実力をもっている。

(1982)

春色の汽車に乗って 海に連れて行ってよ 煙草の匂いのシャツに そっと---心の岸辺に咲いた 赤いスイートピー

松本隆の歌詞が、とても新鮮だ。いままでの、歌謡曲にない言葉を、多用して、心に響く世界を、作りだしている。松田の歌唱も、張りついたような高音を、多くの部分で使って、見かけと違って、高度な音楽的世界を、作りだしている。曲自体も、じわじわと心に響いてくる唄だ。

(収集プロフィール)

松田 聖子 (まつだ せいこ、1962年3月～) は歌手、女優である。福岡県出身である。

1980年代を代表するアイドル松田聖子は1980年代を代表するアイドル歌手の一人であった。1970年代を代表するアイドルだった山口百恵が引退すると交代するようにデビュー、間もなくヒット曲を連発しただけではなく、髪型や、後には生き方など、様々な面で日本の大衆文化に大きな影響を与える存在となった。また1990年代以降はポピュラー音楽家の一人として活動を続けている。

アイドル歌手として

歌手としては1980年の「風は秋色」から1988年の「旅立ちはフリージア」まで24曲連続でオリコンシングルチャート1位を獲得し続けた。この記録は現在では、B'z、浜崎あゆみ、Mr.Children、KinKi Kids (この4アーティストは現時点で記録を更新中) に破られてはいるが、初動枚数思考や強豪アーティスト同士が同日にCDを発売することが少なくなった現在では、オリコンチャートで1位を獲得するのは昔に比べて比較的容易であり、1980年代という多数のアイドルがしのぎを削っていた中での、当時の彼女の突出した人気を物語っている。

*デビューからしばらくの間、ファンのほとんどは同年代の男性だったが、1982年の「赤いスイートピー」を境に女性ファンが増えはじめたと言われる。

*アイドル時代の人気は圧倒的であり、様々な伝説を残した。当時の人気の高さを端的に示す言葉としては「聖子ちゃんカット」と「ぶりっ子」が挙げられる。聖子ちゃんカットとはその名の通り、彼女の髪型を真似た髪型であり、当時の女性の間で大流行した。そればかりか、当時の女性アイドルの写真を今見返すと、どれも多かれ少なかれ松田聖子の影響を受けた髪型やファッションとなっているのがわかる。「ぶりっ子」とは、当時の人気漫才コンビの春やすこ・けいこや山田邦子が松田聖子を揶揄して流行らせた言葉であるが、当時の松田聖子のキャラクターのある一面を的確に捉えた言葉でもあり、流行語にまでなった。

*楽曲の制作に錚々たるメンバー (松本隆、財津和夫、呉田軽穂 (松任谷由実)、大瀧詠一、大村雅朗、細野晴臣、南佳孝、尾崎亜美、矢野顕子、佐野元春、玉置浩二など) が関与していたのもさることながら、キャンディ・ボイスといわれる松田聖子ならではの歌声と表現力が多くの人

を魅了してきた。歌手としてのカンの良さ、正確で幅広い音程、的確なリズム感に加え、松本隆が設定する幅広い歌詞のシチュエーションを見事に表現してきた。他に、大江千里、小室哲哉、土橋安騎夫、奥居香、いまみちともたか（チャックムートン名義）、米米クラブといった当時のソニー系若手ミュージシャンたちも作曲に起用されている。

音楽家としての松田聖子

1990年代に入ると、作詞、作曲やアルバムのプロデュースにも自ら取り組むようになり、アイドル歌手ではなく、いわゆる「アーティスト」としての活動を展開してゆく。

1990年代のアルバム『1992 ヌーベルバーグ』から『FOREVER』までの6枚はセルフ・プロデュース、全曲作詞作曲が基本となり、「大切なあなた」、「あなたに逢いたくて」をヒットさせた。

*作詞家として。極めて個人的な感情を赤裸々にさらけ出す歌詞、あるいは非常に前向きな歌詞を書くことが多い。ただ「20th Party」では自身の歴代のヒット曲のタイトルを繋げて歌詞とするなど、非常に洗練された批評的精神も持ち合わせている書き手である。

*一方、作曲家としては明らかに長調を好んでいる。これは彼女の書く前向きな歌詞を考えれば当然の帰結であろう。また、最大のヒット曲「あなたに逢いたくて」が典型であるが、同主調や平行調、あるいは属調や下屬調などの近親転調をアクセントに使うことが多い。

『松田聖子』的生き方

最初はアイドル歌手、そして音楽家として活動を続ける松田聖子。デビューから四半世紀を過ぎ、結婚、出産、二度に渡る離婚を経てもなお、「アイドル」というスタンスを保ち続けている希有な存在である。その点で言えば、かつて歌謡界の女王だった美空ひばりや山口百恵とは別の次元で、松田聖子独自の境地に到達している。

現在、ファンの中心となっているのは「雇用機会均等法」世代の30代～40代の女性であり、女性がファンの7割を占めるといわれ、これにゲイのファン3割が加わる。

略歴

1962年3月、福岡県久留米市に、厚生事務官の父親と農家出身の母親の長女として生まれる。8歳年上の兄がいる。

カトリック系の久留米信愛女学院高等学校に入学。

1979年、高校3年の時にサンミュージックに所属。歌手デビューのため上京し、堀越高校に転校。日本テレビ系ドラマ『おだいじに』に「松田聖子」役で出演し、この時の役名がその後の芸名となる。

1980年 - 9月18日、「青い珊瑚礁」で、TBS「ザ・ベストテン」の第一位を初めて獲得。

1984年 - 父親が公務員を定年退職したことを機に両親を九州から呼び、以降、両親と共に暮らす。

1984年 - 『ドレミファドン』のアンケートで、若い男性にとっては「結婚したい女性」のNo.1となる。

1985年 - 交際を公にしていた歌手・郷ひろみと破局。『カリブ・愛のシンフォニー』（メキシコロケ）で共演した神田正輝とサレジオ教会で結婚。

1990年 - 1985年頃から明らかにしていた米国進出のため、全米デビューアルバム『Seiko』を発売。米国での歌手活動のため、しばらくニューヨークに住む。

1996年 - 再び全米進出を目指すため、デビュー以来所属したソニーレコードを離れ、現ユニバーサルミュージックに移籍する。日本での移籍第1弾シングル「あなたに逢いたくて～Missing You～」が8年ぶりのオリコンシングルチャート1位、売り上げ130万枚とミリオンセラーを突破し、自身最大のヒットとなり、この頃が結婚後の人気の頂点であった。

1997年 - 1月に神田正輝と離婚。離婚のニュースは、芸能報道を越えて各局とも一般ニュース枠でも報じ、号外が出された。12月、父親が死去。

1998年 - 5月に6歳年下の歯科医と交際2か月で結婚。会った瞬間「ビビビッと来た」というコメントが流行語になる。

2000年 - 9月にかつての恋人で劇的な別れをした郷ひろみとのデュエット曲「True Love Story」の話があり、受諾して発表して世間の度肝を抜く。12月に歯科医と離婚。

2004年 - 約3年ぶりのオリジナルアルバム『Sunshine』が、7月21日付のオリコンアルバムチャートで初登場6位を獲得。アルバムトップテン入りは通算39作目。

2005年 - 6月のさいたまスーパーアリーナを初日に、歌手活動25周年にあたる全国ツアー『fairy』を開始。中華民国（台湾）のファンからの強い要請に応じて、8月、最終公演を同国の新莊市で行う。5000人の観客から熱烈に歓迎され、中国語でも歌った。

2007年 - 松田聖子を取りあげたドキュメンタリー『松田聖子～女性の時代の物語』（NHK総合）が放映された。視聴率は9.3%（ビデオリサーチ調べ）だった。

エピソード

意識して可愛い子ぶる「ぶりっ子」という言葉は、聖子の事を形容する為に産まれた言葉とされる。

1990年のアメリカでの歌手デビューのために徹底的に英語を学び、CNNのインタビューその他で堪能な英会話力を示し、また2005年の中華民国におけるコンサートなどでは北京語も披露。

主な曲

青い珊瑚礁（1980）	詞：三浦徳子	曲：小田裕一郎
風立ちぬ（1981）	詞：松本隆	曲：大瀧詠一
赤いスイートピー（1982）	詞：松本隆	曲：呉田軽穂
渚のバルコニー（1982）	詞：松本隆	曲：呉田軽穂
瞳はダイヤモンド（1983）	詞：松本隆	曲：呉田軽穂
天使のウィンク（1985）	詞：尾崎亜美	曲：尾崎亜美

多くの人に好まれ、20年を経たいまでもよく歌われている。私自身は特に好きな曲ではないが、多くの支持者がいるのは確かだ。歌詞と楽曲がよく噛み合っていて、ときに異次元を感じさせるほど、高水準の出来ばえである。唄のなかで描かれる、殺意を抱くほどの、狂おしい恋情。私は、そのような経験がないので、その辺りが、理解しにくいようだ。

(1986)

隠し切れない残り香が いつしかあなたに---何があっても もういいの くらくら燃える

(収録プロフィール)

石川 さゆり (いしかわ さゆり、1958～) は、熊本県飽託郡飽田村 (現・熊本市) 出身の演歌歌手。堀越高校卒業。

来歴

1973年3月、「かくれんぼ」でアイドル歌手として日本コロムビアよりデビュー。花の中三トリオなどの影に隠れて人気を得るには至らなかった。1977年に『津軽海峡・冬景色』『能登半島』が大ヒットし、日本を代表する演歌歌手の一人となった。2006年までにNHK『紅白歌合戦』に29回出場している。

1981年、元マネージャーの馬場憲治と結婚。1984年2月に長女を出産するが、1989年2月に離婚。石川は「私が平成に入って一番最初に離婚した芸能人」と明るく語っている。

ホリプロに所属していたが、後に独立し、個人事務所「さゆり音楽舎」を設立。レコード会社は、デビューから20年間日本コロムビアに所属したが、1993年にポニーキャニオンへ移籍。2000年にテイチクへ移籍し現在に至る。

紅白歌合戦

石川は、1977年・第28回紅白にて「津軽海峡・冬景色」の大ヒットを背景にデビュー4年目にして初出場。1983年に産休に入ったため、同年第34回の紅白は出場辞退 (但し特別ゲストとして出演した)。翌1984年より再び復帰し、2006年・第57回まで23回連続出場。通算出場回数は29回で、紅組歌手の中では島倉千代子・和田アキ子に次ぎ、都はるみと並んで3位。白組の五木ひろしと同じく、1985年以降は実力派がひしめく最終コーナーの常連でトリも4回取っている。

年度/放送回 回 曲目 出演順 対戦相手

1977年(昭和52年)/第28回 初 津軽海峡・冬景色 19/24 小林旭

1978年(昭和53年)/第29回 2 火の国へ 3/24 狩人

1979年(昭和54年)/第30回 3 命燃やして 19/23 内山田洋とクール・ファイブ

1980年(昭和55年)/第31回 4 鷗という名の酒場 17/23 細川たかし(1)

1981年(昭和56年)/第32回 5 なみだの宿 17/22 野口五郎

1982年(昭和57年)/第33回 6 津軽海峡・冬景色(2回目) 19/22 村田英雄(1)

1984年(昭和59年)/第35回 7 東京・めぐり愛 14/20 芦屋雁之助

1985年(昭和60年)/第36回 8 波止場しぐれ 18/20 村田英雄(2)

1986年(昭和61年)/第37回 9 天城越え 20/20 森進一(1) トリ(1)

1987年(昭和62年)/第38回 10 夫婦善哉 18/20 北島三郎(1)
1988年(昭和63年)/第39回 11 滝の白糸 19/21 五木ひろし(1)
1989年(平成元年)/第40回 12 風の盆恋唄 20/20 北島三郎(2) トリ(2)
1990年(平成2年)/第41回 13 うたかた 28/29 谷村新司(1) トリ前(1)
1991年(平成3年)/第42回 14 港唄 27/28 北島三郎(3) トリ前(2)
1992年(平成4年)/第43回 15 ホテル港や 26/28 細川たかし(2)
1993年(平成5年)/第44回 16 津軽海峡・冬景色(3回目) 26/26 北島三郎(4) トリ(3)
1994年(平成6年)/第45回 17 飢餓海峡 24/25 北島三郎(5) トリ前(3)
1995年(平成7年)/第46回 18 北の女房 23/25 北島三郎(6)
1996年(平成8年)/第47回 19 昭和夢つばめ 23/25 細川たかし(3)
1997年(平成9年)/第48回 20 天城越え(2回目) 23/25 森進一(2)
1998年(平成10年)/第49回 21 風の盆恋唄(2回目) 21/25 細川たかし(4)
1999年(平成11年)/第50回 22 天城越え(3回目) 25/27 谷村新司(2)
2000年(平成12年)/第51回 23 津軽海峡・冬景色(4回目) 25/28 細川たかし(5)
2001年(平成13年)/第52回 24 涙つづり 24/27 堀内孝雄
2002年(平成14年)/第53回 25 天城越え(4回目) 27/27 五木ひろし(2) トリ(4)
2003年(平成15年)/第54回 26 能登半島 28/30 北島三郎(7)
2004年(平成16年)/第55回 27 一葉恋歌 26/28 氷川きよし
2005年(平成17年)/第56回 28 天城越え(5回目) 22/29 ポルノグラフィティ
2006年(平成18年)/第57回 29 夫婦善哉(2回目) 14/27 森進一(3)

代表作

津軽海峡・冬景色（日本レコード大賞歌唱賞受賞、1977年）

能登半島(1977年)

火の国へ(1978年)

傷だらけの恋(映画「トラック野郎挿入歌、1979年)

鷗という名の酒場(1980年)

東京めぐり愛(大相撲力士の琴風豪規とのデュエット、1984年)

波止場しぐれ（日本レコード大賞最優秀歌唱賞受賞、1985年）

天城越え（日本レコード大賞金賞受賞、1986年）

夫婦善哉（日本レコード大賞金賞受賞、1987年）

滝の白糸(1988年)

風の盆恋歌（日本レコード大賞最優秀歌唱賞受賞、1989年）

うたかた（日本作詞大賞大賞受賞、1990年）

ウイスキーが、お好きでしょ(1991年)(SAYURI名義、例外的に演歌でない。2006年にCarolyn Leonhartがカバーした)

越前竹舞い(1991年)

港唄(1991年)

転がる石(2001年)、ほか

CM

大日本除虫菊（金鳥蚊取線香。1995年～2003年）

サントリークレスト12年イメージソング『ウィスキーが、お好きでしょ』（1991年）

（Song by SAYURI／作詩：田口俊／作曲：杉真理／編曲：斉藤毅）

2007年にはサントリー角瓶のCMにリバイバル使用された。

映画

としごろ(1973年4月)(松竹)(この作品で初ヌード、複数のゴロツキに輪姦される中学生を演じた。)

トラック野郎故郷特急便(1979年)東映(マドンナ役)

1977年、発表。もう30年以上も前になるだろうか。ある鉄道路線の、土曜の午後の冬のホーム。私はその先へ行く電車を待ちながら、ホームに人気の少ないことと、待ち時間が15分もあることから、何とかこの曲を歌いこなそうと小声で練習していた。ふと気付くと、横でぐふふぐふふ笑っている、爆笑問題の太田に似た（というよりも、そっくりな）地味で暗めの（その当時）痩せた若い男がいるではないか。もちろん当時は無名の人なので、のちに有名になってから、もしや？と思ったのだけれど。私は恥ずかしさのあまり、この糞ジジイと思いながら、急に練習を止めてしまった。あとから判明したのだが、太田はこの頃、この沿線に住んでいたのだ。

余談はさておき、この曲は、旅立ちと、思う人との別れを、かけて唄っている。演歌にもよくあるシチュエーションだが、こちらはもちろんJポップ。プロログのような出だし、途中、交響曲のような、壮大な広がり、がいい。曲のなかの主人公と同じように、いつか旅立ちたいと思いつつも、立ち止まり、たじろぎ、怯え、それでも悩みを超え、出発しようとしている。

（明日 私は旅に出ます あなたの知らないひとと二人で いつか あなたと行くはずだった
春まだ浅い信濃路へ 行く先々で----

（収集プロフィール）

狩人（かりゅうど）は、兄・加藤久仁彦（1956～ ）と弟・加藤高道（1960～ ）の二人による兄弟デュオ。

兄弟歌謡デュオ。77年に発表された「あずさ2号」のビッグ・ヒットで知られる。とくにサビ部の（8時ちょうどのお～っ あずさ2号でえ～ ワタシはワタシはあなたから 旅立ち～ますう）におけるカタルシスは、日本人のハートをガッチリとらえた。21世紀を迎えた現在でも、カラオケ/鼻歌の定番として親しまれている。

このように「あずさ2号」のイメージが強烈すぎたせいか、以降ヒット曲には恵まれなかった彼らだが、秀逸極まりない楽曲をいくつか世に残している。旅情感に満ちた「コスモス街道」、トレンド的な趣のAOR路線にびっくりの「ハートせつなく」など。

* フォーク・ロック・演歌とでも呼びたくなるようなふたりによる気合いで、たたきつける声と声。他にありそうで、こういった歌謡曲は実に狩人だけの唯一無二。

概要

その名前の由来は、二人の恩師である都倉俊一から、「いつまでも大ヒットという獲物を狙い続けるハンター（狩人）であって欲しい」といわれて名付けられたものであるという。尚、グループ名の有力候補として“みつばち君”なるものがあったといわれる。

1977年にデビュー曲『あずさ2号』が大ヒットして、人気を得る。以降『コスモス街道』、『アメリカ橋』等のヒットでスター歌手の地位を築く。しかし、この頃は当時の所属事務所の意向もあって、若手の歌手としては珍しく暗い印象を視聴者に抱かせていた。

一時期、人気低迷し、「狩人はあずさ2号に乗ってどこかに行ってしまったのでは？」と噂されることもあったが、1995年、『あずさ2号（ニュー・ヴァージョン）』で復活し、現在に至る。近

年では、二人が別々に歌手、俳優として活動することも多いが、一般に言われるような、兄弟仲が悪いという訳ではなく、歌手以外に自らの才能のテリトリーを広げようということのようである。

また、煙草のポイ捨て撲滅を訴える新曲『どんポイ! (Don't Poi!)』のヒットと、ポイ捨て撲滅運動への参加及び初のレギュラーとなったラジオ番組『狩人ときめきの扉』への出演は記憶に新しい。

2006年3月には、デビュー30周年コンサートと、プロ野球OBチームとの野球試合を東京ドームで開催し、主催者側発表で2万人の観客を集めた。

2007年4月26日、同年12月31日をもって解散することを発表、それぞれソロとして久仁彦は（アマチュア）ボクシングへ、高道は芸能プロの枠を越えて歌手活動の幅を広げていく予定である。

主な曲

あずさ2号 （詞 竜 真知子 曲 都倉 俊一）

コスモス街道 （詞：竜真知子 曲：都倉俊一）

引き潮

若き旅人

風が吹けば

あずさ2号（ニュー・ヴァージョン）

ミ・アモーレ（中森明菜のカヴァー、ノエビアCMソング）

ふりむけば江ノ島

当時、この曲は大ヒットで、新曲が出たあとも、4、5年の間、週に2、3度くらいは、テレビやラジオ、喫茶店や商店街などに流れていた。私は、この曲の舞台の近辺が、フランチャイズだったので、歌詞に描かれた風景が、よく実感できるのだ。海に近い街のもつ、雰囲気、特有の空気、人間感、などが、とてもよく分かるのだ。だから、必要以上に、深読みしてしまう。オラッきり オラッきり オラッきりですかあ〜。替え歌にしても、よく合うようだ。

百恵の声質に、よく合っているし、街や時代の雰囲気を、鋭く切り取った歌といえるだろう。

街の灯りが 映し出す あなたのの中の 見知らぬ人 私は少し 遅れながら あなたの後 歩いていました----

*「ブレイブ・プレイス」

横須賀中央駅でバスを降り、昼食を取るための店を探しながら、私は、長い三笠通りを抜けた。すこし先に行って右手に曲がると、ドブ板通りにはいる。そこから、200メートル足らずの所に広大な米軍基地の入口があり、昔はたくさんアメリカ兵が闊歩していた。街頭テレビの帰りに、私たちは怖々その通りを通り抜けた。そこは赤や青、黄、緑、紫といったケバケバシイ色のネオンが溢れ、細い通りのあちこちで別れを惜しむカップル達がキスや抱擁に励んでいた。帰郷しても、この辺りはほとんど来なかったので、30年ぶり位にこの通りを通って驚いた。テレビや雑誌などでその変貌を知ってはいた。実際に往時の面影を探しながら歩くと、特異な情緒は残しながらも、まるで小さな原宿か渋谷のように、小奇麗な若者の町に変化していた。米兵の一家、あるいは観光客なのだろうか、家族づれの白人や黒人もたくさん行き来している。米軍基地はいまもすぐそばに在り、大きなゲートを構えて出入りの車両を厳重にチェックしている。しかしここはすでに、下北沢や原宿にあるような、迷宮めいた商店街に近づいている。若者むけの安いアクセサリーや雑貨の店、スポーツ用品の店、喫茶店。バーもまだいくつか残っているが、いまは主に日本人が利用しているのだという。あと、占いや古くからの肖像画の店、スカジャンの店。はずれにはコンビニや八百屋さんも見える。

あの頃の友とは、もうとうの昔に、音信が途絶えている。故郷の風景も、訪れるたびにすこしづつ変化している。私は時の流れに、すこし虚しさを覚えながら、駅への路をたどっていた。

(収集プロフィール)

山口 百恵（やまぐち ももえ、1959〜）は、元歌手・女優。東京都渋谷区恵比寿出身だが、幼少時を神奈川県横浜市、横須賀市で過ごした。日出女子学園中学校・高校卒（中学校は品川中学卒。高校は出席日数が少なかったため6月に卒業）。

略歴

1972年12月、オーディション番組スター誕生で牧葉ユミの『回転木馬』を歌い、準優勝。1973年4月、映画「としごろ」に出演。5月に同名の曲で歌手としてもデビュー。森昌子・桜田淳子と共に花の中三トリオと呼ばれた。当時のキャッチコピーは「ひとに目覚める14歳」。この頃から「百恵伝説」が始まった。

『としごろ』でデビューした当時は比較的目立たない存在だったが、1974年『ひと夏の経験』

がヒット。年端のいかない少女が性行為を連想させる際どい内容を歌うという、いわゆる性典ソング路線が話題になり絶大な人気を獲得する。歌詞の内容は際どかったが、辺見マリや夏木マリ、あるいは70年代に復活した山本リンダなどのセクシー路線の歌手と違い、百恵は年齢が低くビジュアル面では純朴な少女というイメージだった。歌とビジュアルのギャップ、それに伴うある種の背徳感が、百恵の人気を独特なものにしていったと言えるだろう。これは百恵の芸能人としての資質によるだけではなく、所属事務所やレコード会社による周到的なイメージ戦略のたまものでもあった。

TBSのテレビドラマ赤いシリーズ（いわゆる大映ドラマ）でも好演。女優としても歌手としても評価され、トップアイドルとなった。1976年の「プロマイド」の年間売上成績で第1位に輝く。評論家の平岡正明が『山口百恵は菩薩である』という著書を発表するなど、多くの文化人に現代を象徴するスターとして語られた。歌も映画もヒットすることにより、美空ひばりに匹敵するような「女王」という称号も奉られることになる。写真家篠山紀信が百恵を度々モデルにして印象的な写真を発表していたのも有名。個性的な作風で一世を風靡した阿木燿子・宇崎竜童夫妻の作品で新境地を開拓したりもしていた。自曲の作家として阿木・宇崎を指名したのは、周囲のスタッフではなく、百恵本人だったとされる。伊豆の踊子など多数の映画やテレビドラマで共演した三浦友和とは「ゴールデンコンビ」と呼ばれた。1979年10月20日にはその役柄のイメージのまま、三浦との恋人宣言を発表した。

引退コンサートは1980年10月5日に日本武道館で行われ、『さよならの向う側』を歌い終えて、ステージにマイクを置くシーンはファンの間では伝説となっている。正式な引退は10月15日のホリプロ20周年記念式典である。その時に歌った曲は『いい日旅立ち』である。引退時は弱冠21歳（22歳の誕生日の約3か月前）で、芸能人としての活動は僅か7年程だった。結婚式は11月19日に東京都港区の霊南坂教会で行われた（仲人は大映ドラマで百恵の父親役を数多く演じた宇津井健夫妻）。

引退後

現在はキルト作家として活躍。作品が東京国際キルトフェスティバル等の展示会に出品されることも多い。その作品の完成度から、元トップアイドルという肩書きではなく支持を集めている。

シングル

ひと夏の経験（1974年6月）1974年紅白歌合戦で使用

作詞：千家和也、作曲：都倉俊一、編曲：馬飼野康二

冬の色（1974年12月）

作詞：千家和也、作曲：都倉俊一、編曲：馬飼野康二

横須賀ストーリー（1976年6月）1976年紅白歌合戦使用

作詞：阿木燿子、作曲：宇崎竜童

パールカラーにゆれて（1976年9月）

作詞：千家和也、作曲：佐瀬寿一、編曲：船山基紀

夢先案内人（1977年4月）

作詞：阿木燿子、作曲：宇崎竜童、編曲：萩田光雄

イミテーション・ゴールド（1977年7月）1977年紅白歌合戦使用

作詞：阿木燿子、作曲：宇崎竜童

秋桜（1977年10月）

作詞：さだまさし、作曲：さだまさし

赤い絆<レッド・センセーション>（1977年12月）

作詞：松本隆、作曲：平尾昌晃

乙女座宮（1978年2月1日）

作詞：阿木燿子、作曲：宇崎竜童、編曲：萩田光雄

プレイバックPart2（1978年5月1日）1978年紅白歌合戦で使用

作詞：阿木燿子、作曲：宇崎竜童、編曲：萩田光雄

絶体絶命（1978年8月）

作詞：阿木燿子、作曲：宇崎竜童、編曲：萩田光雄

いい日旅立ち（1978年11月）

作詞：谷村新司、作曲：谷村新司、編曲：川口真

美・サイレント（1979年3月）

作詞：阿木燿子、作曲：宇崎竜童

しなやかに歌って（1979年9月）1979年紅白歌合戦で使用

作詞：阿木燿子、作曲：宇崎竜童

ロックンロール・ウィドウ（1980年5月）

作詞：阿木燿子、作曲：宇崎竜童

1974年、発売。手をだせば散りそうな そんな花びらを、ではじまるこの唄をご存じの方は、あまりないかも知れない。当時、超アイドルだった彼女に、この曲はピッタリはまり、中ヒットていどは記録したが、その歌唱は第一級とはとても言い難い。しかし、そんなハードルを越えて、この唄には、誰もが味わう、青春のゆらぎや感動、失望が、品よく籠められている。(忘れたのね あの約束 この花を見かけたら 思い出すといった、忘れたのね あの約束 この花が咲いたなら....)

少女と別れて、都会にでた青年。別れのときに、三色すみれが咲いたら、きっと君を迎えに来るよと、甘くささやく。けれど、都会にでてみると、多くの困難と多くの誘惑が、降りかかってくる。ゆらぐ青春の一時期、つい口にしてしまいそうな輝かしい約束。少女は待ち続けるが、やがてその約束の色あせてゆくを感じる。その酷い現実と、時の流れ。ここで少女が、恨み節をいれれば演歌だが、ポップス調歌謡曲なので、淡く優しく責めるだけ。深刻なフレーズがある訳ではないが、この曲は、ふいに自分の人生のあれこれを想起させ、深みへと私達を導いてゆくのだ。

(収集プロフィール)

桜田 淳子 (さくらだ じゅんこ、1958～) は日本の元女優、歌手である。秋田県秋田市出身。国本学園卒業。重度の近眼。現在は、3児の母。

来歴

1972年(昭和47年)、中学2年生(14歳)の時に日本テレビの人気オーディション番組『スター誕生!』で優勝し、番組史上最高の25社から獲得の意向を示すプラカードが。翌1973年2月に『天使も夢見る』で歌手としてデビュー。たちまち人気アイドルとなり、同世代の山口百恵・森昌子と共に花の中三トリオ(当時)と呼ばれた。『わたしの青い鳥』のヒットで、日本レコード大賞最優秀新人賞を受賞。

続く4曲目の『花物語』からはヒットチャートのベストテン常連となり、『はじめての出来事』ではオリコンの第1位を獲得。その後も『夏にご用心』、『しあわせ芝居』、『サンタモニカの風』など数々のヒットを飛ばした。1975年のオリコン・シングル年間第1位、ブロマイドや各種人気投票でも女性歌手部門で1位に。、文字通り1970年代を代表するトップアイドルのひとりであった。

演技の素養は早くから注目されており、1978年に東宝歌舞伎の大御所、長谷川一夫の直々の指名により『おはん長右衛門』で初舞台ながら相手役を務めて好演、2年後の1980年には初の主演ミュージカル『アニーよ銃を取れ』で高く評価され、当時史上最年少で芸術祭優秀賞を受賞。スタイルが良かったため、グラビア写真のオファーが殺到し、当時の『週刊プレイボーイ』、『平凡パンチ』、『明星』、『平凡』などで多数のグラビアを飾った。

合同結婚式以降

1992年6月、5日前の山崎浩子の記者会見に続き、統一教会の合同結婚式に参加することを記者会見で表明して世間を驚かせた。このとき、彼女の姉が統一教会に入信しており、合同結婚式で結

ばれた姉夫婦の姿に感化され、桜田自身も15年前（19歳頃）から入信していたことを自ら明らかにした。その合同結婚式で会社役員の東伸行と結ばれ、夫の地元の福井県敦賀市に移り住んだ。1993年の3月に公開された映画『お引越し』への出演が現時点で最後の芸能活動となっている。2004年9月には東京都の世田谷の高級マンションに転居。その後も桜田が統一教会関連の集会で講演したり、歌を披露したりしている姿が報じられ、また日刊ゲンダイの芸能記事では、夫は統一教会の幹部になったとも報じられたが、2006年12月発売の「女性自身」での夫への直撃インタビューによれば、現在は株式等の資産運用で生計を立てているとのことである。

近況

2006年11月には14年間の沈黙を破り、自作のエッセイ集『アイスルジュンバン』（集英社）が発売された。子育ての事、近所づきあい、学校の先生との触れ合い等について書いており、その良妻賢母ぶりに共感する声もあがる一方で。芸能活動を行いやすい東京都に移住した時から「芸能界復帰を目指しているのでは」という憶測がなされており、この本の出版もその足がかりではないかと思われた。同インタビューでは芸能界復帰をする意思があると語っている。一部のニュースや雑誌などでは「桜田淳子、芸能界復帰」と報じているが、まだ2007年現在TV出演などの目立った活動は行っていない。

主な曲

わたしの青い鳥（1973年8月） - 日本レコード大賞最優秀新人賞受賞

十七の夏（1975） - 日本レコード大賞大衆賞受賞

しあわせ芝居（1977） - 日本レコード大賞金賞受賞

シングル

天使も夢みる（1973年2月）

作詞：阿久悠、作曲：中村泰士、編曲：高田弘

わたしの青い鳥（1973）

作詞：阿久悠、作曲：中村泰士

三色すみれ（1974）

作詞：阿久悠、作曲：中村泰士、編曲：馬飼野康二

はじめての出来事（1974）

作詞：阿久悠、作曲：森田公一、編曲：竜崎孝路

十七の夏（1975）

作詞：阿久悠、作曲：森田公一

夏にご用心（1976）

作詞：阿久悠、作曲：森田公一、編曲：高田弘

もう一度だけふり向いて（1976）

作詞：阿久悠、作曲：穂口雄右

しあわせ芝居（1977）

作詞：中島みゆき、作曲：中島みゆき、編曲：船山基紀

追いかけてヨコハマ（1978）

作詞：中島みゆき、作曲：中島みゆき

20才になれば（1978）

作詞：中島みゆき、作曲：中島みゆき

1983年、発売。歌唱力については、申し分ないだろう。結婚による引退まぎわには、大人の演歌も歌いこなせるようになっていた。とくにこの曲と、「哀しみ本線日本海」は、切ない哀愁が心に残る。

娘盛りを 無駄にするなと 時雨の宿で---燃えて燃えつき 冬のつばめよ---

(収集プロフィール)

森昌子(1958～)は、栃木県宇都宮市出身の演歌歌手・女優。宇都宮市立細谷小学校から御田小学校に移り卒業、港中学校(現:三田中学校)から小野学園女子高等学校に進学し、堀越高等学校に移り卒業。前夫は森進一。

学園モノ演歌の最高峰、森昌子。抜群に伸びやか、そして澆刺としたアノ声を聴けば、誰もが淡い思い出の一つや二つ脳裏をよぎるであろう。ましてや、あの愛らしいタヌキ・フェイスを。

72年、言わずと知れたデビュー・シングル「せんせい」でいきなり大ブレイク。そして「同級生」「中学三年生」と次々にヒットを飛ばし、トップ・スターへの階段を駆け上がっていく。また当時、桜田淳子/山口百恵/森昌子の三人は「花の中三トリオ」と呼ばれ、全日本国民から親しまれていたようだ。その後、「故郷ごころ」「祭りのあと」といった正統派演歌を堂々と歌いこなし、アイドルから大物歌手へと華麗なる成長を遂げていった。

経歴

栃木県出身。小学校4年生のとき東京に引っ越す。1971年(昭和46年)12歳で日本テレビ系スター誕生!(1971年10月開始)に出場。初代グランドチャンピオンとなる。

1972年7月 徳間音工から「せんせい」で演歌歌手デビュー。翌年デビューした同学年の山口百恵、桜田淳子とともに「花の中三トリオ」と呼ばれる。尚、この中三トリオで最初にNHK紅白歌合戦に初出場を果たしたのも彼女であり、15歳最年少での出場であった(1973年)。

1975年(昭和50年)、「花の高2トリオ・初恋時代」で初めて山口・桜田と共演。また、この年3～4月に開催された、春のセンバツ高校野球大会に「おかあさん」が入場行進曲に選ばれ、森もセンバツ大会の開会式にゲスト出演した。

1977年、堀越高校を卒業。同期卒業生には岩崎宏美、岡田奈々、池上季実子らがいる。

1977年(昭和52年)の「なみだの棧橋」以降、本格的な演歌歌手への道を歩み始め、「彼岸花」など難易度の高い曲を歌いこなすことのできる実力派へと成長。1981年の「哀しみ本線日本

海」で出場9回目、弱冠23歳にして初の紅白・紅組トリを務め、1983年の「越冬つばめ」で第25回日本レコード大賞・最優秀歌唱賞を受賞。このほか、TBSの金曜ドラマ「思い出づくり」などドラマにも出演。

1979年(昭和54年)新宿コマ劇場で史上最年少女座長として「森昌子公演」を行う

1983年 「越冬つばめ」で第25回日本レコード大賞最優秀歌唱賞を受賞。感激の余り受賞時

に嬉し涙を流しながら歌ったが、何故かその後の紅白歌合戦でも、途中泣きながら唄い続けていた。

1985年(昭和60年)紅白歌合戦で初の紅組司会及び大トリを務めた。

1986年（昭和61年）10月 演歌歌手の森進一と結婚。歌手業を引退。

2001年（平成13年）12月 紅白歌合戦へ16年ぶりに出場。これを機に限定的ながら復帰（夫婦共演形式でのコンサートツアー及びCD吹き込みのみ）。

2005年（平成17年）2月 自宅で薬物を大量に飲んで倒れ、緊急入院。わずか1日で退院。さまざまな憶測がワイドショーや週刊誌に取り上げられることが多く、この事が後の離婚騒動に発展した。この頃から森進一との不仲説が大きく報じられる。

2005年（平成17年）3月 森進一と別居。

2005年（平成17年）4月 離婚を発表。

2006年（平成18年）3月 旧所属事務所のホリプロから歌手として復帰することを発表。

2006年4月、幻冬舎から初エッセー集「明日へ」を刊行。その後、和田アキ子・榊原郁恵らにより、「おかえり！昌子 激励の会」が開かれ、関係者700人が詰め掛けた。

2006年（平成18年）5月、「NHK歌謡コンサート」でテレビに復帰。「越冬つばめ」・「父娘草」などを涙ながらに熱唱。以降意欲的にテレビ出演などの活動を行う。

2006年6月 古巣のポニーキャニオンから20年ぶりの新曲「バラ色の未来」をリリース。

主な曲

せんせい（1972年、デビュー曲）

同級生（1972年）

中学三年生（1973年）

夕顔の雨（1973年）

記念樹（1973年）

若草の季節（1974年）

下町の青い空（1974年）

おかあさん（1974年）

あの人の船行っちゃった（1975年）

港のまつり（1977年）

なみだの棧橋（1977年）

翔んでけ青春（1979年）

哀しみ本線日本海（1981年）

立待岬（1982年）

越冬つばめ（1983年）

バラ色の未来（2006年）

こころ雪（2007年）

1973年、発売。この曲は、当時4、5年の間、よく巷に流れたので、ご存じの方は多いかも知れない。麻丘のなかで、最も売れた曲、ともいえる。歌唱力があるとは、言いにくい歌手だが、この唄に関しては、拙さが余計に、青春の楽しさや、不安定さを、醸し出しているようだ。ありふれていながら、誰も気づかなかった、左利きという、着眼点がいい。

私が、小学生だったころ、放課後の時間、私は図書室で本を借りて、教室に戻ってきた。そこには、担任の若い女教師がいて、机に座り、鉛筆をノートに向けた、ひとりの男の子に、熱心に何かを指導していた。居残り勉強など、偉いなあ、などと一瞬思ったが、男の子はしくしくと泣いていた。状況を読み取れなかったので、離れた席に、もうひとり残っていた生徒に、小声で「どうしたの?」と聞いてみた。彼は小声でポツンといった。「直しているんだよ」。私は、ハッとした。つまり、左利きの矯正をしているのだった。当時は、左利きは、まだまだ邪道のような概念が、世間に強く残っていて、子供のうちに直してあげるのが、正当と思われていた。私は、可哀想に、とは思ったが、直せるのなら直したほうがいいのか、とも思った。だから、この唄が流行ったとき、まさに、隔世の感、を感じたものだった。

小さく投げキッス する時もする時も こちらにおいでと 呼ぶ時も.....

(ウィキペディアより)

麻丘 めぐみ (あさおか めぐみ、1955年10月-) は、日本の女優、歌手。本名、藤井 佳代子。

大分県出身の大阪育ち。1970年代を代表するアイドルの一人で、長い黒髪、チャーミングな容貌と歌声で一時期を築いた。現在も、女優として活躍している。

明治大学付属中野高校夜間部卒業。

プロフィール

4歳で子役として芸能界デビューする。

1972年、『芽ばえ』で歌手デビューし、ヒットを飛ばす。世の若い男性たちから絶大なる支持を得て、一躍トップアイドル歌手へ。その年の日本レコード大賞で最優秀新人賞を受賞する。

1973年、『わたしの彼は左きき』が大ヒット。日本レコード大賞で大衆賞を受賞し、NHK『紅白歌合戦』にも初出場、自身の代表ソングにもなる。この曲の大ヒットで日本では一躍左利きが注目され、左利き用品が多数発売されるようになったというエピソードもある。ちなみに麻丘めぐみ自身は左利きではない。

1977年に結婚し、一時期芸能活動を中断するが、1983年に復帰。

以降、現在にいたるまで舞台や映画・テレビなどで女優として活躍している。

実姉の藤井明美も歌手であった。

シングル

芽ばえ (1972年) - 作詞 千家和也 / 作曲 筒美京平 デビュー曲、いきなり40万枚を越すセールス

悲しみよこんにちは (1972年) - 作詞 千家和也 / 作曲 筒美京平

わたしの彼は左きき (1973年) - 詞 千家和也 曲 筒美京平 50万枚のセールスを記録し、オリコン1位も獲得

アルプスの少女（1973年） - 作詞 千家和也 / 作曲 筒美京平

ときめき（1974年） - 作詞 千家和也 / 作曲 筒美京平

悲しみのシーズン（1974年） - 作詞 千家和也 / 作曲 筒美京平 最後のBEST10入り

テレビドラマ

刑事くん（1973年、TBS）

教師びんびん物語（1988年、フジテレビ）

さすらい刑事旅情編

第 10 : 北国の春 千昌夫

1977年発売。この曲は、1979年にブレイクして、累計売上げは、300万枚とされている。私がかつて若かったころ、この歌は、テレビやラジオからよく流れてきていた。千昌夫はすでに、「星影のワルツ」という大ヒットを持つ、有名歌手で、この曲が2曲めの大ヒットだった。ほかに5、6曲の中ヒットがある。

(詞 いではく 曲 遠藤 実)

白樺 青空 南風 こぶし咲くあの丘 北国の---やまぶき 朝霧 水車小屋 わらべ唄---

日本の原点ともいえる、郷愁にみちたふるさとの風景。特にこの歌手が歌うと、味わい深い。素朴で太く柔らかな、いかにも日本人といった主声。サビにおける、民謡調の高音。どれも、ストレートに胸に響く。この曲は、アジア各国でもヒットし、中国では、現在でも、有名な日本の歌としての、代表作であるという。

バブルの後、千昌夫は、不動産がらみのスキャンダルで、第一線からはフェードアウトしてしまった。が、その人気はいまでも根強い。ほかに「夕焼け雲」「望郷酒場」「アケミという名で十八で」「津軽平野」など、国民的愛唱歌を有する。次世代にも、ぜひ引き継いで貰いたい、高度な技と、愛すべき個性を持つ歌手のひとりだ。

(ウィキペディアより)

千昌夫(せんまさお、1947年4月-)は演歌歌手。

来歴

岩手県陸前高田市出身。水沢第一高等学校中退。

1965年、作曲家遠藤実に入門。同年9月、『君が好き』でデビュー。

ヒット曲に『星影のワルツ』『北国の春』などがある。

1972年、アメリカ人歌手ジョン・シェパードと結婚し、松下電器の「パナカラー・クイントリックス」やいすゞ自動車のアスカ、象印マホービンのCMに夫婦で出演したが、1988年に離婚した。

陸前高田市には「キャピタルホテル1000」という千昌夫が関与したホテルが存在する、という。バブル期には「歌う不動産王」、「ホテル王」と呼ばれるほど、世界各地にマンションやビルなどを所有していた。一時はホノルルの多くのホテルが、千昌夫の持ち物と言われるほどで、物真似でもよく「おら、金もってんどー」というネタが使われた。バブル崩壊とともに借金が膨れ上がり、個人事務所「アベインターナショナル」は経営破綻した。現在、1,000億円を超える借金を抱えていると言われる(ただし、自己破産は行っていない)。その借金の殆どは旧長銀から借り入れた金であり、一時国有化による公的資金投入で一時期3,000億円を超える借金は、1,000億円にまで棒引きされた。現在では、さらに契約を替え、収入から、必要な生活費をまず取り、残りを返済に回しているという。つまり、気の毒だけれど、死ぬまで返済がつづく、ということだ。

代表曲

星影のワルツ(1966年)

元々1966年3月にシングルB面として発売。1967年秋頃から有線放送で火がつきだし、『星影の

ワルツ』をA面扱いで再発したところ、250万枚の売上に。

君がすべてさ（1968年）

アケミという名で十八で（1973年）

北国の春（1977年）

1978年頃からヒットし始め、1979年に大ブレイク。最終的に300万枚の売上。日本以外のアジア各国でも大ヒットした。

味噌汁の詩（1981）日本歌謡曲史上初めて味噌汁をテーマにした楽曲。60万枚の売上。

望郷酒場（1981年）

津軽平野（1984年） 作詞・作曲：吉幾三

上野で五時半（1994年）コロッケとデュエット。「男同士の危ない恋愛」を歌う。

エピソード

トレードマークの額のほくろはコロッケが頻繁に物まねしていたが、15年前ごろレーザー手術で除去している。なおコロッケはその後ほくろありの千昌夫の真似をしている。

1975年、発売。歌謡曲というより、昔のラジオ歌謡、または抒情歌謡とっていい出来だ。やわらかで自在な、五木の歌声。多くの人を、やさしい気持ちにする、ほのかに甘く切ないメロディー。

山口洋子の詞も、完璧とっていい出来で、優しく美しい、多くの人を気分を、やすらげる言葉を配し、スケールも大きく感動的だ。それを、基調に念仏のようなテイストをもつ、五木の歌声が、やわらかに、雄大に、歌いあげる。演歌を本命とする歌手だが、この分野でも、まだまだ名曲を生み出せる、実力をもった歌手である。

水の流れて 花びらを そっと浮かべて 泣いたひと---里の灯ともる 信濃の旅よ

(収集プロフィール)

五木ひろし(いつきひろし、1948年3月-)は、日本の歌手。福井県三方郡美浜町出身。明治大学附属中野高校卒業。演歌界のみならず、邦楽をも代表する大御所である。

(前略)

1988年、女優の和由布子と結婚。私生活も磐石の時を迎え、その後も『高瀬舟』(2006年)、『ふりむけば日本海』(2005年)、『山河』(2001年)と、CD売り上げの不振の最中にある演歌界の中でコンスタントにヒットを続け、国民的な歌手として大衆にも広く支持されている。

多くの人(聴く側)にとって、オーソドックスで上手い、という点ではこの人の右に出るものはいない。変に嫌なクセがないし、変に力んだりもせず、基本的には常に聴き心地の良い流暢な流れながらも、そのくせ、溜め、声量、迫力もあるという、まさにマジックスターとも言える。

コメント録

*71年の「よこはまたそがれ」の大ヒット以来、30年近くも演歌界の頂点に君臨する大物シンガーである。精密機械のごとく巧妙に声を震わす独特の歌唱法、そして、あの右手と腰をシェイクさせるアクの強いステージングはまさに国宝級と言えよう。

*重厚感に満ちた五木節は楽曲の解釈の巧さ、説得力のある歌唱で、安心して聴いていられる。男の孤独な姿を唄った曲が、深く印象に残る。

*男と女の切ない恋模様を、情感タップリに唄いあげている。こういう世界になると、五木ひろしの独壇場。粘るような唄い方でありながら、繊細な余韻をのこしてサラリと仕上げ、技ありの一本。

*どちらも声の伸び、押し引きの巧みさなど、ファンならずとも安心して身をゆだねられる五木節は健在。イントロのギターに古賀作品を思い起こす「旅路」の、淡々とした味の裏に潜むスケールの大きさが印象的。

*哀愁とともにスケールの大きさを感じさせる「アカシア挽歌」、「雪燃えて」を淡々と歌う彼の歌唱スタイルには、40周年だからといった特別の変化はない。いつもどおり抑制しつつ揺らす歌声に、哀切の情を託していく。

*古賀メロディが、日本人の琴線を微妙にくすぐることは事実で、それが五木の粘っこい節回しにより強調される。ウェットな世界ドゥプリと、食わず嫌いの向きもあろうが、その印象は詩

の湿っぽさに負うところが少なくないと気づいた。

*ムード歌謡系のソフトな歌声による「そして...めぐり逢い」、「傘人中」ではレキント・ギターにのっ　ての泣きの歌唱など五木節は変幻自在。

*裕ちゃんの代表曲で、あの低音の歌い出しを想像してしまうが、五木らしい高音からスタートし、そのまま五木ワールドに引き込まれてしまう。五木も先輩として歌い方を相当研究したのだろう、意外と共通するところがあるように思った。

*絞り出すようなヴォーカルが、哀愁を誘う。

*吉田正作品の持つモダンな感覚と、五木の小粋なヴォーカルをミックスし、いずれもオリジナルとは一味違った魅力を引き出している

*溜め息のように低くフツとまわるコブシの魅力に、味を感じてしまうこの頃。

*70年代のニューミュージックのヒット曲をカヴァーしているが、中でも初期フォーク・ソングの代表作である岡林信康の「山谷ブルース」を、五木ひろしが歌うとき詞の意味がまるで違うものとなって聴こえてくる。唄とヴォーカリストの関係が、これほど赤裸々に異相のものとして出ているのも珍しい。

*古賀政男ものは、定型化した古賀イメージを再強化していくが、甘さが漂っていた五木ひろしがいる。

*オリジナル曲はすべて新録音である。当然編曲は変えていて洗練度を増しているけれども、その歌唱は、ワールドミュージックとしての「日本の演歌」を強く意識しているような歌い方だ。

*粘りと揺れの一段と増した五木ひろしの歌声は、デビュー時のモダン歌謡といったスタイルから泣きを強調する粘りを抽出。

*これまでの五木ひろしには色気というよりも、男の下心といったものを感じさせる魅力があった。ところが、そのムンムンの色気めいたものが影にまわり、老けこみとも思える落ちつきが出てきた。溜めを利かせたアクの強い歌唱スタイルも完成されている。

*ぐっとねばる歌声が、いつまでも耳の奥深くの神経にまとわりつく。このまとわりつく歌声こそが、五木演歌の魅力なのだ。長渕剛や美空ひばりをカヴァーしたとき、オリジナルを超えた臭みをこれでもかと発揮する。

*1人の歌手が昭和歌謡史を歌い上げる、果敢な企画全107曲という大作である。いわゆる演歌的情感を軸にした選曲・配置によって、五木ひろしの限界にまで挑もうという意欲横溢。が、可能性を広げようというものではない。ゆくゆくはリズムもの編を作り、力のほどを示しておいてほしい。それにしても無理矢理五木節に持っていこうとしなくても、どの作品も至極自然にそうなってしまうざるをえない歌唱術。その世界観はとんでもない底力。

経歴

1964年、コロムビア全国歌謡コンクールで優勝、上原げんとにスカウトされて1965年、「松山まさる」の芸名で『新宿駅から』でデビュー。しかし全くヒットせず、以後7年間不遇の時代を過ごす。この間、芸名も「一条英一」、「三谷謙」と2度変更している。

1970年、歌手再起をかけて『全日本歌謡選手権』に出場し、10週勝ち抜き。審査員であった平尾昌晃、山口洋子に師事した。出場時、「これでだめなら、福井に帰って農業をやる」と覚悟の程

を語っている。

1971年3月1日、『よこはま・たそがれ』で「五木ひろし」の芸名で再デビュー。発売から1週間後には北海道の有線放送のチャートで1位となったのをはじめとして、発売から半年で売上100万枚を突破と瞬く間に大ヒット。第13回日本レコード大賞歌唱賞を受賞したほか、念願のNHK紅白歌合戦にも初出場を果たす。

1972年には、ポップス演歌と称された『待っている女』、『夜汽車の女』、そして1973年には『夜空』で、3年連続の日本レコード大賞歌唱賞、そしてレコード大賞を手中にし、森進一と並ぶ男性筆頭の人気歌手へと急成長する。1974年・1975年とレコード大賞史上初めてとなる2年連続での最優秀歌唱賞を受賞、また、1975年には出場5回目にして『千曲川』で初の紅白歌合戦・白組ト리를務めた。

1979年、折からのカラオケブームに乗り久々に『おまえとふたり』がヒット。『ふたりの夜明け』（1980年）、本格的演歌のヒットが続いた。1982年には自作の曲『契り』が映画『大日本帝国』の主題歌となり話題を呼び、歌の幅を広げる契機にもなった。

1988年、女優の和由布子と結婚。私生活も磐石の時を迎え、その後も『高瀬舟』（2006年）、『ふりむけば日本海』（2005年）、『山河』（2001年）と、CD売り上げの不振の最中にある演歌界の中でコンスタントにヒットを続け、国民的な歌手として大衆にも広く支持されている。2002年には、自身のレコード会社・ファイブズエンタテインメントを設立。2006年で紅白歌合戦出場回数は連続36回を数え、通算出場回数では歴代3位、連続出場記録でも森進一の37回に次ぎ2位という記録を更新している。また、3月には東京日生劇場でのリサイタルコンサートが評価され、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。

多くの人（聴く側）にとって、オーソドックスで上手い、という点ではこの人の右に出るものはいない。変に嫌なクセがないし、変に力んだりもせず、基本的には常に聴き心地の良い流暢な流れながらも、そのくせ、溜め、声量、迫力もあるという、まさにマジックスターとも言える。

主な曲

1971年

- よこはまたそがれ（詞・山口洋子 曲・平尾昌晃）
- 長崎から船に乗って（詞・山口洋子 曲・平尾昌晃）

1972年

- かもめ町みなと町（詞・山口洋子 曲・筒美京平）
- 待っている女（詞・山口洋子 曲・藤本卓也）
- 夜汽車の女（詞・山口洋子 曲・藤本卓也）
- 旅鴉（詞・藤田まさと 曲・遠藤実）
- あなたの灯（詞・山口洋子 曲・平尾昌晃）

1973年

- 霧の出船（詞・山口洋子 曲・平尾昌晃）
- ふるさと（詞・山口洋子 曲・平尾昌晃）
- 夜空（詞・山口洋子 曲・平尾昌晃）

1974年

浜昼顔 (詞・寺山修司 曲・古賀政男)

みれん (詞・山口洋子 曲・平尾昌晃)

1975年

千曲川 (詞・山口洋子 曲・猪俣公章)

1977年

灯りが欲しい (詞・藤田まさと 曲・遠藤実)

1979年

蝉時雨 (詞・喜多条忠 曲・宇崎竜童)

おまえとふたり (作詞・たかたかし 曲・木村好夫)

1980年

倅せさがして (詞・たかたかし 曲・木村好夫)

ふたりの夜明け (詞・吉田旺 曲・岡千秋)

1981年

人生かくれんぼ (詞・たかたかし 曲・弦哲也)

1982年

契り (詞・阿久悠、作曲・五木ひろし)

居酒屋 (デュエット：木の実ナナ 詞・阿久悠 曲・大野克夫)

1983年

細雪 (詞・吉岡治 曲・市川昭介)

1984年

長良川艶歌 (詞・石本美由起 曲・岡千秋)

1985年

そして...めぐり逢い (詞・荒木とよひさ 曲・中村泰士)

2000年

山河 (詞 小椋佳 曲・堀内孝雄)

演歌としての、ほのかな哀愁を帯びたシンプルなメロディーと歌詞が、功を奏している。さり気なく、すっと胸の内に入り込んで来る。「霧の出船」「ふるさと」「倅せさがして」などと並ぶ、名作である。

わたしは不幸ぐせ とれない女と この胸に か細い手を---心におなじ 傷をもつ 似た者同士
さ 俺たちは しあわせを---

(収集プロフィール)

五木ひろし(1948-)は、歌手、作曲家。福井県出身。明大付属中野高校卒業。71年の「よこはまたそがれ」の大ヒット以来、演歌界の頂点に君臨する大物シンガー。あの右手と腰をシェイクさせる、アクの強いステージングはまさに国宝級。

経歴

1964年、第15回コロムビア全国歌謡コンクールにて優勝。

作曲家・上原げんとにスカウトされ、内弟子となる。

1971年3月、<五木ひろし>に改名して「よこはま・たそがれ」で再デビュー。「よこはま・たそがれ」は山口洋子-平尾昌晃コンビで作られ、単語の羅列ながらも<女ごころ>が巧みに表現されている。売上げ64.2万枚を記録する大ヒットとなる。

これまで男性歌手の演歌はといえば、ド演歌、任侠もの、民謡調、浪曲調、女の情念や酒場を描いた暗いブルースくらいしかなかった。そういうところに抜群の歌唱力を持ち合わせた若い五木が登場してきたため、モダンでソフトな演歌に飢えていたファンが「待ってました」とばかりに飛びついた。

1973年、<リズム演歌>「あなたの灯」でより持ち味を発揮、ファン開拓に成功。今後の方向性を指し示した作品となる。つづく「霧の出船」、<叙情演歌>の名曲「ふるさと」、スケールの大きなポップス演歌「夜空」と、一作一作に趣向が凝らされ活躍。

森進一はデビュー以来、<ためいき路線>と形容される女の情念や酒場をテーマに掲げて歌ってきたが、その暗い曲調が飽きられつつあり、スランプ気味であった。そこで猪俣公章が五木の躍進に刺激を受けて、モダンな演歌を模索、起死回生で放った「冬の旅」がヒット。森がトップ歌手の座に返り咲いた。

1974年、第3回東京音楽祭国内大会では「別れの鐘の音」が演歌としては初めてゴールデン・カナリー賞を受賞。

五木と森は人気と実力を兼ね備えた<男性演歌の旗頭>として並び称せられるほどに成長。年齢が同じ、歌唱力が同等、ジャンルが同じ、曲調も似ている、女ごころを歌わせたら双璧、とふたりは共通点が多く、何事に於いても比較された。以降も<宿命のライバル>として切磋琢磨していく。

第4回東京音楽祭国内大会では「千曲川」でゴールデン・カナリー賞を連続受賞し、同世界大会へも連続出場。

1977年、<心情演歌>「風の子守唄」につづいて、この年の勝負作「灯りが欲しい」は初めて<

男ごころ>を採り上げ、ヒット。

1979年、折りからのカラオケブームに乗り、古賀政男の弟子でギタリスト・木村好夫作曲による「おまえとふたり」が、売上げ91.7万枚を記録、久々に大ヒット。

1980年、「倅せさがして」「ふたりの夜明け」と一年を通じてヒットを連発。

1983年、<初の艶歌>となる「細雪」がヒット。

1984年、この年の勝負作「長良川艶歌」は、「石本美由起＝コロムビア専属作詞家」という<レコード会社の壁>を乗り越えて誕生。石本は喚起力のある言葉、音感的にきれいな言葉、というのが作詞家としての信条であり、この曲とぴったり符号。大ヒットを記録。

2004年3月、自身の構成演出による日生劇場ライブコンサートが評価され、文化庁より第54回芸術選奨文部科学大臣賞（大衆芸能部門）を受賞。

11月、紫綬褒章を受章（流行歌手としては島倉千代子以来となる）。

コブシ(小節)やヴィブラート、ファルセット（裏声）を巧みに使い分け、精密機械のごとく声を震わせる独特の歌唱技術。

右手のファイティング・ポーズと、腰をシェイクさせてリズムを採る歌唱スタイルは今や代名詞

。

主な曲（前略）

1986年

当日・消印・有効（覆面バンド・ブービーズとして 作詞・三浦徳子 作曲・小杉保夫） 4月リリース

浪花盃（作詞・石本美由起、作曲・市川昭介）

1987年

追憶（作詞・阿久悠、作曲・三木たかし）

1988年

それは...黄昏（作詞・荒木とよひさ、作曲・杉本真人）

港の五番町（作詞・阿久悠、作曲・彩木雅夫）

絆（作詞・阿久悠、作曲・五木ひろし）

1989年

面影の郷（作詞・山口洋子、作曲・猪俣公章）

暖簾（作詞及び作曲・永井龍雲）

二枚目酒～居酒屋PartII（デュエット：田中好子、作詞・阿久悠、作曲・大野克夫）

1990年

心（作詞・星野哲郎、作曲・船村徹） 8月リリース

1991年

母人よ（作詞・荒木とよひさ、作曲・三木たかし）

時が過ぎれば...（作詞・大津あきら、作曲・浜圭介）

おしどり（作詞・石坂まさを、作曲・弦哲也）

1992年

杯に歌のせて（作詞・阿久悠、作曲・大野克夫）

愛別（作詞・石坂まさを、作曲・五木ひろし）

終着駅（作詞・松本隆、作曲・玉置浩二）

1993年

べにばな（作詞・石坂まさを、作曲・弦哲也）

1994年

涙でもかまわない（作詞・松井五郎、作曲・松田博幸）

浪花物語（デュエット：中村美律子、作詞・もず唱平、作曲・岡千秋）

女・ひとり（作詞・荒木とよひさ、作曲・五木ひろし）

汽笛（作詞・木下龍太郎、作曲・伊藤雪彦）

1995年

パパとあそぼう（作詞・高田ひろお、作曲・五木ひろし）

愛のバラードを...となりで（作詞・荒木とよひさ、作曲・五木ひろし）

素浪人の唄（作詞・迫間健、作曲・五木ひろし）

酒 尽 尽（作詞・能吉利人、作曲・桜井順）

1996年

由良川慕情（作詞・もず唱平、作曲・五木ひろし）

女の酒場（作詞及び作曲・永井龍雲）

1997年

出発（たびだち）の朝（作詞・吉本哲雄、作曲・五木ひろし）

罪と罰（作詞・岡田富美子、作曲・浜圭介）

紫陽花（あじさい）（作詞・松本礼児、作曲・幸耕平）

雑草（作詞・松井五郎、作曲・永井龍雲）

1998年

そして...花送り（作詞・吉本哲雄、作曲・五木ひろし）

千日草（作詞・水木れいじ、作曲・上総優）

傷だらけの人生（作詞・藤田まさと、作曲・吉田正）

酒ひとり（作詞・土田有紀、作曲・岡千秋）

流れ星（作詞・荒木とよひさ、作曲・五木ひろし）

1999年

萩の花郷（さと）（作詞・水木れいじ、作曲・五木ひろし）

再（めぐ）り会い（作詞・悠木圭子、作曲・鈴木淳）

2000年

京都恋歌（作詞・高林こうこ、作曲・田尾将実）

山河（作詞・小椋佳、作曲・堀内孝雄）

風雪（かぜ）に吹かれて聞こえる唄は...（作詞・吉本哲雄、作曲・五木ひろし）

2001年

おふくろの子守歌（作詞及び作曲・つんく）

浮浪雲（作詞・ジョージ秋山、作曲・五木ひろし）

逢いたかったぜ（作詞・石本美由起、作曲・上原げんと）

2002年

渚の女（ニューヴァージョン）（作詞・山口洋子、作曲・五木ひろし） 1月リリース

傘人中（作詞・阿久悠、作曲・船村徹）

愛のメリークリスマス（五木・孝雄＋ハロー!プロジェクト聖歌隊。として：作詞・阿久悠、作曲・船村徹）

2003年

北物語（作詞・阿久悠、作曲・船村徹）

望郷の詩（作詞・阿久悠、作曲・五木ひろし）

逢えて...横浜（作詞・悠木圭子、作曲・鈴木淳）

2004年

アカシア挽歌／雪燃えて（作詞・荒木とよひさ、作曲・弦哲也）

2005年

ふりむけば日本海（作詞・五木寛之、作曲・五木ひろし） 3月リリース

2006年

高瀬舟（作詞・水木れいじ、作曲・五木ひろし）

ソフトに入りこんでくる、詞の素直なフレーズ。メロディーも、しづかな出足から徐々に昂ぶり、やがて雄大なスケールへと、私達は心地よく運ばれてゆく。

あなたは誰と契りますか 永遠の心を 結びますか 波のうねりが 岸にとどく 過去の歌をのせて 激しい想いが 砕ける涙のように 緑は今も---

(収集プロフィール)

五木ひろし(いつきひろし、1948～)は、日本の歌手、作曲家である。2007年、紫綬褒章を受章。福井県三方郡美浜町出身。

父親は鉱山技師で、鉱脈を追って家族で各地を転々とし京都府で生まれる。生後、家族で美浜町に移り、父親は鉱山技師を辞め建築用石材を扱う会社を興す。

*ジャパニーズ・ソウルの帝王。71年の「よこはまたそがれ」の大ヒット以来、30年近くも演歌界に君臨する。

来歴(初期・略)

1983年、「あなた」は自ら作曲を手懸け、最高位26位、15万枚に迫る売上げ。

*映画(東宝系)「おはん」(原作:宇野千代/監督:市川崑/出演:吉永小百合、大原麗子)の封切りに合わせ、同映画主題歌としてタイアップした艶歌「おはん」。「長良川艶歌/おはん」は最高位10位、65万枚を超える売上げを記録。

1986年、大阪を舞台とした浪花演歌「浪花盃」は最高位23位、20万枚を超える売上げ。

1987年、ニューヨーク公演をリンカーン・センターに於いて興行。大作バラード「追憶」は、30万枚を超える売上げ。

1989年5月、女優の和由布子と結婚。披露宴の規模は5億円と云われ、当時芸能界最高額。

*今後はより熟成された作品を新曲として発表し、発売周期には拘らずにじっくり歌い込んでゆき、音楽文化の継承、後進の指導と育成、地域社会への貢献などにも目を向ける。

1991年、「財団法人国際親善協会」の設立をプロデュース。2004年、3月、第54回芸術選奨文部科学大臣賞(大衆芸能部門)を文化庁より受賞(受賞理由:日本の歌謡界に多大な業績を残した古賀政男作品に取り組み、創唱者に敬意を表す一方、自身の個性や持ち味を発揮し存在を強く印象付けた。大衆歌謡を原点に、伝統の継承と現代性を追求し実践。)

*「千曲川」山口洋子は、この三拍子のメロディーの美しさに惚れ、猪俣から略奪に近い形でこれを譲り受ける。信濃川と名前を変え滔滔(とうとう)と日本海に注ぐ“日本一の大河”千曲川を詠った明治の文豪・島崎藤村の「千曲川旅情の歌」に感銘を受けた山口は、これを「千曲川」に改題し、敢えて現地には赴かずに東京に居ながら現地の情景を憧憬にも似た想いで詞を練った。その際、演歌にありがちな愛や色恋や情の部分を廃した。これらが功を奏し、最高位6位、45万枚を超える売上げを記録。

シングル(後略)

1965年

新宿駅から/信濃路の果て(松山まさる名義、作詞:古野哲也、作曲:上原げんと)6月発売

しばてん踊り（松山まさる）

恋の船頭さん/さよならてるてる坊主（松山まさる、作詞：丘灯至夫、作曲：上原げんと）

母と子の道/恋の長崎（松山まさる、詞：西沢爽、曲：上原げんと）11月発売

1966

お月見おどり（松山まさる）2月発売

働きながら学ぶ友/空手小僧（松山まさる、詞：白鳥朝詠、曲：市川昭介）

1967

俺を泣かせる夜の雨（一条英一、詞：白鳥朝詠、曲：松山まさる）

俺のキスは嘘じゃない/今夜の俺は燃えてるぜ（一条英一名義、詞：白鳥朝詠、曲：池よしを）

1968

波止場のマリー/夜が憎い（一条英一名義、詞：水木かおる、曲：藤原秀行）

1969

雨のヨコハマ/東京 長崎 札幌（三谷謙名義、詞：北五郎、曲：遠藤実）

1971年

よこはま・たそがれ（詞：山口洋子、曲：平尾昌晃）

こういう曲なので、大ヒットという訳にはいかないが、大名曲である。ちょっとしたアレンジで、世界に通用する曲でもある。世俗っぽさ（不当に貶められた）からスタートした幼い彼女が、努力や苦難を経て、余人の追撃を許さない大人の純文学的歌謡曲に到達したシーンでもある。「終わりなき旅」「裏窓」なども、同様である。いうまでもなく、見事に素晴らしく唄いこなしている。

この曲は、歌謡曲ではあるが、ジャズ調のストリングスが快く、シリアスな内容を返って切実に感じさせる。

（なかにし礼・詞 三木たかし・曲）

眠れ 眠れ わが魂よ 雨の匂いにむせながら みんな最後は一人ぼっち てんてん手鞠の手がそ
れて 別れて来ましたあの人と---てるてる坊主の真似をして 死んだりしません つらくとも---み
んな迷子の ひとり旅

（ウィキペディアより）

美空ひばり（みそら ひばり、1937年（昭和12年）5月29日-1989年（平成元年）6月24日）は、数々のヒット曲を歌い銀幕スターとして多数の映画に出演した昭和の歌謡界を代表する日本の歌手、女優である。女性として初の国民栄誉賞を受賞。

*もはや言うまでもなく、戦後最大の歴史的スーパースター、美空ひばり。彼女の存在は昭和歌謡史にとてつもなく大きな足跡を残したと同時に、激動の時代を生き抜いた日本国民の数少ない心のよりどころであった。その功績はあまりにも大きい。

49年、敗戦の喧騒のさなか弱冠12歳の天才少女、美空ひばりは「河童ブギウギ」にて登場。笠置シズ子の「東京ブギウギ」を下敷きとした、このデビュー曲は残念ながらヒットに繋がらなかった。がしかし、同年公開された初主演映画『悲しき口笛』の同名テーマ曲が爆発的のヒットを記録し、一躍スターダムへのし上がる。以降、ドメスティックな色合いの演歌歌謡楽曲を着実にヒットさせていく一方で、ジャズ/マンボ/ブルース/ロックンロール/ロカビリーなど、いわゆる洋楽テイストを大胆に導入し消化した、秀逸極まりない歌謡ナンバーを数多く世に残していった。また、50年代半ばより、江利チエミ、雪村いづみと共に“三人娘”として活躍。以後、脈々と受け継がれるイメージ戦略先行型三人編成アイドル・チームの礎となっていたのは言うまでもなからう。1989年永眠。

*「不死鳥」シリーズ4枚をまとめたボックス。病床からカムバックした美空ひばりが88年4月に発表したオリジナル作「不死鳥」での、ひばり本来の素直な歌唱には感涙する。この演歌・歌謡曲の作家陣による作品に対して、「川の流れるように？ 不死鳥パート2?」は88年12月発表の秋元康プロデュース作で、ポップス系の作曲陣による曲という構成。ここからひばりの「マイ・ウェイ」といえる晩年の名曲「川の流れるように」が生まれた。88年4月の東京ドーム公演を収録した「美空ひばり in TOKYO DOME」では、往年のヒット曲集とならざるを得ないほどヒットがあったことを実感させる。ディスク4の冒頭のゆっくりとうたい始める「真赤な太陽」には、ひばりの歌力(チカラ)を思い知る。「ひばりの佐渡情話」でスーッと涙を流す姿を思い浮かべてし

まう。

*上原げんとや米山正夫らによる映画主題歌などを歌うひばりの初期音源を含むベスト。ひばり節のコブシは、演歌とは異質の伝統的な邦楽のコブシだったと確認できる「かもめ白波」「涙の白桔梗」などが聴ける。意外なほど凝ったサウンド創りも発見するはず。

*美空ひばりが歌ったリズム歌謡を集めている。笠置シズ子の真似でデビューしているだけに、彼女のビート感は逸品だ。演歌などではなく、リズム歌謡の中でひばりは再評価されるべきだし、同時にもっと評価されていていい米山正夫の作品との相性の良さを確認。

*アルバム「祈り」 軍歌・戦時歌謡13曲+オリジナル3曲で、幼少期を戦時下に過ごした彼女の「平和」への想いをまとめた企画作。空襲など自らの悲惨な体験をベースに、死んでいった者への温かな眼差しを込めつつ、あの時代への嫌悪とある種の郷愁を見事に唄い上げている。

*モダンでメロディアス、そしてアバンギャルドに発展していった昭和30年代40年代の歌謡曲シーンが注目を集めている。そんなドーナツ盤時代のヒット・ナンバー。

*アルバム「Happy Birthday,HIBARI!!!」

日本の歌謡史に燦然と輝く巨星、美空ひばり。2006年はデビュー60周年に当たる年で、1949年のデビュー曲「河童ブギウギ」から89年のファイナル・シングルとなった「川の流れるように」まで、ベスト中のベスト全60曲を収めた記念アルバム。最初と最後の曲が「川(河)」が付くのは奇遇か?まとめて聴くと、美空ひばりという人が、ただ歌がうまいだけでなく実に表情豊かに歌っているのがわかってくる。このアルバムには日本語の歌だけでなくスペイン語の「エル・チョクロ」、英語の「上海」「アゲイン」も歌っているが、もちろん美空ひばりはスペイン語はもちろん英語もできなかつた。だが完璧と言っていい発音で歌っている。これらの歌は耳コピーした歌なのだ。美空ひばりの歌のうまさの要因のひとつは耳が良かったことだとわかる。昭和の天才を3時間45分で知る好企画盤。

*「美空ひばり端唄集」

江戸時代末期から幕末にかけて流行った三味線弾き語り曲の端唄。いわゆる当時の流行歌である端唄の名曲20作品を収録したアルバム。「江戸のいきといなせ」を歌い分けたひばりの歌声は見事だ。

*ストリングスをバックにひばりの歌う「ひとすじの道」は、その昔ジャズ・ソングを歌った姿を思い出させる堂々としたもの。アクの強いひばり節が散見されるが、ここでの歌い上げは圧巻。「ひばりの観音経」は小林旭のリズム歌謡で知られる粕林正一作曲。

私は熱狂的なファンではないが、この曲に至ってはもはや神がかり的うまさ、といって過言ではない。従来「哀愁波止場」「哀愁出船」「ひばりの佐渡情話」が三大名唱と言われてきたが、この曲を加えて四大名唱に代えるべきであろう。

あと抒情歌の名唱として「津軽のふるさと」「愛燦燦」「冬のくちびる」「川の流れるように」。酒の名唱として「悲しい酒」「裏町酒場」「裏窓」など。

(詞：星野哲郎 曲・船村徹)

髪のみだれに手をやれば 赤い蹴だしが 風に舞う 憎や 恋しや 塩屋の岬 投げて届かぬ
想いの糸が 胸にからんで 涙を---

(収集プロフィール)

美空ひばり(みそらひばり、1937(昭和12)5月-1989(平成元年)6月)は、数々のヒット曲を歌い銀幕スターとして多数の映画に出演した昭和の歌謡界を代表する日本の歌手、女優である。女性として初の国民栄誉賞を受賞した。横浜市出身。愛称は御嬢(おじょう)。精華学園高等部卒業。

*もはや言うまでもなく、戦後最大のスーパースター、美空ひばり。彼女の存在は昭和歌謡史にとつともなく大きな足跡を残したと同時に、激動の時代を生き抜いた日本国民の数少ない心のよりどころであった。その功績はあまりにも大きい。1949年、敗戦の喧騒のさなか弱冠12歳の天才少女、美空ひばりは「河童ブギウギ」にて登場。笠置シズ子の「東京ブギウギ」を下敷きとした、このデビュー曲は残念ながらヒットに繋がらなかった。が、同年公開された初主演映画『悲しき口笛』の同名テーマ曲が爆発的ヒットを記録し、一躍スターダムへ。以降、ドメスティックな色合いの演歌歌謡楽曲を着実にヒットさせていく一方で、ジャズ/ブルース/ロカビリーなど、いわゆる洋楽テイストを大胆に導入し消化した、秀逸極まりない歌謡ナンバーを数多く世に残していった。また、50年代半ばより、江利チエミ、雪村いづみと共に“三人娘”として活躍。

*『不死鳥』シリーズ4枚をまとめたボックス。病床からカムバックした美空ひばりが88年4月に発表したオリジナル作『不死鳥』での、ひばり本来の素直な歌唱には感涙する。『川の流れるように?不死鳥パート2』は88年12月発表の秋元康プロデュース作で、ポップス系の作曲陣による曲という構成。ここからひばりの「マイ・ウェイ」といえる晩年の名曲「川の流れるように」が生まれた。ディスク4の冒頭のゆっくりとうたい始める「真赤な太陽」には、ひばりの歌力(チカラ)を思い知る。

*「美空ひばり端唄集」江戸時代末期から幕末にかけて流行った三味線弾き語り曲の端唄。いわゆる当時の流行歌である端唄の名曲20作品を収録したアルバム。“江戸のいきといなせ”を歌い分けたひばりの歌声は見事。

*「Happy Birthday,HIBARI!!!」最初と最後の曲が“川(河)”が付くのは奇遇か。まとめて聴くと、美空ひばりという人が、ただ歌がうまいだけでなく実に表情豊かに歌っているのがわかってくる。このアルバムには日本語の歌だけでなくスペイン語の「エル・チョクロ」、英語の「上海」「アゲイン」も歌っているが、もちろん美空ひばりはスペイン語はもちろん英語もできなかった。だ

が完璧と言っていい発音で歌っている。これらの歌は耳コピーした歌なのだ。美空ひばりの歌のうまさの要因のひとつは耳が良かったことだとわかる。

*「祈り」軍歌・戦時歌謡13曲＋オリジナル3曲で、幼少期を戦時下に過ごした彼女の、平和への想いをまとめた企画作。空襲など自らの悲惨な体験をベースに、死んでいった者への温かな眼差しを込めつつ、あの時代への嫌悪とある種の郷愁を見事に。

*「ひばりロマンチック」美空ひばりによる東西のラブ・ソングが全19曲。前半は洋楽が並ぶが、まるで自身のオリジナル曲のように唄っている。終戦後の駐留軍時代に思春期を過ごした彼女にとっては、これらの楽曲は空気のようなものだったのかもしれない。ボーナス・トラックの「スターダスト」は、平井堅とのリミックス・デュエット。

1950年、発売。この曲には、チャップリンの映画「キッド」の影響が窺える。戦後の日本の子供と、映画のなかの浮浪児。それが、ダブって見えるのだ。

歌も楽しや 東京キッド 粋でお洒落で---右のポッケにゃ夢がある 左のポッケにゃチュウインガム---

はじめの10秒くらいで、この唄の楽しさに引きこまれる。空を見たくなったら、ビルの屋根に登り、マンホールにもぐったり。この唄のなかのキッドは、縦横無尽に街のくらしを楽しんでいる。当時の子供達の現実は、そんな甘いものではなかったろう。映画のキッドのように、暗く汚く、惨めであったに違いない。作詞の藤浦洸は、もちろんそんな事は百も承知。あえて、明るく楽しく描いたのだ。その意図はよく判らないが、たぶん戦後の混乱と荒廃が残る世に、せめて明るい唄を送ろうと考えたのだろう。楽しげに唄うひばりの歌唱の力で、この唄は大きな命を持ち、多くの人を慰めたに違いない。

(ウィキペディアより・3)

病魔との闘い

1987年4月、公演先の福岡で倒れ緊急入院、慢性肝炎及び両側大腿骨骨頭壊死と診断され、8月まで福岡市内の病院にて療養。8月3日に退院し、10月に行われた新曲『みだれ髪』のレコーディングより仕事に復帰。1988年4月11日には開場間もない東京ドームにて「不死鳥コンサート」を実施。脚の痛みに耐えながら計39曲を熱唱し、完全復帰であることをファンにアピールした。

昭和天皇崩御により、元号が昭和から平成の時代へと変わった1989年初頭には、人気作詞家・秋元康が作詞、見岳章が作曲した『川の流れのように』を発表する。しかしこの時の美空ひばりはまるで水の中で歌っているようなほど、肺は病に冒されていた。3月には、ニッポン放送での10時間の特集番組へ生出演した。そのラジオ生放送終了直後、体調が急変したために、順天堂医院に再入院する。このため、同年4月に予定されていた、横浜アリーナでのこけら落としコンサートや、その他の全国ツアーも全て中止となった。そして、復帰の夢を果たすことなく、同年6月24日、間質性肺炎による呼吸不全のため、昭和の時代と共に生きた戦後歌謡界の大スター美空ひばりは生涯のレコーディング1500曲・オリジナル楽曲517曲の『唄』、輝き・唄うスクリーンの中の『ひばり映画』を残して死去、まだ52歳の若さだった。墓所は横浜市港南区の日野公園墓地にある。

昭和の代表する歌手として

死後の1989年7月、長年の歌謡界に対する貢献を評価され、女性として初めてとなる国民栄誉賞を受賞し、息子の加藤和也が授賞式に出席した。

美空ひばり亡き後も続くエピソード

福島県いわき市塩屋崎 美空ひばり遺影碑、コモンズ画像1988年、福島県いわき市塩屋崎を舞台に作詞されたのが縁で、「みだれ髪」の（結果的にこれが最後のレコーディング曲となった）歌碑が建立された。ひばりの死後ここを訪れるファンが増え続け、1990年に新たなひばり遺影碑が立てられ、周辺の道路420m区間もいわき市が整備を行い「ひばり街道」として1998年に完成した。さらに2002年には幼少期のひばり主演映画「悲しき口笛」のひばりをモデルにした銅像も建立

になった。現在は毎年約30万人のファン・観光客が、ひばりを偲んで訪れる。

2005年公開の映画『オペレッタ狸御殿』（鈴木清順監督）では、デジタル技術でスクリーンに甦りオダギリジョーやチャン・ツイイーと共演した。

死後10数年を経た現在も尚、日本を代表する伝説的ボーカリストとして多くのアーティストやタレントに影響を及ぼし、企画盤や未発表曲が定期的に発表、ビデオ上映コンサートも開催されるなど、永遠の歌姫として根強い人気を獲得している。

ひばりの作詞

彼女が作詞し、生前に曲がついたものは22曲ある。そのうち18曲は自ら歌い、『ロマンチックなキューピット』『真珠の涙』などの作品はシングル発売された。

1966年に『夢見る乙女』を作詞し、弘田三枝子へ提供した。『十五夜』『片瀬月』『ランプの宿で』の3曲は島倉千代子に提供された。

草原の人（生前にひばりが書き残した詩）を元につんくが作曲し松浦亜弥が歌った。

代表曲・売上げ

柔(1964年) - 180万枚

川の流れのように(1989年) - 150万枚

悲しい酒(1966年) - 145万枚

真赤な太陽(1967年) - 140万枚

リンゴ追分(1952年) - 130万枚

みだれ髪(1987年)

港町十三番地(1957年)

波止場だよ、お父つあん(1956年)

東京キッド(1950年)

悲しき口笛(1949年)

（日本コロムビア調べによる）

主な出演映画

悲しき口笛(1949年、松竹)

鞍馬天狗 角兵衛獅子(1951年、松竹)

リンゴ園の少女(1952年、松竹)

ジャンケン娘(1955年、東宝)

べらんめえ芸者(1959年、東映)

主なシングル作品

河童ブギウギ(1949年)

悲しき口笛(1949年)

東京キッド(1950年)

越後獅子の唄(1950年)

私は街の子（1950年）

あの丘越えて(1951年)

お祭りマンボ(1952年)
津軽のふるさと(1952年)
リンゴ追分(1952年)
ひばりのマドロスさん(1954年)
伊豆の踊り子(1954年)
波止場だよ お父つぁん(1956年)
港町十三番地(1957年)
車屋さん(1958年)
哀愁波止場(1960年)
ひばりの佐渡情話(1962年)
哀愁出船(1963年)
柔(1964年)
悲しい酒(1966年)
真赤な太陽(1967年)
芸道一代(1967年)
人生一路(1970年)
ある女の詩(1972年)
一本の鉛筆(1974年)
おまえに惚れた(1980年)
裏町酒場(1982年)
しのぶ(1985年)
愛燦燦(1986年)
みだれ髪(1987年)
川の流れのように(1989年)

参考文献

竹中労 『完本 美空ひばり』 筑摩書房（文庫版）
美空ひばり館 2006年11月30日に閉館。

この曲の、状況の設定は、石川さゆりの「春の雪」に近いが、こちらは、よりクラシカルな日本人の感情が出ている。流行っていた当時は、わりと聴きながしていたが、自分の加齢とともに、じんわりと迫ってくる歌である。伝聞も含めて、直接・間接の、多くの体験が、体内に取り込まれるからだろうか。五木の多くのヒット曲のなかでも、上位の名曲とっていい。

(詞・吉岡治 曲・市川昭介)

泣いてあなたの背中に投げた 憎みきれない---夢のかけらが 散るような ああ 外は 細雪---
(ウィキペディアより)

五木ひろし(いつきひろし、1948~)は、日本を代表する歌手のひとりである。人気と実力を併せ持ち、現在もなお、第一線で活躍する。2007年、紫綬褒章を受章。福井県三方郡美浜町出身。

1964年(昭和39年)

第15回コロムビア全国歌謡コンクールにて優勝。

作曲家の上原げんとにスカウトされ、内弟子となる。

1965年(昭和40年)

6月、コロムビアから「新宿駅から/信濃路の果て」で“松山まさる”としてデビュー。

コロムビアではシングルを計6枚発売するも、全くヒットせずに終わる。

1967年(昭和42年)

4月、ポリドールへ移籍し、“一条英一”に改名して「俺を泣かせる夜の雨/流れ星(B面は愛田健二)」で再デビュー。

ポリドールではシングルを計3枚発売するも、全くヒットせずに終わる。

1969年(昭和44年)

12月、ミノルフォンへ移籍し、“三谷謙”に改名して「雨のヨコハマ/東京 長崎 札幌」で再デビューするも、全くヒットせず。

“三谷謙”名義ではこのシングルを発売しただけに終わる。

デビュー以来約五年間に亘って、この間に二度も芸名を変更するなど不遇の時代を過ごす。

1970年

歌手生命のすべてを賭けてオーディション番組ytv「全日本歌謡選手権」にプロ歌手“三谷謙”として出場。初挑戦時には、「これで駄目なら、ふるさとの福井に帰って農業をやる」と悲壮な覚悟の程を語っているが、最終的には10週連続で勝ち抜き、グランドチャンピオンに輝く。これにより、歌手として再デビューできる権利を獲得。

同番組の審査員であった作詞家の山口洋子と、作曲家の平尾昌晃に師事。

プロデューサーには山口洋子が就任。

1971年

山口洋子が五木寛之から苗字を頂戴し、新しい芸名を“五木ひろし”と命名。

山口洋子は“五木ひろし”としてのデビュー・シングルのために単語の羅列ながらも、女ごころを表

現した詞を書き、平尾昌晃がそれにモダンでソフトな演歌調の曲を付ける。ロカビリー歌手から
転身した作曲家の平尾昌晃（歌手時代の名義：平尾昌章）にとって、演歌作品はこれが初めて。
3月、「よこはま・たそがれ」で“五木ひろし”として再デビューを果たす。

マイクを左手で持ち、右手は拳を握り締め、腰をシェイクさせてリズムを採る独特の歌唱スタイルは、同じ野口プロモーションに所属していたキックボクサー・沢村忠の“ファイティング・スタイル”からヒントを得たもので、物真似をされるほどに五木の代名詞（トレードマーク）として定着してゆく。五木は「“拳”は演歌の“コブシ（小節）”を斯けている」と語っている。

「よこはま・たそがれ」はオリコンチャートで、最高位1位、65万枚に迫る売上げを記録。幸先の
良い再スタートを切る。

第二弾シングルとして発売になったマドロス演歌「長崎から船に乗って」は最高位4位、45万枚
に迫る売上げを記録。

「よこはま・たそがれ」で第13回日本レコード大賞歌唱賞を初受賞。

念願であったNHK紅白歌合戦（第22回）初出場を果たす。

（中略）

*谷崎潤一郎が著作した同名小説に材を得た文芸艶歌（つやうた）「細雪」は最高位9位、登場週
数33週、45万枚に迫る売上げを記録。これにより、“艶歌”が演歌の新しい領域（分野）として確
立する。五木は後年、「艶歌は特に歌唱が難しい」と語っている。

1984年（昭和59年）

4月、前述の「浜昼顔」と同様に、五木の熱意が実り、旅情艶歌「長良川艶歌」が誕生。長良川の
風物詩である鶺鴒いを取り入れるなど、石本が作詞家としての信条であると云う“喚起力のある
言葉”と“音感的に綺麗な言葉”が存分に活かされた作品に仕上がり、話題を集める。

「長良川艶歌」で第26回日本レコード大賞を2回目の受賞。

*フォークシンガーの永井龍雲を作曲に迎えた「暖簾」を発売後は、約一年間次の新曲を発売せ
ずこの曲に専念し、10万枚に迫る売上げを記録。

演歌以外の様々なジャンルの音楽家にも出会い、歌の幅が広がってゆく。

20周年ゴールド・シングルとして発売になった「おしどり」は長年連れ添う夫婦愛を描いた夫婦
演歌であり、35万枚を記録。

2000年（平成12年）

「山河」は小椋佳、堀内孝雄コンビにより中国を舞台とした大作に仕上がり、ミレニウム・シン
グルと銘打って発売になり、話題を集める。中国楽器を採用したことと、スタンド・マイクを用
いて歌唱したことでも知られる。

2004年

3月、第54回芸術選奨文部科学大臣賞（大衆芸能部門）を文化庁より受賞：自身の構成、演出によ
る「五木ひろしライブコンサート」（日生劇場、9月）において日本の歌謡界に多大な業績を残し
た古賀政男作品に取り組み、創唱者に敬意を表す一方、自身の個性や持ち味を発揮し存在を強く
印象付けた。大衆歌謡を原点に、伝統の継承と現代性を追求し実践。常に意欲的であり、精力的
な活動を続けている。

2006年

京都の高瀬川を舞台に、自ら作曲を手懸けた艶歌「高瀬舟」は、最高位9位、登場週数44週、10万枚に迫る売上げ。

2007年

2月、N響（NHK交響楽団）ポップスとのジョイント・コンサートを興行。流行歌手としてはこれが初めて。自身にとって永年の夢であった“演歌とクラシックの共演”を果たし、嬉し涙を見せる。

3月、国立劇場公演を興行。歌手としてはこれが初めて。

2008年

アップフロントエージェンシーへ芸能プロダクション（マネジメント契約）を移籍。

艶歌「橋場の渡し」は“大江戸ロマン”をテーマに、隅田川最古の渡しを描いたものであり、最高位19位を記録。

その他

コブシ（小節）とヴィブラート、ノン・ヴィブラート、そして地声とファルセット（裏声）を巧みに使い分け、精密機械のごとく声を震わせる独特で屈指の歌唱技術を持つ。

演歌だけに留まらず、歌謡曲、バラード、R&B、ポップス、フォーク、ニューミュージック、クラシカル、ジャズ、シャンソン、ロック、民謡、童謡などあらゆるジャンルの作品を歌いこなしてきた。

艶歌など新しい分野を生み出し、演歌の領域を拡げた。

とりわけ、女ごころや叙情をテーマにした曲に定評がある。

2008年3月13日（還暦を迎える前日）、五木は思い出深い曲として自身の年代毎に、20代では「夜空」、30代では「おまえとふたり」、40代では「暖簾」、50代では「ふりむけば日本海」を挙げた。

過去の名歌手たちが残した数々の名曲を《次代に受け継ぐ》という大きな使命も担い、それを果たしてきた。

*ジャパニーズ・ソウルの帝王、五木ひろし。71年の「よこはまたそがれ」の大ヒット以来、30年近くも演歌界の頂点に君臨する大物シンガーである。精密機械のごとく巧妙に声を震わす独特の歌唱法、そして、あの右手と腰をシェイクさせるアクの強いステージングはまさに国宝級。

*シングル5ヵ月連続リリース企画の第2弾。タイトル曲は、英語詞そのままに歌う懐かしいアメリカン・ポップスのカバー。歌い手としての円熟味にプラスして、新鮮かつアクティブな魅力でアピールする作品。

*ポップス寄りの歌が面白い。昭和30年代の裕次郎やフランク永井らの都会派歌謡からGS系の曲などが聴きもの。

「夜に爪切る音がする」に哀しさが見えてしまう「蝉時雨」など、哀しさと涙に満ちた歌こそ五木の過剰なまでの情感が生きてくる。

*男の孤独な姿を唄った「ふりむけば日本海」が深く印象に残る。「千曲川」で披露した日本人の心や叙情性、旅情を最大限に拡大したような趣があり、軽やかさと粘りのある、丁寧な表現力がやはり最大の聴きもの。重厚感に満ちた五木節は楽曲の解釈の巧さ、説得力のある歌唱で、安

心して聴いていただける。

*男と女の切ない恋模様を、情感タップリに唄いあげている。こういう世界になると、五木ひろしの独壇場。粘るような唄い方でありながら、繊細な余韻をのこしてサラリと仕上げ、技ありの一本。

*どちらも声の伸び、押し引きの巧みさなど、ファンならずとも安心して身をゆだねられる五木節は健在。

*石川さゆりのオリジナルとはひと味違う風景が見えてくるあたりに、ベテラン実力派の技を感じる。クールファイブとは異なるムード歌謡の世界を創り上げていることがわかる。

*昭和という時代が生んだあまたのヒット曲の中から、五木ひろし自身の編集による「はやりうた読本」。流れ行く歌でありながら、その時々を確実に捉え、時代の思い出として今も生き続けている名曲をご堪能。

*「おんなの絵本」と題し、花、星、風、月をそれぞれのテーマに全16曲を収録。哀愁とともにスケールの大きさを感じさせる曲を淡々と歌う彼の歌唱スタイルには、いつもどおり抑制しつつ揺らす歌声に哀切の情を託していく。

*ムード歌謡系のソフトな歌声による「そして...めぐり逢い」、「傘人中」ではレキント・ギターにのっての泣きの歌唱など五木節は変幻自在。古賀メロディが日本人の琴線を微妙にくすぐることは事実で、それが五木の粘っこい節回しでより強調される。ウェットな世界ドゥプリと食わず嫌いの向きもあろうが、その印象は詩の湿っぽさに負うところが少なくないと気づいた。絞り出すようなヴォーカルが哀愁を誘う。

*「昭和の歌謡史を旅する」というテーマゆえカバーも多数収録されているが、そこで逆に五木自身のヒット曲の豊富さと質の高さを再認識。もう一步踏み込むとクサくなるというギリギリのところまで止めるテクニックはさすが。そこが一流になれるかどうかのポイントだ。洋楽カバーになると力み気味になるのはなぜ？

*五木ひろしが歌う「神田川」「なごり雪」などに違和感があるように、その昔のジャズ系歌謡曲シンガーたちの歌った歌謡曲でもそう。歌より先に五木ひろしの存在を強烈に主張し、ひろし節のみがあるといったベテラン歌手の性を見る。

夜の波止場にゃ 誰あれもない 霧にブイの灯 泣くばかり おどま 盆ぎり----

1960年、発売。ひと声で、情景を想起させるような、美空ひばりの突き抜ける高音で、この曲ははじまる。この2フレーズだけでも、ただならぬ世界へ、私達を導いていく感じだ。ひばりの歌唱のなかでも、最高水準の一曲といえよう。

物語的には、船乗りと港の女という、定番ものなのだが、この曲はそれらの定番を吹き飛ばして、はるかな異次元に達している。多くの日本人にとって、海や港は身近なものだが、夜になるとその表情は一変する。そこには、海の本来持つ、底知れぬ怖さも漂う。それを背景に、この曲は唄われているのだ。

この曲は、単なる恋愛の唄ではない。日本人の持つ、暗い情念が、青白く燃えているような情景が浮かぶ。唄の途中、五木の子守唄を引用している。そのことから、チラチラと窺われるようではないか。

(ウィキペディアより・2)

1958年7月、東映と映画出演の専属契約を結ぶ。同年8月、ひばりプロダクションを設立。『ひばり捕物帳』シリーズや『べらんめえ芸者』シリーズなど。続々ヒット映画にも恵まれる。

1960年には『哀愁波止場』で日本レコード大賞歌唱賞を受賞、歌謡界の女王の異名をとるようになった。

小林旭との短い結婚・離婚後

1962年、日活の人気スターであった俳優・小林旭と結婚し、一時的に仕事をセーブするようになる。しかし、実母にしてマネージャーである加藤喜美枝や周辺関係者が二人の間に絶え間なく介入し、結婚生活はままならず、またひばり自身も歌に対する未練を残したままだった。

離婚直後に発表した『柔』は翌1965年にかけて大ヒット、180万枚というひばりとしては最大のヒット曲となる。この曲で1965年、日本レコード大賞を受賞。1966年には『悲しい酒』（元々はひばりのために書かれた曲ではなく、1960年に男性演歌歌手の北見沢淳が歌った曲であった）、1967年には『芸道一代』、グループサウンズ・ジャッキー吉川とブルーコメッツとの共演で話題となった『真赤な太陽』と、彼女の代表作となる作品が次々と発表され、健在ぶりを示した。

母・喜美枝との二人三脚時代

1964年、新宿コマ劇場で初の座長公演を行い、演技者としての活動の場を次第に映画から舞台に移した。離婚後のひばりを常に影となり支え続けたのが、最大の理解者であり、ひばりを誰よりも一番上手くプロデュースする存在となっていた母・喜美枝だった。

1970年、NHK紅白歌合戦の紅組司会を担当した。

兄弟とひばりの苦悩

1973年、実弟のかとう哲也が起こした不祥事により、(哲也は、1957年、小野透の芸名で歌手デビューし、多くの東映映画に出演。1962年に引退。翌1963年には賭博幫助容疑、1964年には拳銃不法所持、1972年には暴行で逮捕。) ひばり一家と山口組および田岡との関係が表面化、全国

の公会堂、市民ホールから使用拒否される。

1970年代以降、ヒット曲には恵まれなかったが、この時代に入ると演歌や歌謡曲のほかにも軽快なポップスやリズム歌謡、ジャズのスタンダードやオペラのアリアに至るまで自らのスタイルで数多くのテレビ番組やレコードなどで発表し、歌手としての再評価を受けることとなる。来生たかお（『笑ってよムーンライト』<1983年>）、イルカ（『夢ひとり』<1984年>）等、当代の話題のアーティスト／クリエイター等とのコラボレートもしばしば行われた。

他方、1980年代に入り、実母の喜美枝、二人の実弟だった哲也と香山武彦、親友であった江利チエミらが次々と死去という悲運が続く。悲しみ・寂しさを癒すために嗜んでいた酒とタバコの量は日に日に増し、徐々に体を蝕んでいった。

鈴木一平の唄には、どこか演歌・歌謡曲の味わいがある、という人達がかかりいる。私は、そういう受け止め方は、あまりしないけれど。というか、フォーク・ロック・ニューミュージックと言っても、よく噛み締めてみると、結局は演歌・歌謡曲の世界につながる。元々日本の風土が産み出すアートだから、外側が水と油ほど違っていても、基底の部分はそう変わりはないのだ。現在のジャンルの分け方は当面やむを得ないが、便宜的・前提上の認識が必要であろう。この曲は、軽快でエターナルなメロディーが心地よく、切ない曲調に乗せて、終わりかけた恋の、乱れ揺れる心を描いている。この曲は、もっと歌謡曲っぽくアレンジして、五木ひろし、小金沢昇司、三山ひろし、岩出和也、北川大介、長谷川真吾などがリメイクすると、素晴らしい唄になりそうだ。

夕暮れが空にひろがる 人通りまばらな街を 何度も振り返りながら 歩いたことが---愛想笑い
にから元気 悲しみの三つどもえ---そんなわたし馬鹿ですか 格子模様の胸のなか 色あせてゆく
ばかり 雨よふれしずくの糸に さよならを結んでつけて 涙が枯れはてるまで 思い出を紡いで
いく---

(収集プロフィール)

鈴木 一平 (すずき いっぺい、1951~) は、北海道札幌市出身のシンガーソングライター。

略歴

拓殖大学卒業。1974年、フォークデュオ・ラビを結成。シングル「青春碑」でデビュー。1979年、第17回ヤマハポピュラーソングコンテストに「時流」で出場し、優秀曲賞受賞。同年、世界歌謡祭出場。翌年、シングル「時流」をリリース。同年、リリースした「水鏡」が、ヒットする。現在は、ライブ中心に活動する傍ら、ラジオパーソナリティとしても活躍する。2008年、「水鏡」がジェロのミニアルバムCOVERSに収録される。

*「北緯43度」80年に発表されたファースト・アルバム。タイトルは彼の出身地である札幌の緯度。北島三郎や細川たかしなどに通じる歌いまわしのフォークということでは、松山千春と同じ味わいを持つ。そういえば伸びのある高音で気持ちよさそうに歌うところも似ている。

*演歌のリキんで、コブシを回すうたい方を軽くしていくと一平のヴォーカル・スタイルになる。鈴木一平のこのベストは、'70年代のフォーク・ソングが若者たち向けの演歌だったことを教えてくれる。

*「ひとり唄」詞：風の音が窓を叩く 寂しい夜に 眠れない私は ひざを抱えて---あなたの優しさは 私の思い過しね くちづさむひとり唄 忘れない忘れない 思い出遊び

主な曲

時流

水鏡

夕張川

悲しみの記

玄鳥

雨の糸

愛のララバイ

ひとり唄

アルバム

北緯43度

IPPEI II (今は誰に語ろうか)

北駅

解決できない悩みや、辛い出来事。しづかな夜に、あれこれ思いながら、しみじみと聞く唄。鈴木一平の曲は、まさに、そういうシチュエーションに、相応しい。そして、すこしテイストは異なるが、永井龍雲と大塚博堂も、同じやすらぎを与えてくれる。

ぬぐいきれない 心の傷をもつひと、をはじめ、心に響くたくさんのフレーズが、ソフトな歌声とともに、癒してくれる。

さあ 心に雨がふる 窓ガラス 伝うしずくのように ふたりの思い出 消してゆく 言葉も
とうに忘れた 180度の街で たったひとつの---

(収集プロフィール)

鈴木 一平 (すずき いっぺい、1951~) は、北海道札幌市出身のシンガーソングライター。

略歴

拓殖大学卒業。1974年、フォークデュオ・ラビを結成。シングル「青春碑」でデビュー。1979年、第17回ヤマハポピュラーソングコンテストに「時流」で出場し、優秀曲賞受賞。同年、世界歌謡祭出場。翌年、シングル「時流」をリリース。同年、リリースした「水鏡」が、ヒットする。現在は、ライブ中心に活動する傍ら、ラジオパーソナリティとしても活躍する。2008年、「水鏡」がジェロのミニアルバムCOVERSに収録される。

主な曲

時流

水鏡

玄鳥

雨の糸

ひとり唄

アルバム

北緯43度

北駅

内容的には、どっぶり演歌であるが、楽曲には、洋楽のテイストがたっぷり取り入れられている。ひばり晩年の、傑作のひとつ。高度なテクニックを駆使して、ヒロインの深い孤独、ひとりの部屋の寂寥の情景を描きだすのに成功している。

(詞・たかたかし 曲・弦哲也)

誰もいない 誰もいない 裏窓ぬらす雨の音 酒で心をだましだまして 飲んでも---どんな時でもわがまを あなたは笑い聞いてくれたわ 忘れられない---

(ウィキペディアより)

美空ひばり(みそらひばり、1937年(昭和12年)5月-1989年(平成元年)6月24日)は、数々のヒット曲を歌い、また銀幕スターとして多数の映画に出演した、昭和の歌謡史を代表する歌手であり、女優。

女性として初の国民栄誉賞を受賞した。横浜市磯子区滝頭出身。愛称は御嬢(おじょう)。横浜市立滝頭小学校卒業。精華学園高等部卒業。

49年、敗戦の喧騒のさなか弱冠12歳の天才少女、美空ひばりは「河童ブギウギ」にて登場。笠置シズ子の「東京ブギウギ」を下敷きとした、このデビュー曲は残念ながらヒットに繋がらなかった。がしかし、同年公開された初主演映画『悲しき口笛』の同名テーマ曲が爆発的ヒットを記録し、一躍スターダムへのし上がる。以降、ドメスティックな色合いの演歌・歌謡楽曲を着実にヒットさせていく一方で、ジャズ/マンボ/ブルース/ロックンロール/ロカビリーなど、いわゆる洋楽テイストを大胆に導入し消化した、秀逸極まりない歌謡ナンバーを数多く世に残していった。また、50年代半ばより、江利チエミ、雪村いづみと共に“三人娘”として活躍。以後、脈々と受け継がれるイメージ戦略先行型三人編成アイドル・チームの礎となっていた。

89年永眠。多くの日本国民が、悲しみに暮れた。

*病床からカムバックした美空ひばりが88年4月に発表したオリジナル作「不死鳥」での、ひばり本来の素直な歌唱には感涙する。この演歌・歌謡曲の作家陣による作品に対して、「川の流れるように? 不死鳥パート2?」は88年12月発表の秋元康プロデュース作で、ポップス系の作曲陣による曲という構成。ここからひばりの「マイ・ウェイ」といえる晩年の名曲「川の流れるように」が生まれた。88年4月の東京ドーム公演を収録した「美空ひばり in TOKYO DOME」では、往年のヒット曲集とならざるを得ないほどヒットがあったことを実感させる。ディスク4の冒頭のゆっくりとうたい始める「真赤な太陽」には、ひばりの歌力(チカラ)を思い知る。「ひばりの佐渡情話」でスーッと涙を流す姿を思い浮かべてしまう。

*迫りくる儉約の時代、屋外カラオケのブームなど見越してのリリースだろうか。大きい文字で印刷された歌詞カードと、コードネーム付きメロ譜がつく実用カラオケCDでありながら、元歌手によるオリジナル歌唱もついている。こういうリリースをきっかけにした演歌・歌謡曲の復権もありえるかも、と1枚目の美空ひばりで早くも思わされた(泣いた)。第2期20タイトルは8月発売予定で、今回リリースされた顔ぶれの他、北見恭子、若山かずさ、西尾夕紀、堺正章、扇ひろ子、北原謙二などが名を連ねている。

急逝が、本当に惜しまれる人である。まず、声がとてもいい。よく響く、高音を帯びた低音。歌唱力も、素晴らしい。そして、その唄の世界も。クラシックのコンチェルトやピアノ曲のような、美しいメロディーの世界。言葉は、はっきりと、ありふれた日常を、静謐に謳いあげる。それとやや好みは分かれるだろうが、「哀しみ通せんぼ」のようなラテン系の乗りの、フォークの世界も悪くない。名曲は数多いが、やはり静かな曲がベストであろう。

(詞・曲 大塚 博堂)

木枯らし吹く街のように 孤独な胸の奥深く 通りすぎて行く 愛は雪をとかし---若い日の ほろ苦い酒に もう一度酔いしれる---

(収集プロフィール)

大塚 博堂 (おおつか はくどう、1944年3月-1981年5月18日) は、ニューミュージックのシンガーソングライター。大分県別府市出身。東洋音楽大学 (現: 東京音楽大学) 声楽科中退。

1972年に「大塚たけし」名義で歌手デビューするも、不発。その後クラブでの弾き語りの活動などが評判になり、1976年 (昭和51年) 6月26日、『ダスティン・ホフマンになれなかったよ』で32歳の再デビュー。これが評価され、遅咲きながらも『めぐり逢い紡いで』、『過ぎ去りし思い出は』や『季節の中に埋もれて』などの曲で活発な音楽活動を行ったが、1981年 (昭和56年) 5月18日に脳内出血のため37歳で急逝した。5年間の活動に凝縮された彼の曲は、レコード化されたものが約80曲、没後に発表されたものを含めて約90曲である。その他、岩城滉一やペギー葉山など他歌手に提供した歌が40曲ほどある。

経歴

ステージ活動を中心にして全国を回り、"愛を唄う吟遊詩人"として徐々に人気を高めていった。ファン層は20代を中心とした女性が多く、コンサートでは涙を流しながら博堂の歌を聴く女性ファンが多かったと伝えられている。トレードマークのヒゲとサングラスで、低音から高音まで幅広い音域と、抜群の歌唱力で唄いあげる博堂のコンサートは、年間100ヶ所以上を数えた。

初期の作品は、デビュー曲『ダスティン・ホフマンになれなかったよ』を作詞した藤公之介と組んだものが多かったが、3枚目のアルバム『もう少しの居眠りを』から作詞家るい (本名: 小坂洋二) が登場する。るいは博堂が所属する渡辺プロの社員で、博堂担当のマネージャーだった。また、後期は山川啓介と数曲組んでいる。そして最後のアルバム『感傷』では、全作品の作詞を阿久悠が行っている。

博堂の没後も、曲を唄い継いでいる歌手達がいる。主にシャンソン系の歌手が、自分のライブなどで唄うことが多いが、大塚郷、田口徹、山田友人など、主に博堂の歌を唄って「博堂シンガー」を名乗り活動している歌手もいる。

また、「大塚博堂倶楽部」というファン組織が現存している。

*1970年代に活躍し、81年に37歳とう若さで夭逝した、大塚博堂。男のロマンを求めた詞作も人気だった彼の世界観が凝縮されている。

*37歳とう若さで夭逝したシンガー・ソングライターのコンピレーション。男のロマンを求めた

詩世界も人気だった。

* 死後18年が過ぎてもなお根強いファンを持つ大塚博堂の、「街」や本人や母親の語りも収録されたベスト盤。シラケの時代を抜けてつあった70年代後半の、足が地に着き始めたようであり、まだどこかに忸怩たるものを残していたころの心情が胸に迫ってくる。

大人になる過程で、誰もが一度は味わう挫折をラブ・ソングに託し青春の挽歌として歌う男たち3人のベスト・セレクション。こうして続けて3人を聴くと、男は何と過去に女々しく、男が何と優しい生き物かと思えてくる。ちょっと気持ちが落ち込んでくるが。

* 76年発表の故・大塚博堂の代表作で、優しげなヴォーカルがさり気ない哀愁を呼び、数多くの女性ファンに親しまれた。自分が、もう決して若くはないと知ったとき、博堂の歌は切なさを増して聴こえる。青春の終りを予感させる歌がここにはあるようだ。

大人の男の世界をロマンティックに歌いあげるところが、この人の何とも言えない味になっていた。

* ラブ・ソングの第2段階への展開形ともいえる「娘をよろしく」は大塚博堂ならではの歌。やわらかな声で優しげに歌う彼こそニューミュージック的な歌謡曲をつくり上げたひと。女性の気持ちをグッとつかんでしまうヴォーカルでしっとりと語りかける。

* 男の夢とロマンを優しい声と抒情豊かな感性で歌うラブソングは、大人の香りにあふれている。フォークと歌謡曲の中間で独自の音楽を確立していたことがよく分かるに違いない。

* めぐり逢い紡いで」「愁雨」など博堂の歌からはどこにでもある日常のさりげない出来事が感じられ、聴く人の胸を打つ。

一語ごとにはっきりとわかりやすく歌われる具体的な人生観による詩の世界を侵食しない音作りがクール。

1944年（昭和19年）3月 大分県別府市にて6人兄弟の末っ子として誕生。

1959年（昭和34年）別府市立青山中学合唱部所属 大分県合唱コンクール優勝。中学時代に「NHKのど自慢大会」に出場し、県大会で入賞。

1960年（昭和35年）4月 大分県立別府緑丘高等学校（現・大分県立芸術緑丘高等学校）音楽科入学。

1963年（昭和38年）4月 東洋音楽大学 声楽科入学。

1966年（昭和41年）東洋音楽大学 声楽科中退。

1966年（昭和41年）～1967年（昭和42年）別府市の音楽喫茶などで唄う。

1968年（昭和43年）3月～博多のクラブ「絹」、「長島」などでジャズシンガーとして活動。

1972年（昭和47年）7月7日 渡辺プロダクションにスカウトされて上京。

1972年（昭和47年）8月「大塚たけし」の芸名でデビュー。シングル「自由に生きてほしい」をワーナー・パイオニアから発売。

1972年（昭和47年）9月29日「日本歌謡祭'72」に出場、「自由に生きてほしい」を唄う。

1973年（昭和48年）8月2枚目シングル「風は知らない」を発売、フジテレビのドラマ「トリプル捜査線」の主題歌に採用される。

1974年（昭和49年）～1975年（昭和50年）「大塚たけし」の名前でシングルレコードを2枚発売

したが、ほとんど仕事がなく、博堂の不遇時代。この頃、藤公之介の詩集と出会い、気に入った詩に勝手に作曲して歌を作っていた。

1975年（昭和50年）秋 青山のクラブ「バルセロナ」での、オリジナル曲の弾き語りの評判となる。

1976年（昭和51年）6月25日 日本フォノグラムから、シングル「ダスティン・ホフマンになれなかったよ」でデビュー。

1976年（昭和51年）NHK銀河テレビ小説「幻のぶどう園」挿入歌に「ダスティン・ホフマンになれなかったよ」が採用される。

1976年（昭和51年）10月6日 横浜音楽祭に出場。最優秀新人賞受賞。

1978年（昭和53年）2月13日 フジテレビ「夜のヒットスタジオ」で「哀しみ通せんぼ」を唄う。

1978年（昭和53年）4月 渡辺プロが、若者のニューミュージック指向を高めようと「ノンストップ」プロジェクトを立ち上げ、博堂もその一員となる（メンバーは、大塚博堂・太田裕美・桑江知子・山下久美子・ルイス・ララ）。

1978年（昭和53年）12月31日 第29回NHK紅白歌合戦で布施明が「めぐり逢い紡いで」を唄う。

1980年（昭和55年）11月 日本フォノグラムから東芝EMIに移籍し、「センチメンタルな私小説」発売。

1980年（昭和55年）NHKテレビで「センチメンタルな私小説」が、NHKのイメージソングとして放送される。

1981年（昭和56年）5月14日 早朝、目黒区青葉台のマンション自宅で脳内出血により倒れる。

1981年（昭和56年）5月18日 入院中の東邦大学付属大橋病院にて逝去、37歳没。

1981年（昭和56年）5月19日 東京都品川区の桐ヶ谷寺で告別式が行われる。

大塚博堂

ダスティン・ホフマンになれなかったよ - 1976年6月 日本フォノグラム

過ぎ去りし思い出は - 1977 日本フォノグラム

季節の中に埋もれて - 1977

哀しみ通せんぼ - 1978

めぐり逢い紡いで - 1978

LOVE IS GONE - 1978

もう子供でも鳥でもないんだから - 1979

青春は最後のおとぎ話 - 1979

愁雨（うれいあめ） - 1980

センチメンタルな私小説 - 1980

春は横顔 - 1981

娘をよろしく - 1981

Never Could Say Good - bye - 1981

トマトジュースで追いかえすのかい - 1981

ダスティン・ホフマンになれなかったよ - 1976

過ぎ去りし思い出は - 1977

もう少しの居眠りを - 1978

LOVE IS GONE - 1978

もう子供でも鳥でもないんだから 1979

青春は最後のおとぎ話 - 1979

大塚博堂ライブ - 1980

感傷 - 1981

未発表曲

(レコード化されなかった歌)

「カラス」 - ステージ曲 (この歌のみ2003年(平成15年)12月に、リミックスしてCD化され発売)

「黄色いリンゴ」 - ステージ曲

「墓守唄」 - ステージ曲

「Mrギターマン」 - ステージ曲

「賛歌」 - 昭和47年合歓ポピュラーフェスティバル「日本歌謡祭'72」出場曲 (作詞：阿久悠
作曲：井上忠夫)

「シンドバットの船」 - NHK「みんなのうた」

参考資料

ダスティン・ホフマンになれなかったよ - 著者：藤公之介・大塚博堂、1976、ルック社

関連人物

五木寛之 - アルバム「ダスティン・ホフマンになれなかったよ」収録曲、「一冊の本」の歌詞に登場する。ラジオ番組、五木寛之の夜 (TBSラジオ) で、三雲孝江と博堂の事をトークをしていた。歌詞の五木寛之の所に色々な作家を当てはめて『やっぱり五木寛之がぴったりだな』と語る。
江本孟紀 - 現役時代、知人を貰ったテープを聴きファンになる (大学の先輩である山本浩二と言う説もある)。その後、知人を介して博堂と知り合う。プロスポーツ選手歌合戦で、博堂の持ち歌を歌い優勝したこともある。1980年12月19日、新宿口フトでジョイントコンサートを行った(ゲスト・古沢憲司)。その後お互い忙しくなり、曲を博堂に書いてもらう約束をしていたが、亡くなったため実現せず。

藤山寛美 - 娘の結婚式で大塚が「娘をよろしく」を歌った。夫が渡辺プロの社員なので出席した。

布施明 - 「めぐり逢い紡いで」を歌う。他にも「新宿恋物語」をコンサートで歌っていた。

ペギー葉山 - 1979年に万葉集を現代風に作詞して、ニューミュージック系の作曲家に曲をつけてもらい歌う企画レコード「恋歌-万葉の心を求めて-」を出す。そのうち「あかねさす紫野」「落葉の日」を博堂が担当 (他には、来生たかお・南佳孝・西谷翔・米山拓巳)。

森進一 - 「めぐり逢い紡いで」を布施明と取り合った。

いくつかのヒット曲以外、この方をあまり知らないのだ。でも、その音楽性は悪くない。伸びやかで、ノンパラダイムな歌唱。ソフトで張りのある、美声。テレビの中の彼女は、売上げをあまり気にしなくていい立場なのか、あるときはひどく機嫌がよかったり、あるときは機嫌が悪くて、ふくれっ面をして唄っていた。

(詞・三浦徳子 曲・八神純子)

ああ みずいろの雨 私の肩を抱いて 包んで降りつづくの ああくずれてしまえ あとかたもなく 流されて行く 愛のかたち やさしいひとね あなたってひとは---

(収集プロフィール)

八神純子(やがみ じゅんこ、現:Junko Stanley、1958～)は、シンガーソングライター。愛知県名古屋市出身。愛知淑徳高等学校卒。夫は音楽プロデューサー(現在は弁護士)のJohn Stanley。アメリカ・カルフォルニア州在住。父親は(株)八神製作所の4代目会長。

1974年第8回POPCONに「雨の日のひとりごと」で出演、優秀曲賞受賞となる。第5回「世界歌謡祭」にも「雨の日のひとりごと」で出場。

1978年に「思い出は美しすぎて」でデビュー。3枚目のシングルとなった「みずいろの雨」が1978年から1979年にかけて、レコード売上50万枚を超える大ヒット。その後も「思い出のスクリーン」「ポーラー・スター」「Mr. ブルー」などがヒット曲となる。

*彼女の音楽は、都会派AORサウンドに歌謡曲風のメロディを練りこんだもので、どちらかというところ大人向けのポップス。フォーク・ブームが終焉を迎えた70年代後半に、この洋楽的リッチさはとても新鮮なものとして迎えられた。

87年には渡米し、プロデューサーのジョン・スタンレーと結婚。現在もロサンゼルスを拠点に育児と両立しながら音楽活動を行っている。

*1970年代を代表する女性シンガー、八神純子のベスト・アルバム。張りのあるハイトーン・ヴォーカルで歌い上げる、ドラマティックなナンバーが並ぶ。ヒット曲「パープルタウン」「Mr.ブルー～私の地球～」ほか収録。

*時代の流れに呼応するかのように、バックのサウンドに打ち込みを導入しても、八神純子がデビュー以来持ち続けている琴線に触れるしっとりめのメロディラインにはまったくの変化はなし。でも彼女って、そのアダルトポップした色気が味だから全然OKなのさ。

*透明度高く皮膚に丸いお湯質、効能は倦怠感や働き過ぎによる落ち込み。もっとも、前半に比べると後半は洋行の影響強く?温泉と言うよりジャグジーのような刺激ともなう、アップテンポの血行促進。

*チャートに次々と送り込んだ曲の数々は色褪せることなく、またデビューの頃から、ラテンやサンバ、AORなどのエッセンスを取り入れた曲作りで、すでに彼女の世界ができあがっていることにあらためて驚かされる。

*70～80年代に全盛を誇ったヤマハ・アーティストの1stアルバムをCD化するシリーズ。今でも歌い継がれる表題曲をはじめ、ほぼ全曲を本人が自作して才能を見せつけた大ヒット作品。

*クリア・ヴォイスでありながら、ふっくら艶やかな歌声は独特のもの。シングルB面曲も収録された、ほんまもんの「ベスト」ですから今しか知らないアナタにオススメ、でしょうか。

*カーペンターズの(THEY LONG TO BE)CLOSE TO YOUから始まる今回のアルバムは、八神純子の方向性を改めて明らかにした作品だ。オーソドックスなポップスの楽しさと、ある種の安心を感じさせる。ビートルズのELEANOR RIGBYにしても奇をてらうことなく原曲の味を壊さずに自分のものになっている。

*ニューミュージック全盛期にMisiaも真っ青のハイ・トーン・ヴォーカルを引っ下げて、彗星のごとく現れた。アレンジは古臭いけど、今聴くと新鮮!

アルバム

思い出は美しすぎて (1978年6月)

- 1 (A-1) 雨の日のひとりごと 八神純子・大村雅朗
- 2 (A-2) 時の流れに 八神純子・戸塚修
- 3 (A-3) 思い出の部屋より 八神純子・小野崎孝輔
- 4 (A-4) 思い出は美しすぎて 八神純子・戸塚修
- 5 (A-5) 追慕 八神純子・戸塚修
- 6 (B-1) 気まぐれでいいのに 小野香代子・山田秀俊
- 7 (B-2) せいたかあわだち草 八神純子 大村雅朗
- 8 (B-3) 窓辺 八神純子 矢萩秀明
- 9 (B-4) もう忘れましょう 八神純子 小野崎孝輔
- 10 (B-5) さよならの言葉 小野香代子 小野香代子 小野崎孝輔

素顔の私 (1979年4月)

- 1 (A-1) バースデイ・ソング 八神純子 八神純子 戸塚修 3'26"
- 2 (A-2) 明日に向かって行け 八神純子 八神純子
大村雅朗 大村雅朗 4'37"
- 3 (A-3) 揺れる気持ち 八神純子 八神純子 大村雅朗 4'30"
- 4 (A-4) みずいろの雨 三浦徳子 八神純子 大村雅朗 3'16"
- 5 (A-5) 夜間飛行 八神純子 後藤次利 後藤次利 6'24"
- 6 (B-1) アダムとイブ 三浦徳子 八神純子 戸塚修 3'22"
- 7 (B-2) そっと後から 八神純子 八神純子 後藤次利 4'08"
- 8 (B-3) ハロー・アンド・グッドバイ Kelly Stevens
片桐和子 William Tragesser 大村雅朗 3'22"
- 9 (B-4) 渚 八神純子 八神純子 大村雅朗 3'45"
- 10 (B-5) DAWN 山川啓介 八神純子 青山徹

Mr.メトロポリス (1980)

- 1 (A-1) Mr.メトロポリス 山川啓介 八神純子 瀬尾一三 5'57"
- 2 (A-2) 小さな頃 八神純子 八神純子 瀬尾一三 1'37"
- 3 (A-3) Deja.Vu 八神純子 八神純子 瀬尾一三 4'43"

4 (A-4) ポーラースター 八神純子

三浦徳子 八神純子 大村雅朗 4'08"

5 (A-5) グッバイ美しい日々 八神純子 八神純子 瀬尾一三 4'37"

6 (B-1) ワンダフル・シティ 八神純子 八神純子 後藤次利 4'07"

7 (B-2) 冬 戸次真理子 木戸やすひろ 戸塚修 3'44"

8 (B-3) サンディエゴ サンセット 八神純子 八神純子 後藤次利

瀬尾一三 4'10"

9 (B-4) シルエット 八神純子 後藤次利 後藤次利 5'06"

10 (B-5) Another Day, Another Me 川村ひさし 瀬尾一三 瀬尾一三 6'06"

JUNKO THE BEST (1980)

1 (A-1) うまくいなくても 柴田容子 柴田容子 後藤次利

2 (A-2) 愛色の季節 松本隆 萩田光雄 鈴木茂

3 (A-3) Be My Best Friend 山川恵津子 山川恵津子 鈴木茂

4 (A-4) 私の歌の心の世界 高田真樹子 高田真樹子 後藤次利

5 (A-5) 甘い生活 三浦徳子 八神純子 後藤次利

瀬尾一三

6 (B-1) みずいろの雨 三浦徳子 八神純子 大村雅朗

7 (B-2) 時の流れに 八神純子 八神純子

戸塚修 戸塚修

8 (B-3) 思い出は美しすぎて 八神純子 八神純子 戸塚修

9 (B-4) 思い出のスクリーン 三浦徳子 八神純子 大村雅朗

10 (B-5) パープルタウン

～You Oughta Know By Now～ 三浦徳子 八神純子 大村雅朗

夢見る頃を過ぎても (1982)

1 (A-1) 夢見る頃を過ぎても 八神純子

川村ひさし 八神純子 松任谷正隆

2 (A-2) シークレット・ラブ 八神純子

竜真知子 後藤次利 後藤次利

3 (A-3) 白い花束 八神純子 八神純子 大村雅朗

4 (A-4) 金曜日の夜 八神純子 八神純子 松任谷正隆

5 (A-5) 一年前の恋人 八神純子 八神純子 松任谷正隆

6 (B-1) ナイス・メモリーズ 原田真二 原田真二 原田真二

7 (B-2) B.G.M.

(バック・グラウンド・ミュージック) 八神純子 城山清一 大村雅朗

8 (B-3) I'm A Woman 阿里そのみ 城山清一 大村雅朗

9 (B-4) FLY AWAY 八神純子

山川啓介 八神純子 大村雅朗

10 (B-5) 二人だけ 八神純子 大村雅朗 大村雅朗

シングル

雨の日のひとりごと/何故だかつらいの(1974年12月)

幸せの時/私だけのあなた(1975)

思い出は美しすぎて/Endless Summer(1978)

さよならの言葉/恋人同志(1978)

みずいろの雨/目覚めたときに(1978)

思い出のスクリーン/雨の休日(1979)

ポーラー・スター/ビューティフル・デー(1979)

甘い生活/海のメロディー(1980)

パープル・タウン～You Oughta Know By Now～/漂流(1980)※「パープル・タウン」はJALニューヨークキャンペーンCMイメージソング。

Mr.ブルー～私の地球～/夏の日の恋(1980)

I'm A Woman/ネバーランドの男の子～FLY! PETER PAN～(1981)

恋のマジック・トリック/For You(1981)

サマー・イン・サマー～思い出は素肌に焼いて～/No Return(1982)※JAL'82沖縄キャンペーンCMソング

Touch you, Tonight/Miss プルーメリア(1982)

ラブ・シュープリーム～至上の愛～(宇宙戦艦ヤマト 完結編主題歌) /ユキの愛(1983)

恋のスマッシュ・ヒット～I Just Make A Hit wit-choo～/マンハッタンに魅せられて～Manhattan～(1983)

NATURALLY/夕映え(1983)

黄昏のBAY CITY/Lady-Ready(1983)

チーター(CHEATER)/ジョハナス・バーグ(1985)

素敵ダウントウン・ジミー/REACH OUT IN THE NIGHT(1985)

FUN CITY/摩天楼のハリケーン(1986)

カメレオン/金色のサプライズ(1986)

WORKING WOMAN(良妻賢母)/Crazy Love(1987)

TRUTH HURTS(真実は傷つくもの...)/WORKING WOMAN(良妻賢母)(1988)

セニョリータ/S・O・S(1989)

8月のエトランゼ/SUMMER TIME(1990)

Eurasian/Love Light(1992)

たとえ叶わない夢でもこれでいい/愛の炎～THE FLAME OF LOVE～(1993)

TEARDROPS/タイトロープ(1993)

Puesta del sol/あしたの私へ/Little Heaven(2000)

7曲の名曲と、10曲以上の佳曲をもつ、大歌手である。一時期、15年前後、低迷が続いたが、奇跡的に復活した。この曲は、タイトルは軽いが、爽やかなテイストをベースに、哀愁に満ちた懐古と回想、ガリズミカルな曲調に乗って、優しく慰撫してくれる。

あの人に逢いたい たまらなく逢いたい 高原に風がわたり 白樺がゆれている 夏がゆけば
恋も終わると あの人はいつも言っていた リーフ リーフ 君に---

(収集プロフィール)

舟木 一夫 (ふなき かずお、1944～) は、愛知県一宮市出身の歌手。橋幸夫、西郷輝彦とともに“御三家”と呼ばれた。学生服と八重歯がトレードマークで、デビュー当時は、学園ソングとよばれる、高校生活をテーマにした歌が多かった。のびやかな美声で1960年代を中心にヒットを飛ばし、同じ時期にデビューした西郷輝彦、橋幸夫とともに「御三家」として人気を集める。青春ソングの定番「高校三年生」に代表されるように、学生時代を題材にした歌謡曲のほか、時代モノも歌っている。

*60年代にっぽんを彩った青春スター、舟木一夫。橋幸夫は、お得意の股旅ソングのほか、ラテン/ロック/ロカビリーをドメスティックに消化した“リズム歌謡”なるジャンルを確立。西郷は、GS/ラテン/ホットロッドなどを吸収したキテレツ歌謡ナンバーを数多く輩出。このように人気だけでなく音楽的な評価も高かった2人に対して、舟木のイメージは青春アイドルそのもの。言うまでもなく63年の大ヒット・ナンバー「高校三年生」の影響。童貞風の制服姿で、極めて爽やかに歌いあげる一夫。そのインパクトがあまりに大きすぎたため、従来のイメージからの脱却は困難であった。一応、ロックやニューミュージックなどいろいろ挑戦してはみたものの「高校三年生」を超えることはできなかった。すなわち、舟木一夫とは、生涯、“青春野郎”でいることを義務付けられた悲劇のヒーロー。現在も、高齢女性を中心に依然根強い人気。

*1972年、心身不調により自殺を図るが未遂に終わる(尚、1970年と1971年にも自殺未遂を起こしている)。1973年、再び心身の不調のため翌年まで10ヶ月間静養。しかし1974年、NHKテレビ『思い出のメロディー』で復帰。

その後十数年に渡り不遇時代が続いたが、デビュー30周年プレ公演を機に、主に中高年女性のアイドルとして人気再燃、そのなかで「同じ青春を過ごした仲間にはしか通用しない歌い手がいい」と。

現在も、歌手としてテレビやコンサートで活躍している他、舞台俳優としても毎年座長公演をこなし、幅広い層から根強いファンを集めている。

2007年にはデビュー45周年を迎え記念コンサートを行う。そして「単なる流行歌でない。何も変える必要はない。これでいい」と。

*モダンでメロディアス、そしてアバンギャルドに発展していった昭和30年代40年代の歌謡曲シーンが注目を集めている。そんなドーナツ盤時代のヒット・ナンバー。青春歌謡、とでも言えるジャンルを確立した、戦後を代表する大歌手の舟木一夫が、大正、昭和の時代を飾った、陰と陽の名曲2曲に挑戦。必ずしも彼の世代の歌ではないが、中年期から歌唱スタイルに倍加された

男の色気で、先人たちとは異なる情感を表現。

主な曲（Aは名曲）

A高校三年生（c/w 水色のひと） 詞：丘灯至夫 曲：遠藤実 昭和38年6月

修学旅行（c/w 淋しい町） 詞：丘灯至夫 曲：遠藤実 昭和38

A学園広場（c/w 只今授業中） 詞：関沢新一 曲：遠藤実 昭和38

仲間たち（c/w はるかなる山） 作詞：西沢爽 曲：遠藤実 昭和38

A君たちがいて僕がいた（c/w 青春はぼくらのもの） 詞：丘灯至夫 曲：遠藤実 昭和39

涙の敗戦投手（c/w さらば古い制服よ） 詞：丘灯至夫 曲：戸塚三博 昭和39

花咲く乙女たち（c/w 若き旅情） 詞：西条八十 曲：遠藤実 昭和39

A北国の街（c/w はやぶさの歌） 詞：丘灯至夫 曲：山路進一 昭和40

A高原のお嬢さん（c/w 夏の日の若い恋） 詞：関沢新一 曲：松尾健司 昭和40

A絶唱（c/w 雨の中に消えて） 詞：西条八十 曲：市川昭介

A夕笛（c/w さんざしの花咲けば） 詞：西条八十 曲：船村徹

青春の鐘（c/w 幸せを抱こう） 昭和44

人生半分（c/w これから） 平成4年

恋唄（c/w たそがれの人） 平成16

私が若かった頃、テレビで、よく見かけた歌手である。その頃は、トークやバラエティは、あまりなかったので、私は歌手としての姿しか見ていない。この曲は、珍しいドドンパのリズムで、一般に知られているものとしては、渡辺マリの、「東京ドドンパ娘」に次ぐ知名度の曲であろう。唄は、かなり上手く、ド演歌やポップスも、楽々となす実力を持っていた。もうひとつの名曲、「ふるさとのほしをしよう」は、しみじみと、日本の原風景を想起させる傑作である。

君には君の 夢があり 僕には僕の 夢がある 二人の夢を 分け合えば 潮風甘い-- -

(収集プロフィール)

北原 謙二(きたはら けんじ、1939年10月-2005年1月)は、歌手。

来歴・人物

大阪府出身。ジャズ喫茶で歌っていたところをスカウトされ、1961年歌手デビュー。1963年、1964年に「若いふたり」で紅白歌合戦に出場。1991年3月に高血圧症脳内出血で倒れたが、左半身マヒと闘いながらリハビリを重ね、3年後に復帰。その後は全国各地の福祉施設への慰問活動などを積極的に行っていたが、2005年1月26日午後10時1分、虚血性心疾患のため都内の病院で死去。享年65。

*ノンバイブレーションのかわよさは、今も十分に魅力的。そしてこの乾いた味。青春歌謡の一方の旗頭として、もっと評価されていい人。

代表曲

日暮の小径 (1961年、デビュー曲)

忘れないさ (作詞：三浦康照／作曲：山路進一、1961年)

若いふたり (作詞：杉本夜詩美／作曲：遠藤実、1962年)

初恋は美しくまた悲し (作詞：三浦康照／作曲：市川昭介、1963年)

若い明日 (1963年)

若い君若い僕 (デュエット：谷由美子／作詞：三浦康照／作曲：遠藤実、1963年)

若い太陽 (1964年)

北風 (North Wind) (作詞・作曲：Rod Morris／訳詞：服部レイモンド、1964年)

ふるさとのほしをしよう (作詞：伊野上のぼる／作曲：キダ・タロー、1965年)

(ヒット曲として知られる。2004年に山本譲二によりカバーされた)

映画

『仲よし音頭 日本一だよ』(1962年)

北原由紀というと、この曲は知っている、という人は多いだろう。彼女の声質と曲調が、よく合っているのだ。当時、かなりのヒットだった。名曲とっていい。ほかに、「嘘でもいいから」と「旅の手紙」「それでもいいの」は佳曲である。サビにおける特有の低めの節回しと、演歌では珍しいあっさりしたテイスト。コブシは少し使うが、揺らしなどは無い。まあ、テクニックの不足なのかも知れないけれど。長山洋子ほどの華々しさはないが、ポップス系から移行して成功した、稀な例だろう。若い頃の、ザ・シュークリームは、かなり売れたグループ（ぶりっ子のアイドル達よりも少し大人の、唄とダンスの）で、テレビでこの時代の彼女はよく見かけた。もっとも、何を唄っていたのか、記憶が薄い。

(詞:千家和也／曲:市川昭介)

歳の違いが どうだと言うの 人の噂が 何だと言うの あなたと私に 愛さへあれば----

(収集プロフィール)

北原 由紀（きたはら ゆき、1952～ ）千葉県出身の、日本の歌手。現在は北原由貴として活躍。またNPO法人トレフルクラブで、福祉部長としてボランティア活動を行っている。

来歴

1970年、渡辺プロが売り出したアイドルグループ「ザ・シュークリーム」のメンバーとしてデビュー。当時の愛称は「イッコ」「イっちゃん」。他のメンバーには、ホーン・ユキ（ユキ）、清水クーコ（クーコ）、甲山暁美（ノロ）がいた。1973年に解散。

主な曲

「嘘でもいいから」 1977.10

「かしこい女じゃないけれど」 1981

「貴方の女でいたいから」 1993

「おんな川」 1994

*オフィシャル・ウェブより

私は平成十年に乳がんを患いました。死を意識する闘病生活の中で、家族の愛や友人の暖かい心に励まされ、今では元気に歌を唄うことが出来るようになりました。ガンを克服できた感謝をこめて、愛と勇気、そしてガンの早期発見を一人でも多くの方々に伝えたく、全国100ヶ所無料慰問コンサートを、行ってまいりました。ガンを克服できた感謝をこめて。

ピン子をはじめて知ったのは、やはり「ウィークエンダー」（1975～1984年）である。それ以前は、ほとんどがドサ回りの仕事だったらしい。ピン子は、気力と根性で、このチャンスを見事に掴んだ。その後の活躍は、日本人の多くが知るところだろう。私は、「ウィークエンダー」は都合で見れない日もあったが、70%くらいは見ている。この番組のレポーターは初期の頃だけでも7、8人いたが、人間関係や、取巻く状況、下ネタなども明け透けにオーバーに語る、ピン子は際立って面白かった。1年後には知名度もぐんと上がり、他の番組でも見かけるようになった。ピン子が苦手な視聴者も多いが、私は楽しませて貰っている。高田純次が夫の「自治会長・糸井」シリーズは、家族関係とサスペンスをメインにした、2時間ドラマの定番でかなり面白い。

さて、この曲は、なかなかの名曲である。1987年に、広野ゆきがりメイクしているが、歌唱に深み不足というか、人生経験の差が出ているようだ。

（詞：藤公之介／曲：小林亜星）

苦しいものですね 恋は 振り向いて下さい どうか---蝶のように やさしくしてくれたのは
あなただけです それを私 真にうけました ああほんとにバカですね-----

（収集プロフィール）

泉ピン子（いずみぴんこ、1947～ ）は、東京都中央区出身の女優・漫談家。父は浪曲師の広沢竜造、継母は浪曲師の三門お染。

夫は消化器内科医の武本憲重。泉とは別の愛人との間に二人の娘がいる。長女は、義母である泉の仕事に興味をもち、現在、泉沙織（いずみさおり）としてアマチュア・エンタテインメントで活動している。

来歴

日本音楽高等学校中退。1966年、牧伸二に師事して、三門マリ子の芸名で歌謡漫談家としてデビューするも、キャバレー回りが続く。歌謡漫談家のネタの中にはコント55号が作成したものもある。ある日、街角でキャバレーの呼び込みに「うちで働かない？」と声をかけられたが、「はばかりながら、こっちはもっといい商売やってんだよ！」と一蹴した。キャバレーの呼び込みは、「いけね。トルコ嬢に声かけちまった」と言ったという。

1975年に日本テレビ系列『テレビ3面記事 ウィークエンダー』の番組レポーターを担当したのを機に、改名し「泉ピン子」となる。この芸名は芸人であることをずっと反対していた父親が「芸人にはピンからキリまであるのだから、志しが一番なピンの芸人になれ」と、泉に話したことから。その後、女優業に転身する。歌謡曲の歌手としても1977年に「哀恋蝶」が40万枚のヒットを記録。

女優としては1983年にNHKで放送された連続テレビドラマ『おしん』に母親役で出演したことがきっかけで評価を得、また同作の脚本を書いた橋田壽賀子に高く評価されたことにより、以来現在まで橋田ファミリーの旗頭的な存在である。長いセリフにも動じない安定した演技に定評があり、以降は橋田作品のドラマや映画に数多く出演する。橋田とは赤木春恵などと共にプライベ

ートでも一緒に旅行に行くなどの交友がある。

バラエティ番組では元コメディエンヌとしての才を活かし、達者なトークで活躍。一方で人気ドラマ『渡る世間は鬼ばかり』（TBS系）では本来のキャラクターと相反するおとなしい嫁の役を演じている。

エピソード

2005年、TBS系ドラマ『美空ひばり物語』でひばりの母親役を演じるために16kgものダイエットに成功。

立ち上がった姿は「ピン子立ち」と評されるくらい姿勢が正しい。

矢沢永吉の熱狂的なファンであり『アリよさらば』では特別出演を果たし、矢沢と共演して嬉しさのあまり感極まったそう。

テレビ

NHK

ドラマ人間模様

「夫婦」（1978年5月～6月）

「花々と星々と」（1978年12月）

連続テレビ小説

「おしん」（1983～1984年） - 谷村ふじ 役

「おんなは度胸」（1992年） - 山代（花村）玉子 役

大河ドラマ

「おんな太閤記」（1981年） - 朝日姫 役

「山河燃ゆ」（1984年） - 三門百蘭 役

「いのち」（1986年） - 村中ハル 役

TBS

花吹雪はしご一家（1975年）

いごこち満点（1976年） - 藤原ピン子 役

道（1978年 - 1979年）

日本悪妻に乾杯!（1981年、MBS）

淋しいのはお前だけじゃない（1982年） - 沼田よし江 役

渡る世間は鬼ばかり（1990年～） - 小島（旧姓；岡倉）五月 役

自治会長・糸井緋芽子社宅の事件簿（2001年～） - 糸井緋芽子 役

ぴったんこカン・カン

愛のエプロン

オーラの泉

映画

男はつらいよ 噂の寅次郎（1978年） - 小島瞳 役

関白宣言（1979年） - 宇田政子 役

思えば遠くへ来たもんだ（1980年） - 渡辺よし子 役

おしん（1984年）

一杯のかけそば（1992年） - 母 役

学校Ⅱ（1996年） - 緒方綾子 役

ケイゾク（2001年） - 野々村昭子 役

カンフーくん（2008年） - 泉ちゃん 役

私は貝になりたい（2008年） - 折田の母 役

能登の花ヨメ（2008年） - 竹原松子 役

ユーミンの唄で特に好きなのは、この曲と「翳りゆく部屋」「ルージュの伝言」「中央フリーウェイ」「砂の惑星」「雪月花」などだが、音楽的な幅が広いので、人によってかなり異なるかも。私がこの曲を知ったのは、例の片岡鶴太郎主演のテレビドラマ「季節はずれの海岸物語」である。かなり人気があって、5、6年の間に、15作前後続いたと思うが。いつも、ストーリーの盛り上がったエンディングの、海辺の美しい映像にかぶせて、3、4分この曲が流れた。多くの人の、心に響くのは、状況や設定を替え、自分流にすこしアレンジすれば、過去の自分の、何がしかに引っ掛かるからであろう。

ホコリだらけの車に 指で書いた Tryu love,my true love 本当に愛していたんだと あなたは気にもとめずに---それからどこへ行くにも 着かざってたのに どうしてなの 今日にかぎって 安いサンダルを---

(収集プロフィール)

松任谷 由実 (まつとうや ゆみ、1954～) は、日本のシンガーソングライター、作曲家、作詞家。荒井由実 (あらい ゆみ) の名で活動していたが、1976年の結婚とともにアーティスト名も改姓。ペンネームは呉田軽穂 (くれた かるほ)。東京都八王子市出身、世田谷区岡本在住。立教女学院高校、多摩美術大学美術学部絵画学科日本画専攻卒業。

*今なお日本のポップ・シーンでトップの地位に君臨しつづける女王・松任谷由実、通称ユーミン。73年に荒井由実として『ひこうき雲』でデビューを果たす。細野晴臣率いるキャラメル・ママの都会的センスに溢れたバックিংと彼女のリッチでファッショナブルな世界観は、歌謡曲/四畳半風フォーク色だったポップ界に新たな価値観を呈示した。また76年に松任谷正隆(キャラメル・ママ～ティン・パン・アレイ)と結婚したことにより強力なブレーンを得た彼女は二人三脚での活動を開始し、より大衆的なポップスの名曲を創りだしていく。

*「14番目の月」シティ・ポップスの第一人者としての地位をユーミンが確立したアルバム。歌を聞いて情景が浮かんでくる「中央フリーウェイ」は、しっかりとロケハンまでしてつくった曲。見事に70年代の青春しているアルバム。

*「YUMING BRAND」荒井由実だったころのユーミンのベスト。ユーミンの第1期黄金時代ともいえるフレッシュな感性と独持のユーミン・サウンドが美しくマッチした名曲ぞろいで、上品でさわやかなメロディはいつ聴いても新鮮な印象を受ける。懐かしき時代の息吹を伝える名コンピレーション。

*「WINGS OF WINTER,SHADES OF SUMMER」ユーミンというアーティストの真骨頂を見たような気がする。それほど素晴らしいトータル・アルバムだ。リゾートを離れても、日常に戻っても、決して色あせることなく心の奥でそっと鳴り続ける、そんな穏やかな力を持っている。メロディも本当に瑞々しい。

80年代に入ると、時代をリードする先導者としてミリオン・セラーを連発、若いカップルの恋愛、ライフスタイル―サーフィン、スキーなどをテーマにしたユーミン・ブランドを確立。OL層を中心にファッション、恋愛の教祖として熱狂的な支持を得た。90年代に入ってもその勢いは衰

えず、ワールド・ミュージックやエスニック風味を取り入れるなどの新境地を見出し、ラテン・テイストの「真夏の夜の夢」、アルバム『カトマンドウ』が大ヒットを記録。

豪華なステージ・セットやゴージャスなサウンド・プロダクションに目を奪われがちな彼女だが、すぐにメロディを口ずさめる楽曲こそが、メガ・ヒットの要因であり、かつ最大の魅力であるといえよう。

夫はアレンジャー、作曲家、音楽プロデューサー、自動車評論家の松任谷正隆。ラジオなどで正隆について語る時は「松任谷」「まるまつ」「おとうさん」と呼んでいる。

1988年のアルバム『Delight Slight Light KISS』以降は8枚連続のミリオンセラーを連発。

彼女が始めた“見せる”ステージは、1978年自転車に乗って登場する『大衆的時事歌劇』に始まり、本物の象が出た『OLIVE』・マジックを取り入れた『MAGICAL PUMPKIN』・エレベータを設置した『BROWN'S HOTEL』・噴水ショー『SURF & SNOW』・30メートルの竜に乗った『水の中のASIAへ』など年々エスカレート。億単位の金をかけ、内外の最新技術を積極的に取り入れた、コンサートの枠を超えた新たな一大エンターテイメントになっていった。当時のインタビューでも、「レコードで儲けた分、コンサートで夢と一緒にファンの方にお返しするのが役目」と語っていた。「若者のカリスマ」、「恋愛の教祖」などと呼ばれ、1980年代はまさにユーミンの時代だった。「中産階級の手が届く夢」を歌って時代の波に乗ったユーミンだったが、1990年代に入ると精神世界や民族的な音楽に着目。『満月のフォーチュン』『真夏の夜の夢』『輪舞曲』などを生み出す。

1996年、旧姓荒井由実の名で活動を行う。セルフカバーシングル『まちぶせ』を発売。また、当時の仲間のミュージシャンを集めて、「Yumi Arai The Concert with old Friends」を開催した。このライブアルバム発売に伴い、年末リリースのアルバムが数ヶ月遅れた。これ以降、日本の恒例行事とまで呼ばれたサイクル（冬のアルバム発売～夏までツアー）が若干緩やかになったが、「カリスマはもういい。これからは好きな音楽をやる」と宣言した彼女は、以後も精力的に作品を制作。ステージはますます大掛かりになり、1999年・2003年にはロシアのサーカスチームとコラボレートした制作費50億円のコンサート「シャングリラ」を開催。前代未聞の興行として話題になる。2007年にはシリーズ最後を飾る「シャングリラIII」を開催。

2009年、2月5日から16日まで恒例の苗場コンサートを開催。インターネットでもライブを配信。4月にニューアルバム「そしてもう一度夢見るだろう」をリリース後は、4月10日から10月3日まで(全61公演)全国コンサートツアー「TRANSIT」を開催。

シングル

1984年2月1日 VOYAGER～日付のない墓標～ 青い船で

21 1985 メトロポリスの片隅で パジャマにレインコート

22 1987 SWEET DREAMS SATURDAY NIGHT ZONBIES

23 1989 ANNIVERSARY～無限にCALLING YOU ホームワーク

24 1993 真夏の夜の夢 風のスケッチ

25 1994 Hello, my friend Good-bye friend

26 1994 春よ、来い

27 1995 輪舞曲 (ロンド) Midnight Scarecrow

28 1996 まちぶせ

29 1996 最後の嘘 忘れかけたあなたへのメリークリスマス

30 1997 告白 Moonlight Legend

31 1997 Sunny day Holiday 夢の中で～We are not alone, forever

32 1999 Lost Highway Spinning Wheel

33 2000 PARTNERSHIP So long long ago

34 2001 幸せになるために TWINS

35 2001 7 TRUTHS 7 LIES～ヴァージンロードの彼方で Song For Bride

TUXEDO RAIN

ANNIVERSARY

36 2003 雪月花 Northern Lights

37 2005 ついてゆくわ あなたに届くように

38 2006 虹の下のどしゃ降り Smile again

39 2007 人魚姫の夢 Au Nom de la Rose

アーティスト に提供

アン・ルイス 作詞作曲 『甘い予感』

五十嵐夕紀 作詞 『6年たったら』 『丘の上の十番地』

石川セリ 作詞作曲 『手のひらの東京タワー』 『川景色』

稲垣潤一 作詞作曲 『オーシャン・ブルー』

April 作詞作曲 『Finally』

絵夢 作詞 『くもりガラス』

カルロス・トシキ&オメガトライブ 作詞作曲 『時はかげろう』

『Like a Dolphine』 『Golden Town』

キム・ユナ 作曲 『春の日は過ぎゆく』 (映画「春の日は過ぎゆく」主題歌)

桐ヶ谷仁 作詞 『暮れ色の媚薬』 『誰よりも』

『DEPARTURE』

桑田佳祐 & His Friends 作詞 『Kissin' Christmas (クリスマスだからじゃない)』 (日本テレビ系「Merry Xmas Show」テーマソング)

小林麻美 作詞作曲 『恋なんてかんたん』 『幻の魚たち』

『EROTIQUE』 『移りゆく心』

西城秀樹 作詞作曲 『2Rから始めよう』

ザ・スクエア 作曲 『黄昏で見えない』

沢田研二 作詞作曲 『静かなまぼろし』

元ちとせ 作詞作曲 『ウルガの丘』

ヒデとロザンナ 作詞 『追想』

ブレッド&バター 作詞作曲 『海岸へおいでよ』

森山良子 作詞作曲 『きのうに乾杯』 『どこへも行かないで』
レイジー 作詞 『カムフラージュ』 『クイーンにふさわしい』

改めてサーチしてみて、驚いたのは、意外にいい曲があるということ。私の印象では、「あなたにあげる」以外に、何があるの？という感じでのサーチだったので。私のお奨めは、この曲と「東京ラブコール」「小泊岬」。名曲である。世間的に人気があるのは「峰子のマドロスさん」「ギター流して今晚わ」「縁切り港」など。

私は西川が、かつての五月みどりのように、特に色っぽいとは思わないけど、世間的には、その面での需要がかなりあるようだ。残念なのは、デビュー時の圧倒的な歌唱力が、その後、あまり伸びていないこと。というか、ややガラッぽくなって声の質が低下していること。歌唱の深化も、あまりないし。西川は本来なら、演歌・歌謡曲系・女性歌手で上位にいるはずが、長い間、中位のまま。ぜひ初めからリセットしなおして、上位をめざして欲しい。実力は、十分あるのだから。きっと、間に合う。

夜明けまじかに 列車に乗れば 次の朝には 故郷へつける---待ってるはずよ 夢であなたに帰ります

(収集プロフィール)

西川 峰子（にしかわ みねこ、1958～）福岡県田川郡赤村出身の歌手、女優。都立代々木高校中退。

*セックス・シンボル西川峰子。その名を耳にするだけで、あるものは「いっひっひ」とだらしなく口液を垂れ流し、またあるものは体の一部分を激しく充血させる。まるでパブロフの犬のごとく。熟れた果実を彷彿させる肉感的なボウようだ。ディから漂う、アノ床上手風情のフェロモン。老いも若きも超越した究極のエロスがそこにあるのだ。

*歌唱力に秀で、1973年に第3回全日本歌謡コンテストで優勝。翌1974年7月、“やまびこ演歌”のキャッチフレーズでビクターから『あなたにあげる』でデビュー。いきなり大ヒットとなり、一躍人気歌手へ。同曲で、第16回日本レコード大賞新人賞。さらに同曲は、1975年のシングル売上でオリコン年間第17位に。その後もコンスタントにヒット曲を放つ。

年末恒例のNHK紅白歌合戦には、初出場の1975年（第26回）から1978年（第29回）まで、4年連続で4回出場。その後女優業にも進出し、『吉原炎上』などにも出演した。現在では、タレントとしても活躍。

1993年には、ヘアヌード写真集「PRIVATE」を発表。1998年には、那須高原の新築1ヶ月の別荘が台風4号に伴う豪雨で流され話題となった。2001年、後鳥羽上皇の墓守りである隠岐島在住の町議会議員の男性と結婚したが、2008年には離婚調停が開始。2009年4月28日新聞紙上・テレビで正式な離婚が発表され、同日会見が行われた。（原因は夫による浮気とされ、西川の出資で世田谷に出した飲食店で知り合った女性と親しくなり、暴言を吐くなどしたと報じられる。

シングル

あなたにあげる（1975年紅白）

初めてのひと

ふたりの秘密

考えさせて欲しいのよ

縁切り港

十九の夢

峰子のマドロスさん（1976年紅白）

女になるでしょう

ギター流して今晚わ（1977年紅白）

帰郷

男友達

いっちゃえ、いっちゃえ

東京ラブ・コール（1978年紅白）

あしたの幸せ

小泊岬

など

アルバム

GOLDEN☆BEST やまびこ演歌・西川峰子（2007）

出演映画

吉原炎上（1987年）

肉体の門（1988年）

極道の妻たち 三代目姐（1989年）

新極道の妻たち 惚れたら地獄（1994年）

難波金融伝・ミナミの帝王 嘆きのニューハーフ（1998年）

加藤のリメイク版は、1970年発売。この曲は、はじめ森繁の作詞・作曲・歌唱で、発表されたが、人口に膾炙されるには遠かった。加藤以前に、ラジオ等で何度か聴いたことはあったが、加藤によって、世に知られた曲といえよう。クールな加藤の地声と、歌の雰囲気と内容が、ピッタリはまって、大ヒットとなった。この曲は4、5年のあいだ、テレビやラジオ、商店街から、よく流れてきた。

知床の岬にハマナスの咲くころ 思い出しておくれ---飲んで騒いで 丘に登れば---白夜は明ける
(収集プロフィール)

加藤登紀子(1943-)は旧・満州ハルピン生まれの歌手。「おときさん」の愛称で親しまれている。都立駒場高校、東京大学文学部西洋史学科卒。現在は城西国際大学・観光学部ウェルネスツーリズム学科の客員教授でもある。

略歴

1965年 東京大学在学中に、第2回日本アマチュアシャンソンコンクール優勝。

1966年 「誰も誰も知らない」でデビュー。「赤い風船」で日本レコード大賞新人賞受賞。

1969年 「ひとり寝の子守唄」で日本レコード大賞歌唱賞受賞。

1971年 「知床旅情」(作詞・作曲:森繁久弥)で、2度目の日本レコード大賞歌唱賞受賞。

1972年 藤本敏夫と獄中結婚。

1983年 東宝映画「居酒屋兆治」に高倉健の妻役で、映画初出演。

1987年 「百万本のバラ」がヒット。「難破船」(中森明菜)、「わが人生に悔いなし」(石原裕次郎) といった提供曲も、好セールスを記録。

1988年 ニューヨーク・カーネギーホールで日本人女性として初めてのコンサートを行う。

1992年 芸術文化活動における功績に対して、フランス政府からシュバリエ勲章を授与される。

1997年 WWFジャパン(世界自然保護基金日本委員会)評議員に就任。

2000年 UNEP(国連環境計画)親善大使に任命。

2006年 FUJI ROCK FESTIVAL 06に出演。若手ミュージシャンなどとも交遊が広く積極的にコラボレートするなど、現在も精力的に活動。

エピソード

学生運動が盛んだった高校生の頃に、東大生の樺美智子の訃報にふれ、心を動かされる。同大入学後、アイドル歌手的存在となりつつも、学生運動に積極的に参加する。その噂を聞きつけた、同志社大学の学生であり、「反帝学連」委員長の藤本敏夫に、コンサートへの出演依頼を受けるものの、歌を政治運動に利用されることを嫌った加藤は、それを断る。しかし、この件をきっかけに2人は交際を始める。紆余曲折を経て1972年5月に、防衛庁襲撃事件などで逮捕され、拘留の身であった同氏と獄中結婚。「ひとり寝の子守歌」は、塙の中にいる夫を思って作られた、加藤登紀子を代表する曲のひとつでもある。拘留と釈放を挟み、あわせて30年間を連れ添った夫は、2002年に死去(享年58)。夫との間には1972年、1975年、1980年生まれの三人の娘がおり、そのうち1人はYae(藤本八恵)として歌手活動中。

主な曲

1966年 赤い風船

1969年 ひとり寝の子守唄

1970年 知床旅情（森繁久弥のカバー）

1971年 琵琶湖周航の歌

1971年 愛のくらし

1974年 灰色の瞳（長谷川きよしとのデュエット）

1974年 黒の舟唄（長谷川きよしのカバー）

1978年 この空を飛べたら（作詞・作曲: 中島みゆき）

1983年 時代おくれの酒場（高倉健への提供曲）

1987年 百万本のバラ

1985年、発表。最近は、ライフワークである、童謡や唱歌の分野でも、大きな成果をあげている。この曲は、その知名度は300曲中、297位前後であろう。名曲であるのに、知る人がすくない。内容的には、マドロスと港の女という、ありきたりなもの。けれど、いちど聴いてほしい。セミクラシックのように、美しいメロディー。瀟洒に洗練された、多くのフレーズが、永遠のように儂く美しい。

(作詞 吉田旺 作曲 川口真)

雨が来そうよ 傘をもってね 港についたら 捨てて---遅れてしまうわ 船の時間に

(収集プロフィール)

由紀さおり(1948~)日本の歌手・女優。群馬県桐生市出身。

少女時代から姉の安田祥子と共に本名の「章子」名義で童謡歌手として活躍。1965年に歌手デビューを果たすも、まったくヒットせずしばらく停滞の時代に入るが、1969年再起をかけた「夜明けのスカット」が当時の深夜番組でBGMとして使用されたことを機に大ヒットし、最終的には150万枚のミリオンセラーとなり、この年、日本レコード大賞歌唱賞を受賞すると共に、NHK紅白歌合戦にも初出場を果たす(以降1978年・第29回まで10年連続で出場)。その後も「手紙」「生きがい」「故郷」「ルーム・ライト」「挽歌」「トーキョー・バビロン」などの優れた歌謡曲を世に送り出し、その確かな歌声は「酔い覚ましの清涼剤」との評価を受ける。1973年には「恋文」で日本レコード大賞最優秀歌唱賞を受賞した。

*日本を代表する童謡歌手。今や『紅白歌合戦』の常連としてもお馴染みの由紀さおり・安田祥子は、親から子へと受け継がれていく童謡や愛唱歌をより多くの人々に聴いてもらいたいと願い、国内のみならず海外においても公演活動を行う。そして、姉妹の抜群の歌唱力/ハーモニーは国境も世代も越え、幅広い層から支持を得ているのだ。その美しく透きとおった歌声の影に乾いた哀しみが漂っているのに気付くと、由紀さおりの歌の表情が一変するはずだ。巧みにさまざまな歌唱スタイルをみせるが、「手紙」「金糸雀(カナリヤ)」「夢もうすこし」などでの寂寥は癒しがたいほど深く哀しい響きだ。

*誰もが幼少期に慣れ親しんだ旋律と、温かい母性愛に満ち溢れた優しい歌声は、郷愁を誘い疲弊した心を潤します。あなたも、純粋な気持ちに立ち返ってみてはいかが。

*1980年代になると、主にテレビ司会者・女優としての活躍が目立ち、彼女のマルチな才能が一気に開花した。1983年には松田優作主演の「家族ゲーム」でお惚けな母親役を好演し、日本アカデミー賞助演女優賞を受賞、1987年には朝の連続テレビ小説「チョッちゃん」で主人公の母親役を演じ、流暢な方言を披露し話題となった。また、かつてフジテレビ系列で放映された『ドリフ大爆笑』などで、ザ・ドリフターズとコントで共演することが多く、ドリフメンバー(とくにいかりや長介)からはお笑いの「いろは」を数多く学び、ドリフの番組の中では、沢田研二同様、ゲスト歌手としては珍しくコントの「オチ」を任されることもしばしばあった。最近でもNHKの「コメディお江戸でござる」(のち「道中でござる」)でも、レギュラーで出演し、芸人顔負けのコメディエンヌぶりを披露した。

1985年より姉・祥子と共に童謡コンサートをスタートさせ、徐々に歌手活動に再び重点を置くようになる。1986年には童謡アルバム「あの時、この歌」を発表し日本レコード大賞企画賞を受賞。童謡ブームの火つけ役となる。1987年には童謡歌手としてNHK紅白歌合戦に復帰し、以降2001年まで紅白の常連として出演した。なお、1992年にはトリを務めている。現在も各地で精力的にコンサートを行うと共に、近年では再び女優・タレントとしての側面が注目され始めている。

主な曲

夜明けのスキヤット（1969.3）＊オリコン・シングル史上、最も歌詞が短い1位曲。

天使のスキヤット（1969.7）

枯葉の街（1969.10）

手紙（1970）

生きがい（1970）

故郷（1972）

恋文（1973）

挽歌（1974）

季節風（1975）

お先にどうぞ（1987）

1986年頃、発売。この曲のタイトルを辞書で調べると、「訪れてきた人の帰ろうとするのを、引き留めるかのように、降って来る雨」となっている。私は、屋根の雨どいの辺りに、降り掛かる雨、と想像していたので、笑ってしまった。

内容は、とても深刻で、自分から去って、夢を果たしに都会へ出てゆく男と、置き去りにされる女の物語である。川中の、熱い歌唱が、聴く者を人生の深みへと引きこむ。

幸せつかめぬように 生まれてきたと飲んであなたは 笑ってた---追いかける夢に 夢に疲れたら きっと帰ってこの街へ---

アパートでも良いのだが、たぶん、古い街の一軒屋。板かブロックの、簡素な塀。雨の早朝。女は、傘を差し出すが、受け取らずに、男は出て行く。その影は、小さくなり、やがてはるかに消えてゆく。現代版の、後朝の別れといって良い。ヒロインは、たぶん古くからの、この街の人なのであろう。30代前後から中高年。男は、同じかすこし年上。溢れるような女の愛を、捨てて、街を出て行く男。もう二度と帰ってくることは、無いであろう。女は、それを知りながら、なお戸口に立ち続けるのだ。

(収集プロフィール)

川中 美幸（かわなか みゆき、1955～ ）は、大阪府吹田市出身の演歌歌手である。

あなたに命がけ」でデビューを果たした昭和52年から、顔がまったく変わらない川中美幸。昭和55年の「ふたり酒」がミリオン・セラーに。その後も「豊後水道」「二輪草」などヒットを飛ばし、日本演歌界を代表する女性歌手のひとりとなった。

しかし、順風満帆かと思われた川中を突如、不幸が襲う。平成12年、TVディレクターである夫が麻薬所持で逮捕。だが、我々はこの事件で皮肉にも、彼女の逞しさと慎ましさに共感することとなった。事件直後、「なにわの女」にて出場した紅白歌合戦での涙ながらの熱唱は、夫婦の絆がいかに大事であるかを世間に痛く知らしめたのだ。

主な曲

二輪草

ふたり酒（2006年の紅白歌合戦ではこの曲で紅組のトリ）

越前岬

遣らずの雨（作詞：山上路夫 作曲：三木たかし）

豊後水道

大河の流れ

君影草～すずらん～

出張物語（2000年発表、吉幾三とデュエット）

すでに、16の名曲と、10以上の佳曲を持つ、ゆるぎない大歌手である。この曲は、安心して聴ける定番の演歌ながら佳曲で、リズムカルなたたみ掛けが良い。この曲は、多くの歌手がカバーしているが、やはり五木ひろしが、群を抜いている。

約束の うれしさ胸に 口紅をさす 待ち人待つ夜の 宵化粧---

(収集プロフィール)

五木ひろし(いつきひろし、1948～)は、日本の歌手、作曲家。2007年、紫綬褒章を受章。福井県三方郡美浜町出身。

生い立ち

父親は鉾山技師で鉾脈を追って家族で各地を転々とし京都府で生まれる。生後、家族で美浜町に移り、父親は鉾山技師を辞め建築用石材を扱う会社を興す。

1964年、第15回コロムビア全国歌謡コンクール優勝。作曲家の上原げんとにスカウトされ、内弟子となる。「歌うミスター平凡」(雑誌『平凡』)に選抜。1965年6月、“松山まさる”として、コロムビアから「新宿駅から/信濃路の果て」でデビュー。シングルを計6枚発売するもヒットに至らず、1967年にポリドールへ移籍。1967年4月、“一条英一”に改名して、ポリドールから「俺を泣かせる夜の雨」で再デビュー。シングルを計3枚発売するもヒットに至らず、1968年、契約を解除される。1969年、銀座で弾き語りをしているところを作曲家の遠藤実にスカウトされ、ミノルフォンと契約。12月、“三谷謙”に再び改名して、「雨のヨコハマ/東京 長崎 札幌」で再デビューを果たすもヒットに至らず。デビューしてから約5年間の間に2度も芸名を変更するなど不遇の時代を過ごす。

*1970年、よみうりテレビ制作の『全日本歌謡選手権』に、歌手生命のすべてを賭けて“三谷謙”として出場。第1週挑戦時には、「これで駄目なら、ふるさとの福井に帰って農業をやる」と悲壮な覚悟を語っているが、最終的には10週連続で勝ち残り、グランドチャンピオンに輝く。これにより、レコード歌手として再デビューできる権利を獲得。同番組の審査員であった作詞家の山口洋子と、作曲家の平尾昌晃に師事。プロデューサーには山口が就任。キックボクシング・ジムであった野口プロモーションと契約を結び、同プロ所属の芸能人第1号となる。

1971年3月、“五木ひろし”として、ミノルフォンから再デビュー。「五木」は山口洋子が五木寛之から頂戴した。再デビューの「よこはま・たそがれ」で、山口は女ごころを表現した詞を書き、平尾昌晃がそれにモダンでソフトな演歌調の曲を付けた。マイクを左手で持ち、右手は拳を握り締め、腰をシェイクさせてリズムを採る独特の歌唱スタイルは、同じ野口プロに所属していたキックボクサー・沢村忠の“ファイティング・スタイル”からヒントを得たもので、物真似をされるほどに五木の代名詞として定着。五木は「“拳”は演歌の“コブシ(小節)”をかけている」と語っている。「よこはま・たそがれ」はオリコンで、最高位1位、65万枚に迫る売上げを記録。第2弾シングルのマドロス演歌「長崎から船に乗って」も最高位4位、45万枚に迫る売上げを記録。

主な曲(Aは名曲・他は佳曲)

1971年(昭和46年)

Aよこはま・たそがれ（作詞：山口洋子、作曲：平尾昌晃）

長崎から船に乗って（作詞：山口洋子、作曲：平尾昌晃）

1972

かもめ町みなと町（作詞：山口洋子、作曲：筒美京平）

待っている女（作詞：山口洋子、作曲：藤本卓也）

A旅鴉（作詞：藤田まさと、作曲：遠藤実）

あなたの灯（作詞：山口洋子、作曲：平尾昌晃）

1973

A霧の出船（作詞：山口洋子、作曲：平尾昌晃）

Aふるさと（作詞：山口洋子、作曲：平尾昌晃）

A夜空（作詞：山口洋子、作曲：平尾昌晃）

1974

A浜屋顔（作詞：寺山修司、作曲：古賀政男）

1975

A千曲川（作詞：山口洋子、作曲：猪俣公章）

1977

灯りが欲しい（作詞：藤田まさと、作曲：遠藤実）

1979

蝉時雨（作詞：喜多条忠、作曲：宇崎竜童）

Aおまえとふたり（作詞：たかたかし、作曲：木村好夫）

1980

A倅せさがして（作詞：たかたかし、作曲：木村好夫）

Aふたりの夜明け（作詞：吉田旺、作曲：岡千秋）

1981

人生かくれんぼ（作詞：たかたかし、作曲：弦哲也）

1982

愛しつづけるボレロ（作詞：阿久悠、作曲：筒美京平）

A契り（作詞：阿久悠、作曲：五木ひろし）

A居酒屋（木の実ナナ&五木、作詞：阿久悠、作曲：大野克夫）

1983

A細雪（作詞：吉岡治、作曲：市川昭介）

1984

A長良川艶歌（作詞：石本美由起、作曲：岡千秋）

おはん（作詞：たかたかし、作曲：岡千秋）

デュオしのび逢い（マリエ&五木、作詞：たかたかし、作曲：五木ひろし）

ふたりのラブソング（都はるみ&五木、作詞：吉岡治、作曲：五木ひろし）

1985（昭和60）

そして...めぐり逢い (作詞：荒木とよひさ、作曲：中村泰士)

浪花盃 (作詞：石本美由起、作曲：市川昭介)

1987

追憶 (作詞：阿久悠、作曲：三木たかし)

1991

おしどり (作詞：石坂まさを、作曲：弦哲也)

1995

酒 尽 尽 (作詞：能吉利人、作曲：桜井順)

2000

A山河 (作詞：小椋佳、作曲：堀内孝雄)

2005

Aふりむけば日本海 (詞：五木寛之、曲：五木ひろし)

2006

高瀬舟 (詞：水木れいじ、曲：五木ひろし)

2008

凍て鶴 (詞：喜多条忠、曲：三木たかし)

2010

おしろい花 (たかたかし 詞 木村好夫 曲)

ジャンルを問わず、日本オリジナルの楽曲で、希望と癒しを齎してくれる曲は、本当に少ない。民族性、なのであろうか？たまに在っても、名曲とは言いにくい歌がほとんどである。そんな中で、川中のこの曲は、文句のない名曲である。失恋を抱えながら、旅をしているヒロイン。明るく美しい、春の豊後水道の情景に癒され、気持ちを変えて、先への希望を持つようとしてゆく。豊後水道の青い潮流は、この曲のヒロインの心に乗せて、どこかへ向おうとしている。

テレビで川中（春日はるみ、として）を初めて見たのは、昭和48、9年頃だろう。逆算すると、当時18、9歳となるが、いつも同じ、青い着物を着て、ニコニコと唄っていた。私は、27、8歳くらいに見ていたが。唄はかなり上手かった、と思う。けれど、心に残る唄とはいえず、5回まで見ないうちに、彼女は消えていった。

（詞・阿久悠 曲・三木たかし 1988）

やさし過ぎるわ 春の海 こぼれ散る紅椿 流れにひきこんで 何を急ぐか---爪の色変えたのも 心が晴れたから 一人の旅でも 泣かない---

（収録プロフィール）

川中 美幸（かわなか みゆき、1955-）は、大阪府吹田市出身の演歌歌手である。1973年「春日はるみ」の芸名でデビュー、1977年「川中美幸」の芸名でデビュー。

「あなたに命がけ」でデビューを果たした昭和52年から、顔がまったく変わらない川中美幸。昭和55年の「ふたり酒」がミリオン・セラーに。その後も「豊後水道」「二輪草」など大ヒットを飛ばし、日本演歌界を代表する女性歌手のひとりとなった。

しかし、平成12年、ディレクターである夫が麻薬不法所持。だが、我々はこの事件で皮肉にも、彼女の逞しさと慎ましさに共感することとなった。

*川中が得意とする「幸せ演歌」で、暗いイメージの多い演歌の中にあって、ほのぼのとしみじみと暖かさが伝わってくる歌。

*日本の夏の風物詩である「灯籠流し」をテーマにした抒情歌。再び会うことのかなわない愛する人を思い続ける内容で、ギターの繊細な音色とトレモロの響きが、その切ない気持ちを巧みに表現している。

*それぞれの土地の情景が目浮かぶのは、彼女の「唄い分け」の巧さ以外のなにものでもない。情感をタプタプり込めながらも、どこかに希望を感じさせるところに歌唱力の確かさを感じる。

エピソード

2007年3月末に、世界で唯一レーザーディスクの製造を続けていたメモリーテックが製造を停止したが、川中美幸の「金沢の雨」が最後の作品となった。最後にプレスされた盤は記念プレートにされ、テイチク社長を介して川中美幸本人に贈られた。

2006年12月31日放送の第57回NHK紅白歌合戦にて、和田アキ子とともにメイド姿のコスプレを披露した。

主なヒット曲

ふたり酒（ミリオンセラー）

遣らずの雨

炎情歌

越前岬

二輪草（ミリオンセラー）

大河の流れ

貴船の宿

おんなの一生～汗の花～

うすゆき草

歌ひとすじ

金沢の雨（2007年発表、宮本隆治とデュエットしたバージョンもある）

出張物語（2000年発表、吉幾三とデュエット）

この曲は、シングル・リストに出てはいるが、私は見かけたことがない。アルバム収録だけ？かも。たしか1972年ごろの、大谷直子主演の昼メロ「あの橋の畔で」の主題歌で、半年くらい、テレビでオンエアされた。名作の現代版を目指したらしいが、あまり話題になる事も無く終わってしまった。それと共に、この曲もフェードアウトしていった。けれど、それでは勿体無い、リズムカルで、ほのかな哀愁と、ほのかな希望が、胸に快い名曲である。タイトルを変えてでも、ぜひリメイクして欲しい。服部浩子、門倉有希、伊東ゆかり、三山ひろし、などに、ぴったりの曲である。

幸せもあの人も 一夜のゆめかしら 涙に濡れたままで ひとり街へ---寂しげにひとは探す 永久につきない真実を あの人をいないこの街 明日は旅に出るわ

(収集プロフィール)

渚 ゆう子 (なぎさ ゆうこ、1945-) は、歌手。大阪市浪速区出身。ハワイアン歌手としてレコードデビューの後、ベンチャーズ作曲・演奏の「京都の恋」を日本語の歌詞で唄って大ブレイクし、一躍人気歌手となった。幼い頃より沖縄民謡を歌い、高校卒業とともに"九葉真鶴"の芸名で琉球舞踊の踊り手に。しかし和田弘(マヒナスターズ)に見い出され上京、芸名を"渚ゆう子"と変えハワイアン歌手として活動後、67年「早くキスして」でデビュー。ブレイクのきっかけは、ベンチャーズ・ナンバーである「京都の恋」と「京都慕情」(どちらもインストだった)に歌詞を付けてレコード化するという企画で、その歌い手として抜擢されたことによる。しっとりとした大人の女の魅力ムンムの歌唱により、どちらの曲も大ヒットを記録。71年には「さいはての慕情」で紅白歌合戦にも出場し、名実ともに頂点を極める。

81年に芸能界を引退し、家業であるお好み焼き屋を継いだが、95年には「北ホテル」で復帰。現在では老父の介護の合間に無料のカラオケ教室も開いたりして、悠悠自適ライフを送っている。

経歴

母親が沖縄、父親が大阪出身。幼少より両親の熱心な教育を受け、沖縄民謡と琉球舞踊を習熟する。「補正なしでは両耳がほとんど聞こえない」(興行先のスピーチにて)ハンディを持つ。

1964年 芸能界入り。

1965年 マヒナスターズの前唄で出演。そのとき、和田弘のすすめがあり上京。作曲家浜口庫之助に師事。ハワイアンを覚える。

1966年 「渚ゆう子」に改名。(名付け親はマヒナスターズの松平直樹)

1970年 ベンチャーズの「京都の恋」「京都慕情」を日本語の歌詞で唄って大ヒット。

1971年 筒美京平作曲の「さいはて慕情」でレコード大賞歌唱賞を受賞。NHK紅白歌合戦に初出場。

1972年 「風の日バラード」でNHK紅白歌合戦に二回目の出場。

1981年 (歌手としての第一線から一時引退)

1993年 「北ホテル」をリリース

1997年 「京都ひとり」をリリース

2008年 現在も東京を中心にステージ活動をこなす。

シングル

早くキスして (1967.06)

女の指輪 (1967)

思い出はチラチラ (1968)

二人の大阪 (1969)

とげのないバラ (1970)

京都の恋 (1970)

京都慕情 (1970)

さいはて慕情 (1971)

雨の日のブルース (1971)

長崎慕情 (1971)

めぐり逢い (1972)

今日からひとり (1972)

風の日バラード (1972)

何処へ (1972)

東京に三日、田舎に四日 (1973)

京おんな (1973)

かえり道 (1974)

北からの手紙 (1975)

居酒屋「すずらん」 (1976)

石を投げれば心に当る (1976)

大阪慕情 (1977)

おんなの語り唄 (1979.05)

愛をもとめて (1980.09)

しのび逢う京都 (1981)

北ホテル (1993)

京都ひとり (1997)

1970年、発売。「京都の恋」と共に、代表作。ベンチャーズの軽やかなメロディーに乗って、切ないかつての恋物語が、京都の名所を舞台に回想される。ほのかな哀愁と、ヒロインの、儚げで控えめなスタンスも快い。

あの人の姿 なつかしい 黄昏の---遠い日は 二度と帰らない---

(ウィキペディアより)

渚 ゆう子(1945-)は、日本の歌手。大阪市浪速区出身。ハワイアン歌手としてレコードデビューの後、ベンチャーズ作曲・演奏の「京都の恋」を日本語の歌詞で唄って大ブレイクし、一躍人気歌手となった。

45年、大阪府に生まれる。両親が沖縄出身のため、幼い頃より沖縄民謡を歌い、高校卒業とともに"九葉真鶴"の芸名で琉球舞踊の踊り手に。しかし和田弘(マヒナスターズ)に見い出され上京、名前を"渚ゆう子"と変えハワイアン歌手として活動した後、67年「早くキスして」でデビューを果たす。ブレイクのきっかけは、ベンチャーズ・ナンバーである「京都の恋」と「京都慕情」(どちらもインストだった)に歌詞を付けてレコード化するという企画で、その歌い手として抜擢されたことによる。しっとりとした大人の女の魅力ムンムンの歌唱により、どちらの曲も大ヒットを記録。71年には「さいはての慕情」で紅白歌合戦にも出場し、名実ともに頂点を極めることになる。

81年に芸能界を引退し、家業であるお好み焼き屋を継いだ。95年には「北ホテル」で復帰。現在では老父の介護の合間に、無料のカラオケ教室も開いたりして、悠悠自適ライフを送っている。

経歴

両親が沖縄生まれであり、小さい頃から沖縄民謡と琉球舞踊を習い覚えた。

1964 芸能界入り。

1965 マヒナスターズの前唄で出演。そのとき、和田弘のすすめがあり上京。作曲家浜口庫之助に師事。ハワイアンを覚える。

1966 「渚ゆう子」に改名。(名付け親は、マヒナの松平直樹)

1967 ハワイアン歌謡「早くキスして」でレコードデビュー。

1970 ベンチャーズの「京都の恋」「京都慕情」を日本語の歌詞で唄って大ヒット。

1971 筒美京平作曲の「さいはて慕情」でレコード大賞歌唱賞。NHK紅白歌合戦に初出場。

1972 「風の日バラード」でNHK紅白歌合戦に二回目の出場。

1981 (第一線から一時引退)

1993 北ホテル

1997 京都ひとり

近況

*各地のディナーショーなどに出演。老人ホームの

テレビ等でよく見かけるようになった、1970年ころ、私は、綺麗だけど、とても派手な、活発な感じの人だなと思った。情熱的な、スペインのフラメンコ・ダンサーのような。これは、あくまで外見で、略歴を見ると、辺見は、意外にナーバスで悩みがちな人だったらしい。辺見はなんと、挿み屋に、4億円も奉納してしまったという。

この曲は、その当時としては、目新しい感じのする唄で、セクシーな雰囲気には捕らわれるような。特異なメロディーも、オーバーアクションな振り付けも。かなりの、大ヒットだったと思う。

やめて 愛してないなら やめて 口づけするのは やめて---あなたは 悪い人ね---

(収集プロフィール)

辺見 マリ (へんみ マリ、1950-) は、歌手・タレント・女優。

神奈川県逗子市生まれ、京都府育ち。ミュージシャンの辺見鑑孝 (へんみのりたか) は長男。タレント・女優の辺見えみりは長女。平安女学院高校卒業。

経歴

スペイン系アメリカ人を父にもつ辺見マリ。グラマラスなボディと、見えそで見えない大胆な衣装、突き刺すような鋭い視線、セクシーなヴォイスに女の全てをさらけだした官能的な詞世界……。 「めまい」や「私生活」、「ダニエル・モナムール」「京都の恋」など幾多のヒット放ったが、とくに忘れてはならぬのが「経験」だ。名セリフ「やめてっ!」は、世の男性のリビドーを最高に刺激した。

その後、音楽活動のかたわらに女優としての道を歩みだしアルバム制作にblankを空けるが、98年には17年ぶりのアルバム『Good-Bye あばよ』をリリース。ジャケット写真は、娘である辺見えみりが担当し話題となった。

1969年に『ダニエル・モナムール』でデビュー。翌1970年、20才の時に発売した『経験』で、「やめてへー」(実際の歌詞は「やめてへー」ではない)と溜息混じりの歌い方が話題になり、大ヒット。以降『私生活』『めまい』等をリリース、セクシー歌謡の歌手として認知される。ところが、人気絶頂時の1972年に同じく人気歌手の西郷輝彦と結婚し、あっさりと引退。二児を出産するが、1981年に離婚して芸能界に復帰した。その後、金銭トラブルによる騒動や熟女ヌード写真集の発売などでワイドショーの話題になる。尚、この時の金銭トラブルは「挿み屋」が原因だったことを『Dのゲキジョー～運命のジャッジ～』(フジテレビ系)出演時に告白している。

1998年に発売したCDアルバム『Good-Bye あばよ』で、娘の辺見えみりがジャケット写真の撮影を担当したことが話題になる。

2001年に年下の宝石デザイナーと再婚するが、2005年に離婚した。現在は歌手やテレビタレント以外にもミュージカル等の舞台でも活躍中。

中ヒットした「長崎の夜はむらさき」。当時「ロッセ歌のアルバム」などで、派手めな感じの瀬川を、ときどき見かけた。が、4、5年すると、ほとんど見かけなくなった。この代表曲で、彼女は長い間、全国を営業していたのだ。いわゆる、ドサ回り。17年後、この曲が大ヒットするまで。この曲は、その表現といい、心情の搾り出し方といい、こってりのド演歌で、私はあまり気が乗らないが、名曲であるのは間違いない。

生まれる前から 結ばれていた そんな気がする 紅の糸---なんにもいらない あなたがいれば
笑顔ひとつで 生きられる---

(収集プロフィール)

瀬川 瑛子 (せがわ えいこ、1948-) は歌手・女優。東京都渋谷区出身。歌手・瀬川伸の次女。
来歴・人物

1967年デビュー。歌手活動の他に、その柔和な人柄から歌番組以外のバラエティ番組にも多数出演している。山田邦子、清水ミチコ、コロケ、栗田貫一らにものまねをされている。初めてものまねされた時、父の瀬川伸から「ものまねされて、初めて一流の歌手だと認められたこと」と教わった為、自分がものまねされる事を非常に喜んでいた。

ヨークシャテリアを4匹も連れて歩くような、マダム風情の派手な外見とは裏腹に、酸いも甘いも舐めてきた苦労人だ。

歌手である父、瀬川伸に幼い頃より英才教育を受け、67年に18歳でデビュー。3年目に「長崎の夜はむらさき」がヒットするものの、鳴かず飛ばずの時代は長く続いた。その間、流した涙は星の数ほど、歌手を辞めようと思った夜もあったかと思う。そんな彼女の地道な活動が結実したのが「命くれない」(87年)の大ヒットではなかろうか。女の男に対する痛々しいまでの情念を歌った曲だが、ここに出てくる“あなた”とは、瀬川にとって“歌”のことではないかと深読みしたくなるほど感情がほとばしっている。以降、トップ・スターとして君臨し続けている彼女は、ある意味ジャパニーズ・ドリームの体現者。

主な曲

涙の影法師 (1967年)

デビュー曲

長崎の夜はむらさき (1970年)

矢切りの渡し (1983年)

命くれない (1986年)

1987年度オリコンシングルチャート年間1位、同年のTBSザ・ベストテン年間ベストテン第2位。売上100万枚を超える大ヒット。

憂き世川 (1988年)

人生晴れたり曇ったり (1990年)

人生つづら坂 (1992年)

笑いじわ (1995年)

あなたが命（2000年）

連理の枝（2001年）

中ヒット程度だったが、じわじわと重荷を増して来る、曲である。人物の位置関係が、やや把握しにくいようだが。酒場の主人が女性で、客として来ているのが、男性（私という主人の、昔の男であるらしい）である。つまり、かつて別れた女を訪ねて、男が酒場に来ているのだ。お互いに心を残しながらも、訳あって別れて、それぞれの人生を暮らしている二人。男は縊りを戻したいようだが、女は理由をつけて、それとなく「無理」と言っている。人間の歴史が始まって以来、このようなシチュエーションに立ち至った男女は、何千万組と、いたであろうか。男は、ふと海に面した窓を開けてみる。すると、ただ茫漠とした重い北の海が、果てしなく広がっている。曲のなかで、全体のメイン・フレーズである（窓をあけたら海 北の海 海 海）の部分は、3回繰り替えされる。つまり果てしなく広がる海以外、何も無い光景。男が見つめる、その冷たく青い海や、波立つ白波の先の先。そこに、どんなときでも安らぎや、ほのかな希望を与えてくれる、日本的心情の敷衍する場所があるのだ。

（詞・阿久悠 曲・中村泰士 1980）

黒地に白く染め抜いた つばさをひろげた鷗の絵 とんで行きたい行かれない 私のころと笑うひと-----

（収集プロフィール）

石川 さゆり（いしかわ さゆり、1958～ ）は、熊本県飽託郡飽田村（現・熊本市）出身の歌手。堀越高等学校卒業。

昭和48年のデビュー以来、四季折々の風景のなか、旅情感に満ちた名所旧跡を舞台に繰り広げられる「オトコとオンナの恋模様」をヴィブラートの効いた抜群の艶ヴォイスで表現。ここで展開される日本的なマゾヒズムに基づいた男女関係(自由奔放な男とじっと耐える女)は、すべての老若男女に猛烈なカタルシスを呼びおこしたのであった。「能登半島」「天城越え」「夫婦善哉」など、多くの国民的愛唱歌を有し、その実力は、現在までの輝かしい実績が証明している。

*「さゆり III」色っぽいのである。むろん容姿もそうなのだが、何より声そのものに男心を蕩けさせるような魅力がある。決して妖艶ではないが、清楚さと芯の強さを兼ね備えた歌声は、細やかな情感を切々と歌い上げるのにめたシングル。三木たかしの遺志を受け継いださだまさしが、「生命(いのち)」をテーマに詞を制作した感動作。

*「さゆり IV」シングル曲「惚れたが悪いか」をはじめとして、日本の女性の「情」をさまざまな角度から表現している。おなじみの吉岡治、弦哲也(「天城越え」のコンビ)作品や、小椋佳、堀内孝雄など、新たな作家陣による力作。

来歴

小学2年の時、島倉千代子のコンサートに接し感動、次第に歌手を志すようになる。小学5年時に一家で横浜市神奈川区に転居、のち歌のレッスンを受け始める。

横浜市立城郷中学3年の夏休みに、フジテレビのオーディション番組に（応募したものの参加できなくなった友人に替わって）参加し合格。同年秋にはフジの別の番組にレギュラー出演したという（2009年3月放送「ぴったんこカン・カン」より）。

1973年3月25日、「かくれんぼ」でアイドル歌手として日本コロムビアよりデビュー。キャッチフレーズは“コロムビア・プリンセス”だった。しかしデビューから暫くは花の中三トリオなどの影に隠れて、大きな人気を得るには至らなかった。

それから4年後の1977年に「津軽海峡・冬景色」が大ヒットとなり、第19回日本レコード大賞歌唱賞など

、数々の音楽賞を受賞した。また同1977年発売の「能登半島」「暖流」もヒット、1980年代に入ってから「波止場しぐれ」「滝の白糸」など順調にヒット曲を世に送り出し、日本を代表する女性演歌歌手の一人となった。2008年までNHK『紅白歌合戦』に通算31回出場している。

1981年、元マネージャーの馬場憲治と結婚。1984年2月に長女を出産、1989年2月に離婚。石川は「私は平成に入って最初に離婚した芸能人」と明るく語っている。

主な曲

かくれんぼ（デビュー曲、1973年）

あなたの私（1975）

津軽海峡・冬景色（1977）

能登半島（1977）

暖流（1977）

沈丁花（1978）

火の国へ（1978）

鷗という名の酒場（1980）

東京めぐり愛（琴風豪規とのデュエット、1984）

波止場しぐれ（1985年）

天城越え（1986年）

夫婦善哉（1987年）

滝の白糸（1988年）

風の盆恋歌（1989）

うたかた（1990）

ウイスキーが、お好きでしょ（1991年）

越前竹舞い（1991）

港唄（1991）

ホテル港や（1992）

飢餓海峡（1994）

転がる石（2002）

一葉恋歌（2004）

狭霧の宿（2007） - 通算100枚目

美しい土佐の風光を背景に、想い人を訪ねた女が、相手の熱のなさを悟って、海辺の街を、あてもなく観光するといったストーリー。私も、身近で、熱のない相手に、何とか気付いて欲しいと頑張っていた人を、何人かみているが、コミカルでありながら、実に痛々しく気の毒であった。こればかりは、いくら頑張っても、意味のないことであるし。

でも、片思いでも、私は、恋はどんどんするべきだと思う。年を取ってくると、買ったものは、高価なものでも、じょじょに忘れてくるし。結局、人間にとって、情念のストーリーのみが、最高のプライオリティ（墓場まで、持ち込めるから）ということが、次第に判ってくるから、というよりも、身に押し掛かってくるのだから。

私これで帰りますと席を立った 急にたずね---季節はずれ 風が騒ぐ海べりを 私ひとり乗せただけのバスが行く これで心が---

(収集プロフィール)

石川 さゆり (いしかわ さゆり、1958-) は、熊本県飽託郡飽田村 (現・熊本市) 出身の歌手。堀越高校卒業。

来歴

1973年3月、「かくれんぼ」でアイドル歌手としてコロムビアよりデビュー。花の中三トリオなどの影に隠れて人気を得るには至らなかった。1977年に『津軽海峡・冬景色』『能登半島』が大ヒットし、日本を代表する演歌歌手の一人となった。2007年までにNHK『紅白歌合戦』に30回出場している。昭和48年(73年)のデビュー以来、四季折々の風景のなか、旅情感に満ちた名所旧跡を舞台に繰り広げられる「オトコとオンナの恋模様」をヴィブラートの効いた抜群の艶ヴォイスで表現。そして、ここで展開される日本的なマゾヒズムに基づいた男女関係(自由奔放な男とじっと耐える女)は、すべての老若男女に猛烈なカタルシスと呼びおこしたのであった。「津軽海峡冬景色」「天城越え」「夫婦善哉」など、数多くの国民愛唱歌がある。

1981年、元マネージャーの馬場憲治と結婚。1984年2月に長女を出産するが、1989年2月に離婚。石川は「私が平成に入って一番最初に離婚した芸能人」と明るく語っている。

NHK紅白歌合戦出場歴

石川は、1977年・第28回紅白にて「津軽海峡・冬景色」の大ヒットを背景にデビュー4年目にして初出場。1983年に産休に入ったため、同年第34回の紅白は出場辞退（但し特別ゲストとして出演した）。翌1984年より再び復帰し、2007年・第58回まで24回連続出場。通算出場回数は30回で、紅組歌手の中では島倉千代子・和田アキ子に次ぎ3位。白組の五木ひろしと同じく、1985年以降は実力派がひしめく最終コーナーの常連で、トリも5回取っている。

代表作

津軽海峡・冬景色 (日本レコード大賞歌唱賞受賞、1977年)

能登半島(1977年)

暖流 (詞：阿久悠 曲：三木たかし)

火の国へ(1978年)

傷だらけの恋(映画「トラック野郎挿入歌、1979年)

鷗という名の酒場(1980年)

東京めぐり愛(大相撲力士の琴風豪規とのデュエット、1984年)

波止場しぐれ (日本レコード大賞最優秀歌唱賞受賞、1985年)

天城越え (日本レコード大賞金賞受賞、1986年)

夫婦善哉 (日本レコード大賞金賞受賞、1987年)

滝の白糸(1988年)

風の盆恋歌 (日本レコード大賞最優秀歌唱賞受賞、日本作詞大賞大賞受賞1989年)

うたかた (日本作詞大賞大賞受賞、1990年)

ウイスキーが、お好きでしょ(1991年)(SAYURI名義、例外的に演歌でない。2006年にCarolyn Leonhartがカバーした)

越前竹舞い(1991年)

港唄(1991年)

ホテル港や(1992年)

転がる石(2002年)

一葉恋歌(2004年)

1979年、発売。去っていく男への、恋歌といった内容であろうか。曲調は、とくに激しくはないが、情念はかなり激しく、また美しく妖しい。

この唄の中の、男女が、ふつうの恋なのか、不倫（多分、そう）なのかはよく判らないが、ともあれ男は別れを決断して、去っていこうとしている。はかなく溶ける、春の雪に喩えて、終わっていく恋が、日本的な妖しく哀しい情緒たっぷりに描かれている。この唄の女性は、美人なのであろうが、たとえそうでなくても、この衝撃を乗り越えたあと、新しい素敵な恋をしてほしい、と思う。

愛してなくて よかったと 叩く背中の一寝返りうてばはらはらと雪が舞う 夜に人恋う花になる---雪があなたのあと追いかける

(収集プロフィール)

石川さゆり（いしかわ さゆり、1958年1月-）は、熊本県熊本市出身の歌手。堀越高校卒業。

1973年3月、「かくれんぼ」でアイドル歌手としてデビュー。花の中三トリオなどの影に隠れて、人気を得るには至らなかった。1977年に『津軽海峡・冬景色』『能登半島』が大ヒットし、日本を代表する演歌歌手の一人となった。2006年までにNHK『紅白歌合戦』に29回出場している。

NHK紅白歌合戦出場歴

石川は、1977年・第28回紅白にて「津軽海峡・冬景色」の大ヒットを背景にデビュー4年目にして初出場。1983年に産休に入ったため、同年第34回の紅白は出場辞退（但し特別ゲストとして出演した）。翌1984年より再び復帰し、2006年・第57回まで23回連続出場。通算出場回数は29回で、紅組歌手の中では島倉千代子・和田アキ子に次ぎ、都はるみと並んで3位。1985年以降は実力派がひしめく最終コーナーの常連でトリも4回取っている。

主な曲

津軽海峡・冬景色（日本レコード大賞歌唱賞受賞、1977年）

能登半島(1977年)

火の国へ(1978年)

鷗という名の酒場(1980年)

東京めぐり愛(大相撲力士の琴風豪規とのデュエット、1984年)

波止場しぐれ（日本レコード大賞最優秀歌唱賞受賞、1985年）

天城越え（日本レコード大賞金賞受賞、1986年）

夫婦善哉（日本レコード大賞金賞受賞、1987年）

風の盆恋歌（日本レコード大賞最優秀歌唱賞受賞、1989年）

下記の全シングル・リストにないが、ユーチューブにはジャケットが載っている。アルバムの中の、曲であろうか。マニアのなかでは、初期の大作として知られている曲である。黄昏のようなトランペットのプロローグから、さすらいの旅の哀感を感じさせる詞とメロディーは、後の代表曲「旅の終りに」に繋がる、テイストと深さを感じさせる。この系の流れは、「炎」「バイキング」とはまた違う、冠の素晴らしい持ち味である。

流れる雲よ伝えておくれ 思いを寄せるあの人に 旅路の夜のさみしさを 旅路の夜の空しさを---潮騒遠く海辺の宿で 眼をとじそっと夢追えば 帰らぬ恋が懐かしく 帰らぬ恋に泣かされる 孤独な俺に夕陽が落ちる どこかに---

(収集プロフィール)

冠 二郎 (かんむりじろう、1949～) は演歌歌手である。埼玉県出身。埼玉県立秩父高校卒業。「炎」のヒットにより「ネオ演歌」「アクション演歌」の旗手と目された。

*J-ENKERこと、冠二郎。不器用だが情熱のこもった歌唱、派手めのステージ・アクション、ショーマンシップあふれる礼儀正しい立ち振る舞い、に代表されるIt's Only 演歌、But I Like It、なパーソナリティは、全国の演歌ファンの心を大いに打つ。

*親しみやすい雰囲気、男気系の歌に与えてる丸みが、きつとこの人の魅力。良くも悪くもギトギトした部分がない。

*男のさすらいを歌わせたなら彼の右に出る人はいない。叙情的なメロディに乗せたその歌からは、人生そのものをさすらっているような男の姿が浮かぶ。他人の曲だが「北へ帰ろう」「みちのくひとり旅」とかも似合う。

*驚愕だ。演歌界の“異端児”だけにそのシャウトぶり、ビビッドさには納得。リミックスは、コモエスタ八重樫が担当しシュールで熱い。

*義理人情の浪花節演歌で、この辺のわざとらしさが冠の強みで、最大の売り。それでいて“マイク二刀流”“バイキング”と斬新さでも事欠かないぶっちゃけぶり。

*男の純情一途さと意気かりを、真正面から歌い上げている冠。夫婦物の傑作「こころ花」をはじめ、ノロケに近いような台詞まで冠が歌うと、真面目で妙な説得力が漂う。

*酒と酒場や男のまごころをテーマにした楽曲集。冠の素軽いテンポと小粋で艶っぽい歌唱が心地よい。タイトル曲の「大文字」は、京の風物詩に託した男の思いがしみじみと伝わり、「無法松の一生」では男気あふれる歌声が豪快に響く。

*シャープでドラマチックに盛り上がるストリングスや軽快な祭囃子にのって、男気にあふれる歌唱がたっぷり楽しめる全曲集。

来歴

作詞家の三浦康熙に弟子入り後1967年「命ひとつ」でデビュー。しかし10年間はヒットに恵まれず、1977年ようやく「旅の終りに」が中ヒットしたものの、これという代表曲もなく、「地味な歌手」というイメージを持たれ、苦節の時期を過ごす。もう一人の師匠・作曲家和田香苗による「炎」のリリースにより、「アイ、アイ、アイライク演歌」の一節が、脚光を浴び「演歌」

のイメージを変え、若者の支持も受けるようになる。また、冠自身のユニークなキャラクターも愛され、好評を博す。畳みかけるように「ムサシ」「バイキング」と新機軸の「ネオ演歌」を次々とリリース。さらなる活躍が期待された。

彼のイメージを変えたネオ演歌シリーズも、和田香苗の死去により頓挫。以降は再び「ど演歌」路線に回帰。実在の居酒屋チェーンとタイアップした「酔虎伝」シリーズや、「望楼の果て」「燎原の狼」といった伝記ものから、演歌歌手としては異例の特撮の燃えろロボコンのエンディング『歌は世界を救う!!』までユニークな作品もリリース。

シングル

- 1967.11 命ひとつ 作詞：四条宏美／作曲：石中仁人
- 1968.4 海へ帰ろう 詞：森本涼史／曲：ひろせあきら
- 1968 命の女 詞：方城由美子／曲：吉田 正
- 1969 出世太鼓 詞：方城由美子／曲：吉田 正
- 1969 命惚れ 詞：方城由美子／曲：北原じゅん
- 1970 釧路発霧の第三便 詞/曲 方城由美子
- 1970 裏街流転歌 詞：方城由美子／曲：みなみらんぼう
- 1971 大演歌 詞：四条宏美／曲：猪俣公章
- 1972 雨の盛り場 詞：四条宏美／曲：河村利夫
- 1973 淋しい女の唄 詞：山口洋子／曲：一ノ木優
- 1973 哀愁東京 詞：宮川としを／曲：宮川としを
- 1974 玄海別れ唄 詞：瀧竜二／曲：千葉 毅
- 1975 忘却の旅 詞：宮川としお／曲：宮川としお
- 1976 港恋灯り 詞：三浦康熙／曲：川口真
- 1976 霧ふる町 詞：三浦康熙／曲：川口真
- 1977 泣いてもいいよ 詞：三浦康熙／曲：遠藤実
- 1977 旅の終りに 詞：立原岬／曲：菊地俊輔
- 1978 亜樹子 詞：三浦康熙／曲：三原一乃
- 1978 望郷物語 詞：五木寛之／曲：立原岬
- 1979 夫婦春秋 詞：関沢新一 曲：市川昭介
- 1979 ひとり北国 詞：鳥井実 曲：朴 椿石
- 1980 流浪歌 詞：吉田旺 曲：徳久広司
- 1981 あなたの恋灯り 詞：三浦康熙 曲：岩本健介
- 1981 あなたは男でしょう 詞：野崎秀孝 曲：稲沢祐介
- 1982 度胸船 詞：三浦康熙 曲：船村 徹
- 1983 みれん酒 詞：三浦康熙 曲：市川昭介
- 1984 さだめ舟 詞：三浦康熙 曲：市川昭介
- 1985 男の子守唄 作詞：三浦康熙／作曲：市川昭介
- 1985 親孝行音頭 作詞：笹川良一／作曲：中山大三郎

- 1986 演歌人生 詞：鳥井実 曲：花笠薫
- 1986 餞(はなむけ) 詞：三浦康照／曲：深谷昭
- 1987 北海あばれ節 詞：三浦康照／曲：市川昭介
- 1988 ねぶた男肌 詞：三浦康照／曲：市川昭介
- 1989 しのび酒 詞：三浦康照／曲：叶弦大
- 1990 のぼり竜 詞：辻本茂／曲：和田香苗
- 1991 酒場 詞：三浦康照／曲：叶弦大 *第42回紅白歌合戦歌唱曲
- 1992 むくもり 作詞：三浦康照／曲：叶弦大
- 1992 炎 詞：三浦康照／曲：和田香苗
- 1993 ムサシ 詞：三浦康照／曲：和田香苗
- 1993 人情酒場 作詞：三浦康照／作曲：叶弦大
- 1994 天命 作詞：三浦康照／作曲：山口ひろし
- 1995 まごころ 作詞：三浦康照／作曲：叶弦大
- 1995 波濤万里 作詞：三浦康照／作曲：山口ひろし
- 1995 思い出川 作詞：三浦康照／作曲：叶弦大
- 1996 望楼の果て 作詞：三浦康照／作曲：叶弦大
- 1997 大文字 作詞：三浦康照／作曲：叶弦大
- 1997 こころ花 作詞：三浦康照／作曲：叶弦大
- 1998 バイキング 詞：三浦康照 曲：和田香苗
- 1998 男の錦 詞：三浦康照 曲：和田香苗
- 1998 冠Revolution(マキシ)
- 1999 愛しき人よ 詞：ふくしまとまる, 三浦康照(補作詞)／曲：ふくしまとまる
- 1999 太陽に叫ぼう 作詞：三浦康照／作曲：和田香苗
- 2000 ふたりの止まり木 作詞：三浦康照／作曲：叶弦大
- 2000 兄貴 詞：三浦康照 曲：遠藤実
- 2003 満天の星 詞：三浦康照 曲：遠藤実
- 2003 面影の女 詞：三浦康照 曲：遠藤実
- 2004 流転酒 詞：三浦康照 曲：叶弦大
- 2004 これでいいんだよ 詞：三浦康照 曲：水森英夫
- 2005 ほろよい酔虎伝 詞：三浦康照 曲：水森英夫
- 2006 横浜物語 詞：三浦康照 曲：叶弦大
- 2006 ブラボー酔虎伝 詞：三浦康照 曲：水森英夫
- 2007 花も実もある人生航路 詞：三浦康照／作曲：遠藤実
- 2007 燎原の狼～若き日のジンギスカン 詞：三浦康照 曲：小野彩
- 2008 俺のふる里 詞：三浦康照 曲：叶弦大
- 2008 浪花酔虎伝 詞：三浦康照 曲：水森英夫
- 2009 流水岬 詞：三浦康照 曲：小野彩

2009 居酒屋 かもめ 流れ酒 作詞：三浦康照

この唄は、1976年に、中ヒットした唄である。出て行ってしまった男を、アパートの同じ部屋で待ちつづける、というこの曲のヒロイン。21世紀の現在では、おそらくは有り得ないのでは？取り立てた教養も才能もない、ごく平凡な、性格のいい日本のおんな。近くの、事務所や商店に勤めて、そのわづかな収入で、健気につつましく暮らしている、というような。冷静に考えると、その情念に怖さを感じるけど、このヒロインはあくまでも静謐な佇まいである。ちょうど、都はるみの「大阪しぐれ」の中のヒロインと同じように。ささやかに生計を立てながら、思い出を温め、回想に生きる。中ヒットした当時でも、実際には、あまりいなかったのだろうが。けれど、待ちつづける、という愛も、また密やかで美しい生き方だ。強い精神力が要りそうだけど。私がかつて住んでいた、神奈川県の下町では、こういう状況に近い女の人の噂を、ときどき聞いた。「放送局」というあだ名のオバサンが、町内に2人いたので。現在でも、この状況に類似した女性は、何万人といるのだろうか？かつてのウーマンリブの女史たちは、この唄のような女性像は、男の作ったフィクションで、現実にはこんなしおらしい女性は、実在しないと説く。外見はそう見えても、裏側は強かなのであると。私は、このような、日本の心情のあり方が、好きなのだが。

(詞・池田充男 曲・浜圭介)

鉢植えの水仙を買ったのはお風呂がえりの ゆうぐれ時です---花売りのリヤカーが 露地うらに
春を今年もはこんで来ました このアパートを出る気はしません---

(収集プロフィール)

八代 亜紀(やしろ あき、1950-)は日本の歌手、画家。熊本県八代市出身。芸名は出身地の八代(やつしろ)市から。

トラック運転手や漁師、スナックのママといったコア演歌ファンを中心に圧倒的な支持を誇る超大物歌手。火の国こと熊本県出身。

73年の「なみだ恋」が大ヒットを記録し、一躍人気歌手へ。その後は「しのび恋」(74年)、「舟唄」(79年)、「雨の慕情」(80年)など、国民的名曲を多く世に残した。彼女の歌の魅力は、楽曲自体の秀逸さもさることながら、あの絶妙なサジ加減で震えるハスキー・ヴォイス。人生の世知辛さ、愛のはかなさに主眼を置いた詞と相まって、何ともオツのあるグルーブを生み出すのだ。それはセンチメンタル民族・日本人のツボにぴったりとハマった。

また、特技は絵描きで、趣味は乗馬。住みたい国は芸術の都パリという、歌の世界とはまったく対照をなすスタイリッシュなパーソナリティーも興味深い。

人物、略歴

幼少の頃から父親の歌う浪曲を子守唄代わりに聴きながら育つ。そうした影響もあり、八代は歌好きの子供になり、地元のコンクールなどにも出場していた。

その後、八代が小学5年生のとき、たまたま父親が買ってきたジュリー・ロンドンのレコードを聴き、そのハスキーボイスに魅せられる。もともと自身もハスキーボイスの持ち主だった八代は、その声に若干のコンプレックスがあったようだが、ジュリーの声質に勇気づけられ、クラブ歌

手になることを意識するようになる。

中学卒業後、地元熊本のバス会社九州産業交通（現九州産業交通ホールディングス）のバスガイドとして勤務した後、15歳で父親の反対を押し切り上京。銀座のクラブ歌手となり、スタンダードやポップスなどを歌った。

1971年、テイチクより「愛は死んでも」でデビュー。オーディション番組YTV『全日本歌謡選手権』に出場、10週連続勝ち抜きでグランドチャンピオンに輝く。1973年の「なみだ恋」が120万枚（売上枚数は新井恵美子『女たちの歌』より）の大ヒット。その後も「しのび恋」「愛ひとすじ」「おんな港町」「愛の終着駅」など女心を歌った歌で次々とヒット曲を連発。また、1979年には新境地を開拓した初の男歌「舟唄」を発表し大ヒット、翌1980年に発表した「雨の慕情」でレコード大賞を受賞。これら2曲は「港町絶唱」と共に、阿久悠と浜圭介そして竜崎孝路のコンビによる哀憐三部作と呼ばれた。演歌歌手にしては稀な連続ヒットと国民的ヒット曲により、女性演歌歌手として不動の地位を築く。1982年、センチュリーレコードに移籍し「海猫」「日本海」などを発表。そして1986年、日本コロムビアに移籍し、現在に至る。

多方面での活躍

歌手活動だけにとどまらず、画家としてもフランスの「ル・サロン」展に5年連続入選、日本の芸能人として初の正会員になるなど活躍している。

BOSSコーヒーマーケティングのCMでトミー・リー・ジョーンズが歌い話題になった。また、八代本人も2001年に発売したアルバム『MOOD』では同曲をラップ調にアレンジして歌っている。

受賞歴

第15回日本レコード大賞 歌唱賞受賞「なみだ恋」

第18回日本レコード大賞 最優秀歌唱賞受賞「もう一度逢いたい」

第21回日本レコード大賞 金賞受賞「舟唄」

第22回日本レコード大賞 大賞受賞「雨の慕情」

シングル

愛は死んでも 1971.9 テイチクよりデビュー

別れてあなたを 1972.1

恋街ブルース 1972.10

なみだ恋 1973.2

おんなの涙 1973

女ごころ 1973

しのび恋 1974

愛ひとすじ 1974

愛の執念 1974

おんなの夢 1975

ともしび 1975

貴方につくします 1975

愛していません 1975

花水仙 1976
ふたりづれ 1976
夢魔のブルース 1976
もう一度逢いたい 1976
あい逢い横丁 1976
おんな港町 1977
恋歌 1977
愛されてみたい 1977
愛の終着駅 1977
愛の条件 1978
哀歌（エレジー） 1978
故郷へ…… 1978
涙の朝 1979
舟唄 1979
女だから 1979
雨の慕情 1980
港町絶唱 1980
女の街角 1981
あなたに逢いたい 1981
女心は港の灯 1981
うしろ影 1981
あなたと生きる 1982
海猫 1982
いい顔になったね 1982
うれし泣き 1982
なみだ川 1983.1.21 45位
ブルーレイン大阪 1983
日本海 1983
恋の彩 1983
ふたりの夢 1984
涙の最終列車 1984
陸の船乗り（ロンサムロード） 1984
夢待草 1984
恋慕夜曲 1984
恋瀬川 1984
愛しても今は他人 1985
命火 1985

港町純情 1986
竜二 1987
砂の城 1987
恋は火の川 1987
かもめの歌 1988
最終ひかり 1988
冬の恋歌 1988
下町夢しぐれ 1989
花束（ブーケ） 1990
カクテル 1991
愛を信じたい 1991
雪のれん 1992
カラス 1993
あかんたれ 1994
ラッキーマンの歌 1994
とおりゃんせ 1995
あんた逢いに来い 1996
泡沫～UTAKATA～ 1996
ミスターサムシングブルー 1997
ほんね 1997
男はつらいよ 1997
盛り場流れ唄 1998
あなたに乾盃 1998
風のブルース 1999
グアム慕情 2000
朧月夜 2000
あなたの背中に 2000
これからがある 2001
友の焼酎（さけ） 2002
哀しみよ 隣りで眠れ 2002
裸足のシンデレラ 2003 129位
新宿なみだ町 2003 84位
新宿なみだ町／おのれ道 2004
不知火酒 2004 77位
不知火情話 2005
白い花 2005
骨までしびれるブルースを 2006

女心と秋の空 2006

鰻谷 2007 179位 河島英五遺作

立ち呑み「小春」 2007 105位 円広志・曲

役者 2008

東京音頭～Remixed by J.P.～ 2008

昭和の歌など聴きながら 2008

シングル（デュエット）

別れの夜明け 共唱・石原裕次郎 1974

あした天気になーれ 共唱・千昌夫 2001

北原由紀というと、この曲は知っている、という人は多いだろう。彼女の声質と曲調が、よく合っているのだ。当時、かなりのヒットだった。名曲とっていい。ほかに、「嘘でもいいから」と「旅の手紙」「それでもいいの」は佳曲である。サビにおける特有の低めの節回しと、演歌では珍しいあっさりしたテイスト。コブシは少し使うが、揺らしなどは無い。まあ、テクニックの不足なのかも知れないけれど。長山洋子ほどの華華しさはないが、ポップス系から移行して成功した、稀な例だろう。ザ・シュークリームは、かなり売れたグループ（ぶりっ子のアイドル達よりも少し大人の、唄とダンスの。かなり、実力はあった。）で、テレビでこの時代の彼女はよく見かけた。もっとも、何を唄っていたのか、記憶が薄い。

（詞:千家和也 曲:市川昭介）

歳の違いが どうだと言うの 人の噂が 何だと言うの あなたと私に 愛さへあれば----

（収録プロフィール）

北原 由紀（きたはら ゆき、1952～ ）千葉県出身の、日本の歌手。現在は北原由紀として活躍。またNPO法人トレフルクラブで、福祉部長としてボランティア活動を行っている。

来歴

1970年、渡辺プロが売り出したアイドルグループ「ザ・シュークリーム」のメンバーとしてデビュー。当時の愛称は「イッコ」「イッちゃん」。他のメンバーには、ホーン・ユキ（ユキ）、清水クーコ（クーコ）、甲山暁美（ノロ）がいた。1973年に解散。

主な曲

「嘘でもいいから」 1977.10

「かしこい女じゃないけれど」 1981

「貴方の女でいたいから」 1993

「おんな川」 1994

*オフィシャル・ウェブより

私は平成十年に乳がんを患いました。死を意識する闘病生活の中で、家族の愛や友人の暖かい心に励まされ、今では元気に歌を唄うことが出来るようになりました。ガンを克服できた感謝をこめて、愛と勇気、そしてガンの早期発見を一人でも多くの方々に伝えたく、全国100ヶ所無料慰問コンサートを、行ってまいりました。ガンを克服できた感謝をこめて。

この曲は、1972のシングル・リストに出てはいるが、私は見かけたことがない。アルバム収録だけ?かも。たしか1972年ごろの、大谷直子主演の昼メロ「あの橋の畔で」の主題歌で、半年くらい、テレビでオンエアされた。名作の現代版を目指したらしいが、あまり話題になる事も無く終わってしまった。それと共に、この曲もフェードアウトしていった。けれど、それでは勿体無い、リズムカルで、ほのかな哀愁と、ほのかな希望が、胸に快い名曲である。タイトルを変えてでも、ぜひリメイクして欲しい。服部浩子、門倉有希、伊東ゆかり、三山ひろし、などに、ぴったりの曲である。

幸せもあの人も 一夜のゆめかしら 涙に濡れたままで ひとり街へ---寂しげにひとは探す 永久につきない真実を あの人をのいないこの街 明日は旅に出るわ

(収集プロフィール)

渚 ゆう子 (なぎさ ゆうこ、1945-) 歌手。大阪市浪速区出身。ハワイアン歌手としてレコードデビューの後、ベンチャーズ作曲・演奏の「京都の恋」を日本語の歌詞で唄って大ブレイクし、一躍人気歌手となった。幼い頃より沖縄民謡を歌い、高校卒業とともに"九葉真鶴"の芸名で琉球舞踊の踊り手に。しかし和田弘(マヒナスターズ)に見い出され上京、芸名を"渚ゆう子"と変えハワイアン歌手として活動後、67年「早くキスして」でデビュー。ブレイクのきっかけは、ベンチャーズ・ナンバーである「京都の恋」と「京都慕情」(どちらもインストだった)に歌詞を付けてレコード化するという企画で、その歌い手として抜擢されたことによる。しっとりとした大人の女の魅力ムンムンの歌唱により、どちらの曲も大ヒットを記録。71年には「さいはて慕情」で紅白歌合戦にも出場し、名実ともに頂点を極める。

81年に芸能界を引退し、家業であるお好み焼き屋を継いだが、95年には「北ホテル」で復帰。現在では老父の介護の合間に無料のカラオケ教室も開いたりして、悠悠自適ライフを送っている。

経歴

母親が沖縄、父親が大阪出身。幼少より両親の熱心な教育を受け、沖縄民謡と琉球舞踊を習熟する。「補正なしでは両耳がほとんど聞こえない」(興行先のスピーチにて)ハンディを持つ。

1964年 芸能界入り。

1965年 マヒナスターズの前唄で出演。そのとき、和田弘のすすめがあり上京。作曲家浜口庫之助に師事。ハワイアンを覚える。

1966年 「渚ゆう子」に改名。(名付け親はマヒナスターズの松平直樹)

1970年 ベンチャーズの「京都の恋」「京都慕情」を日本語の歌詞で唄って大ヒット。

1971年 筒美京平作曲の「さいはて慕情」でレコード大賞歌唱賞を受賞。NHK紅白歌合戦に初出場。

1972年 「風の日バラード」でNHK紅白歌合戦に二回目の出場。

1981年 (歌手としての第一線から一時引退)

1993年 「北ホテル」をリリース

1997年 「京都ひとり」をリリース

2008年 現在も東京を中心にステージ活動をこなす。

シングル

早くキスして (1967.06)

女の指輪 (1967)

思い出はチラチラ (1968)

二人の大阪 (1969)

とげのないバラ (1970)

京都の恋 (1970)

京都慕情 (1970)

さいはて慕情 (1971)

雨の日のブルース (1971)

長崎慕情 (1971)

めぐり逢い (1972)

今日からひとり (1972)

風の日バラード (1972)

何処へ (1972)

東京に三日、田舎に四日 (1973)

京おんな (1973)

かえり道 (1974)

北からの手紙 (1975)

居酒屋「すずらん」 (1976)

石を投げれば心に当る (1976)

大阪慕情 (1977)

おんなの語り唄 (1979.05)

愛をもとめて (1980.09)

しのび逢う京都 (1981)

北ホテル (1993)

京都ひとり (1997)

1980年、発売。彼女の歌唱表現の真骨頂は、「涙の連絡船」「愛しちゃって馬鹿みたい」「アンコ樁は恋の花」のような曲に顕れるのであろう。しかしすでに、やや時代的ズレを感じるのも、確かだ。今どきの若者が聞いたら、かなりエグイのでは？そこへいくと、この曲や「ふたりの大阪」「小樽運河」のような曲は、かなりの時間的耐久性を、持っている、優れた楽曲ようだ。

ひとりで生きてくなんて出来ないと 泣いてすがればネオンが...夢も濡れます/樽並木の堂島...雨よ帰して....

演歌は、身もだえの物語 (by山折哲雄) であるのに、全体に抑制を利かせた曲調。この唄のヒロインは、静かな諦念を、生活の基調にしているようだ。その柔らかな佇まいが、かえって心に深く響くのだ。この曲は、たとえば大阪を、新潟や熊本などに入れ替え、地名をそこの地元の名所に入れ替えれば、そう違和感なく、自分の街の唄として、楽しめそうだ。

(収集プロフィール)

都はるみ (みやこはるみ、1948年(昭和23年)2月-) は、日本の歌手。京都府生まれ。洛陽女子高等学校卒業。

略歴・概要

1964年、『困ることヨ』で、デビュー。同年『アンコ樁は恋の花』が大ヒット、日本レコード大賞最優秀新人賞を獲得する。うなり声のような力強いこぶし回しや、声を震わせるような繊細な歌唱法が独特で、幅広い表現力を持つ。昭和40年代~50年代にかけて数多くのヒット曲を生み、日本を代表する演歌歌手の一人となった。

1976年、『北の宿から』で日本レコード大賞など、数々の音楽大賞を受賞する。

1980年、『大阪しぐれ』で日本レコード大賞最優秀歌唱賞を受賞。

1984年、人気絶頂で「普通のおばさんになりたい」と引退宣言 (キャンディーズ引退時の有名な言葉を引用した)。

1987年、音楽プロデューサーとして活動再開。新人女性演歌歌手・大和さくらをデビューさせる。

1989年、サンデープロジェクト (テレビ朝日) に「普通のおばさん代表」として登場。コメンテーター及びスポーツコーナーのレポーターを務めるが、この時期に美空ひばりの訃報に触れ、印象的なコメントを番組内で発表。これを機に歌手復帰を決心する。

1990年、歌手復帰。従来の演歌にとらわれない幅広い作品も歌うようになる。

2004年、デビュー40周年を迎え、コンサートなど精力的な活動を続けている。

NHK紅白歌合戦出場歴

都はるみはデビュー2年目の1965年第16回NHK紅白歌合戦で初出場。以降、1984年第35回NHK紅白歌合戦での引退まで、20回連続で出場した(その間、1976年には「北の宿から」の大ヒットを背景に、それまで美空ひばりと島倉千代子の独壇場となっていた紅組トリの座を、12回目の出場ですべて射止めた)。

代表曲

アンコ椿は恋の花（1964.10）

涙の連絡船（1965.10）

好きになった人（1968.9）

北の宿から（1975.12）＊歌いだしのメロディがショパンの『ピアノ協奏曲第1番』を連想させる

。

大阪しぐれ（1980.2）

夫婦坂（1984.9）

小樽運河（1990.6 復帰シングル）

映画

アンコ椿は恋の花（1965年）

涙の連絡船（1966年）

男はつらいよ 旅と女と寅次郎（1983年、松竹）